

官報

號外

昭和四年三月六日

水曜日

內閣印刷局

第五十六回 帝國議會 衆議院議事速記錄第二十五號

昭和四年三月五日(火曜日)午後一時十九分開議

議事日程 第二十四號

昭和四年三月五日

午後一時開議

第一 昭和三年勅令第二百二十九號(治安維持法中改正ノ件)(承諾ヲ求ムル件)

第二 船舶職員法中改正法律案(政府提出)

第三 無線電信法中改正法律案(政府提出)

第四 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第五 資源調査法案(政府提出、貴族院送付)

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第七 鐵道營業法中改正法律案(政府提出)

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第九 同盟及聯合國ト獨逸國及其ノ同盟國トノ戰爭ニ因リ損害ヲ被リタル帝國臣民ノ追加救恤ニ關スル法律案(政府提出)

第十 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出)

第十一 製鐵所特別會計ニ於テ大藏省預金部ノ橫濱正金銀行ニ對スル債權ノ讓渡ヲ受クルコトニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 健康保險特別會計法中改正法律案(政府提出)

第十三 健康保險法中改正法律案(政府提出)

第十四 府縣制中改正法律案(政府提出)

第十五 市制中改正法律案(政府提出)

第十六 町村制中改正法律案(政府提出)

第十七 北海道會法中改正法律案(政府提出)

第十八 北海道地方費法中改正法律案(政府提出)

第十九 登錄稅法中改正法律案(政府提出)

第二十 北海道鐵道株式會社所屬鐵道外十三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)

第二十一 工場法中改正法律案(政府提出)

第二十二 癘病優遇ニ關スル法律案(三浦虎雄君提出)

第二十三 衛生組合法案(大里廣次郎君外八名提出)

第二十四 衛生組合法案(田崎信藏君外四名提出)

第二十五 傳染病豫防法中改正法律案(田崎信藏君外四名提出)

第二十六 衆議院議員選舉法中改正法律案(一見其郷君外一名提出)

第一讀會

第一讀會

第二十七 家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案(石井次郎君外五名提出)

第二十八 質屋取締法中改正法律案(鬼丸義齋君提出)

第二十九 古物商取締法中改正法律案(鬼丸義齋君提出)

第三十 刑法中改正法律案(牧野賤男君外二名提出)

第三十一 借家法中改正法律案(小久江美代吉君外二名提出)

第三十二 恩給法中改正法律案(山下谷次君外一名提出)

第三十三 市制中改正法律案(赤尾吉郎君提出)

第三十四 町村制中改正法律案(赤尾藤吉郎君提出)

第三十五 道路法中改正法律案(菅野善右衛門君提出)

第三十六 町村有建物火災保險相互組合法案(岩崎一高君外十六名提出)

第三十七 遠洋漁業獎勵法中改正法律案(原耕君提出)

第三十八 違警罪即決例中改正法律案(一松定吉君外二名提出)

第三十九 工場法中改正法律案(千葉三郎君外五名提出)

第四十 勞働組合法案(鈴木文治君提出)

第四十一 刑ノ執行又ハ拘留ニ因ル補償ニ關スル法律案(宮古啓三郎君外九名提出)

第四十二 陪審法中改正法律案(橫山勝太郎君外三名提出)

第一讀會

第一讀會

第四十三 衆議院議員選舉法中改正法律案(小久江美代吉君外四名提出)

第四十四 衆議院議員黨籍變更ニ關スル法律案(小久江美代吉君外四名提出)

第四十五 牧野法案(中島鵬六君外一名提出)

第四十六 健康保險法中改正法律案(西尾末廣君提出)

第四十七 國定教科書官給法案(樋口秀雄君外六名提出)

第四十八 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(星島二郎君外六名提出)

第四十九 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(田中義達君外六名提出)

第五十 六大都市ニ關スル法律案(鈴木吉之助君外十三名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

神部 爲藏君 坂東幸太郎君

菅村 大事君

川島正次郎君

筑波山霞浦ヲ中心トスル國立公園設定ニ
關スル建議案

提出者

飯村 五郎君 山崎 猛君
(以上三月二日提出)

「エスベラント」ヲ小學校及中學校教科目
ニ編入ニ關スル建議案

提出者

山下 文隆君 山下 谷次君
英 義彦君

財團法人日本エスベラント學會國庫補助
ニ關スル建議案

提出者

矢野 文隆君 山下 谷次君
矢野 力治君 英 義彦君

高知縣下ニ於ケル官行製炭事業廢止ニ關
スル建議案

提出者

坂本志魯雄君 矢野 力治君
中谷 貞賴君

鳥栖臼井間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

久恒 貞雄君 坂井 大輔君
穴水飯田間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者

佐藤 實君 青山 憲三君
私立中等學校國庫補助ニ關スル建議案

兵庫縣赤粟郡及神崎郡ノ聯隊區復舊ニ關
スル建議案

提出者

土井 權大君
相模川改修速成ニ關スル建議案

提出者

胎中楠右衛門君
決議案(遞相ノ處決ニ關スル件)

提出者

横山勝太郎君 高木益太郎君
野村 嘉六君 野田文一郎君
八木 逸郎君 山本 厚三君
松田 源治君 牧山 耕藏君
増田 義一君 小西 和君
藤澤幾之輔君 本田 恒之君

富田幸次郎君 小川郷太郎君
川崎 克君 田中 隆三君
頼母木桂吉君 永井柳太郎君
紫安新九郎君 森田 茂君
依 孫一君 大竹 貫一君
(以上三月二日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ
如シ
八重山山林開拓ニ關スル再質問主意書
提出者

漢那 憲和君 伊禮 肇君
宮崎市騷擾事件ニ關スル再質問主意書
提出者

三浦 虎雄君
(以上三月二日提出)

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲
茲ニ掲載ス〕

一 去二日內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリ
タル旨ノ通牒ヲ受領セリ

特許局長官 崎川才四郎
商工省所管事務政府委員被仰付

一 去二日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議
長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ

三九 中西六三郎君
四〇 岩切 重雄君
四一 太田信治郎君
四二 小寺 謙吉君
四三 岩崎幸治郎君
四四 崎山 武夫君
四五 鶴岡 和文君
四六 志波安一郎君
四七 八五

一 去二日理事補選結果左ノ如シ
決算委員會

理事 坂本志魯雄君(中島鵬六君二月
二十七日委員辭任ニ付其ノ補
關)

理事 漢那 憲和君(岡本幹輔君二月
二十三日理事辭任ニ付其ノ補
關)

肥料管理法案(政府提出)外一件委員
理事 安倍邦太郎君(理事村上國吉君
本月一日委員辭任ニ付其ノ
補關)

一 去二日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如
シ
特許法中改正法律案外三件委員

鈴木 英雄君 箸本 太吉君
須之内品吉君 小野寺 章君
櫻井兵五郎君 岸 衛君
伊禮 肇君 野中 徹也君
鬼丸 義齋君

酒造組合法中改正法律案委員

川口 義久君 蔭山 貞吉君
水久保甚作君 平井信四郎君
前田房之助君 中村 繼男君
作田高太郎君 三宅 利平君
原 耕君

一 去二日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
朝鮮簡易生命保險特別會計法案外三件委
員

辭任石坂 豐一君 補關久恒 貞雄君
關稅定率法中改正法律案外一件委員
辭任前田房之助君 補關坂東幸太郎君
鐵道敷設法中改正法律案委員

辭任佐藤 正君 補關田中千代松君
辭任石塚 三郎君 補關清水德太郎君
肥料管理法案外一件委員

辭任平川松太郎君 補關小山 谷藏君
辭任黑金 泰義君 補關小山 松壽君
米穀需給調節特別會計法中改正法律案委
員

辭任井本 常作君 補關森保 祐昌君
產業委員會法案委員

辭任大西 正幹君 補關三浦 虎雄君
未成年者飲酒禁止法中改正法律案外一件
委員

辭任山田 毅一君 補關野中 徹也君
一 昨四日理事補選結果左ノ如シ
米穀需給調節特別會計法中改正法律案
(三輪中太郎君外六十三名提出)委員

理事 谷口源十郎君(理事井本常作君
本月二日委員辭任ニ付其ノ補
關)

肥料管理法案(政府提出)外一件委員
理事 村上國吉君(理事平川松太郎君
本月二日委員辭任ニ付其ノ補
關)

一 昨四日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
特許法中改正法律案(政府提出)外三件委
員

委員長 鈴木 英雄君
理事 須之内品吉君 伊禮 肇君
酒造組合法中改正法律案(政府提出)委員
委員長 蔭山 貞吉君

一 昨四日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
酒造組合法中改正法律案委員

辭任川口 義久君 補關木村 清治君
辭任平井信四郎君 補關磯部 清吉君
肥料管理法案外一件委員

辭任瀨川 光行君 補關栗原彦三郎君
辭任石塚 三郎君 補關村上 國吉君
辭任小山 松壽君 補關則元 由庸君
昭和二年第一豫備金支出ノ件(承諾ヲ
求ムル件)外九件委員

辭任佐藤 正君 補關松村 謙三君
辭任鈴木 英雄君 補關青山 憲三君
辭任國枝拾次郎君 補關兒玉 右二君
米穀需給調節特別會計法中改正法律案委
員

辭任森保 祐昌君 補關谷口源十郎君
辭任小山 松壽君 補關西 英太郎君
辭任一宮房治郎君 補關小坂 順造君
辭任野田文一郎君 補關森保 祐昌君
關稅定率法中改正法律案外一件委員

辭任坂東幸太郎君 補關前田房之助君
特許法中改正法律案外三件委員

辭任鬼丸 義齋君 補關石坂 豐一君
辭任箸本 太吉君 補關鈴木 安孝君
辭任石塚 三郎君 補關鬼丸 義齋君
辭任鈴木 安孝君 補關著本 太吉君
府縣制中改正法律案外三件委員

辭任藤井 達也君 補關沖島 鎌三君
○議長(元田肇君) 是ヨリ會議ヲ開キマ
ス、御諮リスルコトガガイマス、第四部
選出決算委員坂本一角君、第四部選出請願
委員國枝拾次郎君、右常任委員辭任ノ申出
ガアリマシタ、之ヲ許スニ御異議アリマ

セヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(元田肇君) 御異議ナシト認メテ許可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補缺選舉ヲ行ヒ、議長マデ御届出アラシコトヲ望ミマス、小泉策太郎君病氣ニ付、三月五日ヨリ三月十三日迄請假ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(元田肇君) 御異議ナシト認メテ許可致シマス、本日ハ質問日デゴザイマスルガ、都合ニ依リマシテ質問ハ之ヲ延期致シマス、此段御諒承ヲ願ヒマス、日程第一、昭和三年勅令第二百二十九號、承諾ヲ求ムル件ノ前會ノ續ヲ開キマス、當時内ヶ崎作三郎君ノ發言中デアリマシタカラ、同君ノ發言ノ繼續ヲ許シマス

第一 昭和三年勅令第二百二十九號(治安維持法改正ノ件)(承諾ヲ求ムル件)

〔前會ノ續〕

〔内ヶ崎作三郎君發言〕

○内ヶ崎作三郎君 去ル二日ノ夜ノ討論ニ讀ミマシテ、本案ニ對スル私ノ意見ヲ述ベヤウト思フデアリマス、相成ベク簡潔ニ申シタイト思フデアリマスカラシテ、何卒御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス(拍手)私ノ議論ノ前半ハ、憲法ノ解釋及其間ニ處シタル政府當局ノ態度ニ對スル批評ヲ試ミタルデゴザイマスルガ、私ノ意見ノ後半ハ、第一外交問題ト關係シテ、第二社會問題ト立場ヨリ、第三ハ國體觀ト關係致シマシテ、意見ヲ述ベヤウト思フデアリマス、第一外交ニ關スル意見デゴザイマスルガ、是ハ詳細ク申上ダヤウト思ヘバ、限リノナイ問題デゴザイマスルカラシテ、極メテ簡潔ニ端緒ヲ意見ヲ述ベテ見タイト思フデアリマス、大正十四年ノ一月二日露基本條約ガ成立致シマシテ、兩國ノ國交ガ恢復致シマシテ、我國ハ相當ノ利權ヲ獲得スルコトガ出來タデアリマス、然ルニ其後現内閣ガ成立致シタデアリマスガ、私共第三者トシテ觀察致シテ居リマスルガ、勞農政府ハ田中外交大臣ノ外交方針ニ對シテ好マ

シカラザル思フ致シテ居ルヤウニモ考ヘラレルデアリマス、ソレハ西伯利亞兵以來色ニナル關係ガゴザイマシテ、田中内閣ニ對シテハ幾ラ感情ヲ好クシテ居ラナイト云フヤウニ私共ガ見ルノハ、必シモ僻目デハナイト思フデアリマス、ソコデ第三「インターナショナル」ガ、我國ニ對シテ赤化宣傳ヲ開始シタカトモ思ハレルデアリマス、又政府ノ立場ト致シマシテハ、我國ノ利權中最モ大切ナル所ノ漁業ニ關スル協約ノ交渉ガ紛々シク參ラナイモノデアリマスカラシテ、一昨年ノ暮ニ或ハ後藤伯ヲ莫斯科ニ派遣シ、或ハソレニ先ジテ久原房之助君ヲ現内閣ノ特使トシテ、勞農政府ニ派遣シタヤウナコトガアッタデアリマス、然ルニ現内閣ハ斯ル親善ノ態度ヲ勞農政府ニ示シタモノデアリマスカラシテ、勞農政府——トハ申上ダマセヌケレドモ、第三「インターナショナル」ハ此間ニ乗ジテ、又我國ニ對スル赤化運動ヲ開始シタカトモ想像サレルデアリマス、ソレハ單ナル想像ニ止マラナイデアリマシテ、昨午四月十一日ノ倫敦「タイムズ」ニ「勞農露西亞日本」ト題シマシテ短記事ガ載ッタデアリマス、ソレニハ斯ウ記シタル位置ハ極メテ薄弱ナルニ反シテ、日本ハ極東露領ニ於テ各種ノ利權ヲ獲得スベク奔走シタ、其結果ガ所謂日露ノ接近ト親善ナルモノガ濃厚トナリ、後藤子爵其他ノ莫斯科訪問トナツタ、同時ニ日本官憲ノ取締モ緩慢トナツタ、露西亞ハ之ヲ機會トシテ、竊ニ日本赤化ノ陰謀ヲ進メ、遂ニ今回ノ結果トナツテ現レタデアリマス、今回ノ結果トナツテ現レタト云フコトハ、言フ迄モナク昨年三月十五日、日本共產黨ノ大檢舉ヲ行ヒマシタルコトヲ申シテ居ルデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラシテ、田中内閣ニ對シテハ、勞農政府トハ申上ダマセヌカ、第三「インターナショナル」ハ、何トカシテ少シ之ヲ苦シメテヤラウト云フヤウナ態度ヲ執ッテ居ルヤウニ考ヘラレルデア

アリマス、要スルニ田中内閣ノ續ク限リハ、中ニ此感情ト云フモノハ容易ニ緩和サレサウニモ見エナイデアリマス、而シテ現政府ハ一方ニ於テ赤化宣傳ヲ防止シテ居リマスケレドモ、他方ニ於テハ却テ之ヲ刺激スルガ如キ立場ニ立ッテ居ルト云フモノデアリマスルガ故ニ、單ナル治安維持法ノ改正ニ依テ赤化宣傳ヲ根本的ニ絶滅スルコト云フコトハ、不可能ノ事デハナイト云フイカト思フデアリマス(拍手)尙ホ此問題ニ付キマシテハ、色ニ詳シイ事ヲ申上ダタルデアリマスケレドモ、事外交ニ屬スル問題デゴザリマスルカラシテ、私ハ相成ベク遠慮ヲ致シマシテ、斯ノ如ク手短カ申上ダタノデゴザリマスルカラシテ、ドウカ私ノ言外ノ意ヲ想像セラレンコトヲ希望スルデアリマス(拍手)次ニ第五十五議會ニ於テ決議ナリマスタル所ノ思想國難ニ關スル決議案ニ對シマシテ、現政府ハ果シテ誠意ヲ示シテ居ルヤウ否ヤト云フコトヲ調べ見タイデアリマス、其思想國難ニ關スル決議案ノ中ニハ、ドウ云フコトガ述ベデアッタカト申セバ、繰返シテ申上ダル必要ハナイデアリマスルケレドモ、話ノ順序トシテ之ヲ繰返スデアリマスルガ、單ニ刑罰ノミニ依テ惡思想ヲ撲滅セント欲スルモ、到底其目的ヲ達スル能ハザルコトハ、古今内外事跡ノ證明スル所デアリ、ソコデ共產黨事件ニ對シテ政府ガ刑罰ノミヲ以テ之ニ臨ムハ不可ナリ、宜シク其環境ヲ改善スルノ途ヲ講ゼザルベカラズト、神聖ナル院議ヲ以テ決定シテ居ルデアリマス、而モ是ハ殆ド全院一致ノ決議デゴザリマス、又坊間傳ヘラレテ居ル所ノ樞密院ノ決議ト稱スルモノ、中ニモ、各般ノ社會施設ヲ完備シテ、國民生活ノ安定ヲ圖ルベシト云フ警告ガアルデアリマス、然ルニ是等ノ決議ニ對スル政府ノ態度ハ、果シテ忠實デアッタト云ヘルデアリマセウカ、政友會ト實業同志會トノ政策協定ニ基ク所ノ所謂救護法案ナルモノモ、未ダ此議會ニ提出サレテ居ラナイデアリマス、又現内閣唯一ツノ社會政策立法デアル所ノ勞働者保護扶助

法案モ、目下特別委員會ニ於テ審査サレテ居ルデアリマスケレドモ、果シテ是如何時ニナツテ本會議ニ廻ッテ參ルモデアリマスルカ、心細イ次第デゴザイマス、是ハ政府ノ社會政策ノ施設ト云フモノハ、全ク皆無ト云ハザルヲ得ヌデアリマス、苟モ思想惡化ノ根本原因ヲ除カズシテ、單ニ嚴罰ノミヲ以テ之ニ對セントスル程、恐ルベキ行動ハナイト思フデアリマス(拍手)院議ヲ無視シ、樞密院ノ決議ヲ蔑視スル、是以上ノモノハアルマイカト考ヘラレルデアリマス、成程政府當局者ハ社會政策ノ施設ヲ施シタルケレドモ、其財源ハカイ、無イ袖ハ振ラレナイト申サレルカモ知レヌデアリマス、然ラバ何チ好ンデ此際兩稅委譲ヲ敢テ斷行シナケレバナラヌデアリカ、又政府ニ金ガナイト云フナラバ、富豪ヲ勸誘シテ多額ナル所ノ寄附金ヲ募テ、サウシテ何等カノ社會政策ノ施設ヲ行フコトガ出來ルデアルト思フデアリマス

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜ニ願ヒマス

○内ヶ崎作三郎君(續) 今日ハ富豪階級ノ中ニモ相當進歩的ノ考ヲ抱イテ居ル人多イデアリマス、悅シク社會政策ノ爲ニハ多額ノ金ヲ寄附スル人ガ少ナイト思フデアリマス、要スルニ政府當局者ハ熱心ヲ示セバ少ナカラザル所ノ效果ヲ奏スルコトガ出來ルカト思フデアリマス、彼ノ鐵血宰相ト謳ハレタル普魯西ノ「ビスマルク」ハ如何デアリマシタカ、最初ハ社會主義ヲ壓迫シタデアリマス、却テ其權頭ヲ援ケタデアリマス、故ニ後ニハ社會政策ヲ實行スルコト、ナリマシテ、サウシテ思想ノ惡化ヲ豫防シタデアリマス、千八百八十四年ニハ勞働者疾病保險法並工場負傷保險法ヲ制定致シマシタ、千八百八十九年ニ勞働者養老保險法ヲ設ケタデアリマス、又現在ノ英國ニ於キマシテハ、議會ハ依然トシテ國民多數ノ信頼ヲ博シテ居リマシテ、彼ノ勞働黨ヲ以テシテモ、一歩タリトモ合法ノ改革手段以外ノ方法ニ出デシメナイデア

アリマスガ、是ハ要スルニ英國歴代ノ内閣
ガ時勢ヲ推移ヲ洞察シ、絶エズ適當ナル社會
政策ヲ行フテ居ルカラデゴザリマス、即チ千
九百十一年及千九百二十年ニ制定セラレタ
ル失業保險法、又昔カラ存在シテ度々改
正セラレタル救済法、千九百八年初メテ制
定セラレテ、其後度々改正ヲ見タル養老保
險法、千九百二十五年ノ寡婦及孤兒年金保
險法、千九百二十二年ノ健康保險法等ハ即
チ之ヲ語ルモノデアリマス、英國ニ於ケル
議會政治ガ指ガス基礎ヲ有スルノハ、他ニ
種々ナル原因ガアルノデアリマスガ、主ト
シテ此時勢ニ應ジタル徹底的社會政策ガ行
ハレテ居ル事ニ原因ヲ有シテ居ルノデアリ
マス、然ルニ田中内閣ノ此方面ニ於ケル施
設ハ、既ニ述ベタルガ如ク、全ク何等見ル
ベキモノハナイノデアリマス(拍手)院議ヲ
無視シタル點ニ於テ責ムベキハ當然デゴザ
リマスガ、思想惡化ノ根本の原因ヲ除去ス
ル諸種ノ具體的方法ヲ講ゼズシテ、單ニ嚴
罰ノミヲ以テ思想國難ニ對セントスル政府
ノ時代錯誤の頭腦ニ憫マサルヲ得ナイノデ
アリマス(拍手)私ハ現内閣ガ果シテ複雜紛
糾セル新時代ノ諸事象ヲ處理スル能力アリ
ヤ否ヤト衷心ヨリ疑ハザルヲ得ナイノデア
リマス、尙ホ之ニ關聯致シマシテ、政府當
局ノ注意ヲ喚起セバナラナイ事ハ、就職
難及失業問題デアリマス、我國ノ産業ハ歐
洲大戰中ノ極度ニ膨脹發達シタノデアリマ
ス、學校ノ卒業生ハ羽ガ生エテ飛バヤウニ
賣レタノデアリマス、然ルニ大正九年ノ經
濟界ノ反動以來不景氣時代ガ繼續シテ、今
日ハ供給過剩ノ狀態ヲ呈シテ居リマス、全
國ノ大學及專門學校ノ卒業生ハ、毎年二万
人ニ達シテ居ルノデアリマス、其殆ド
半數ハ職業ヲ見出スコトガ出來ナイ、誠ニ
氣ノ毒ナル境遇ニ置カレテ居ルノデアリマ
ス、勤勞ヲ欲シテ尙ホ職業ヲ得ル能ハザル
コトハ、國家及政府ノ責任ナリト謂ハナケ
レバナラナイノデアリマス、而シテ此問題
ヲ解決スルニアラザレバ、青年學徒ノ思想
ハ益々惡化スルベカリデアルト思フノデア
リマス、而シテ政府ハ之ニ對シテ何等ノ對

策アリヤヲ聽カナイノデアリマス、如何ニ
シタナラバ此問題ヲ解決スルコトガ出來
ルカト言ヘバ、今上陛下ノ朝見式ニ賜ハリ
タル御勅語ノ御精神ニ基キ、即チ模範ヲ戒
メ、創造ヲ勵メテ、新ラシキ産業ヲ創始ス
ルヨリ外ニ方法ハナイト思フノデアリマ
ス、私ハ不幸ニシテ未ダ商工當局者ガ此方
面ニ向テ顯著ナル努力ヲ爲シツ、アルコ
トヲ聽カナイノデアリマス、サレバ斯ル無
爲無能ノ政府ニ依テ爲サレタル所ノ治安維
持法ノ過重の改更ハ、徒ニ窮鼠ヲ驅テ猶ヲ
嚙マシムルガ如キ危險ナル結果ヲ惹起スノ
デハナイカト思ハレルノデアリマス(拍手)
最後ニ國體ノ根本義ト治安維持法改正案ト
ノ關係ニ付テ意見ヲ述ベタイト思フノデア
リマス、今更ニ上グル迄モナク、我が國體
ハ萬世一系ノ皇室ヲ奉戴シテ、上下心ヲ合
セ、其建國ノ理想ヲ實現シ、併セテ其道德
的、人道的使命ヲ達成スル事デアルト思フ
ノデアリマス、國體ノ尊嚴ハ種々ナル原因
ニ依テ、三千年ノ傳統ヲ背景トシテ、我が
民族ノ鞏固ナル信念ノ對象トナツテ居ルノ
デゴザリマス、併ナガラ、其原因ノ一ツニ
ハ、國家民族ニ取テ大問題ノ發生シタル
場合ニハ、皇室ハ常ニ其指導の解決者ノ位
地ニ立タレマシテ、國家民人ヲシテ其幸福
ニ浴スルコトヲ得セシメ給ハリタル點デア
ルト考フルノデアリマス、例ヘバ大化ノ
革新、明治維新ノ如キ、其顯著ナル例デアリ
マス、大化ノ改新ハ如何ニシテ生ジタノデ
アリマスカ、家長制度、氏族制度ノ弊ガ極
端ニ達シマシテ、豪族ガ各、土地ヲ所有シ、
及人民ヲ使役致シマシテ、國家ノ節度ニ服
セナイ者ガアリマシテ、動モスレバ無政府
ノ狀態ニ陥ラントシタノデアリマス、而シ
テ天下ノ百姓ハ豪族ノ爲ニ奴隸ノ如ク虐使
セラレタノデアリマス、此時ニ當テ孝德天
皇ハ中大兄皇子ノ輔弼ニ依テ、中央集權ノ
郡縣制度ヲ確立シ、土地國有ヲ斷行シ、天
下蒼生ヲ公民トシテ愛撫シ給フタノデアリ
マス、又武家專制ノ封建制度ガ病膏
育ニ入ッテ、殆ド濟度スルコトガ不可能
ノ狀態ニナリマシタル時、天下勤王ノ士ハ

明治大帝ヲ奉戴シテ、王政復古ノ偉業ヲ完
成シ、明治新文化ノ根柢ヲ築イタノデアリ
マス、其他儒教及佛教ノ傳來シタル時、之
ヲ攝取シテ國民文化ノ内容ヲ豐富ニセラレ
タルハ、偏ニ皇祖皇宗ノ遺德ニ倚タノデア
リマス、元寇ノ役、日清、日露ノ戰役ノ如
キ、國家ノ運命ヲ賭シタル國難ニ際シテハ、
皇室ハ常ニ其中心ノ地位ニアツテ國民ノ爲
ニ勝利ノ鍵ヲ與ヘ給フタノデアリマス、明
治ノ初年自由民權、議會政治ノ要望甚ダ盛
ニナリマシタル時ニ之ニ憲法ヲ與ヘ、帝國
議會ヲ設ケ、更ニ進シテ普通選舉法ヲ御裁
可ニナリマシタハ、明治天皇及大正天皇ノ
大ナル御事業デアリマス、然ルニ之ニ反シ
テ露西亞ノ「ニコラス」二世ノ如キ、獨逸ノ
「ウィルヘルム」二世ノ如キハ、民意ヲ無視
シ、議會ノ要望ヲ斥ケテ、遂ニ没落ノ運命
ヲ辿リテ居ルコトハ私ヨリ申上グル必要モ
ナイノデアリマス、然ルニ我が皇室ハ降々
トシテ益々御繁榮遊バサレマシテ、旭日沖天
ノ勢ヲ示サレテアルコトハ、寔ニ故アル哉
ト申上ダナレバナラナイノデアリマス、
(拍手)
〔朗讀ヲ止メ給ヘ〕其他發言スル者多
シ
○議長(元田肇君) 靜肅ニ
○内々崎作三郎君(續) 而シテ現代ノ國家
民族ノ大問題ハ何デアリマスカ、即チ現代
文化ノ基調ハ社會維新ト云フ言葉ヲ以テ表
現スルコトガ出來ルノデアリマス、此文化
ノ特色ノ一ツハ法制ノ社會化デアリマス、
普通選舉法ノ成立ト、陪審法ノ實施ガ之ヲ
證明シテ餘リアルノデアリマス、第二ノ特
色ハ産業ヲ中心トシ、勞働ヲ本位トスル社
會ヲ進化デアリマス、第三ノ特色ハ各國家
ヲ貫通シ浸透シ、之ヲ包圍スル大社會ノ出
現デアリマス、要スルニ産業ト資本ト勞働
トガ國際化スルニ至ラタノデアリマス、世界
大戰以來各國家ハ政治のニハ獨立スルコト
ガ出來ルケレドモ、經濟のニハ互ニ相倚リ
相助ケテ、世界ヲ舉ゲテ一國家トナル觀ガ
アルデアリマス、換言スレバ將來世界各
國ハ共同シテ互ニ國民ノ自由ト權利トヲ尊

重シ、組織のニ共存共榮ノ原則ヲ適用シナ
ケレバナラナイ時勢トナツタノデアリマス、
斯ル時代ニ善處スル爲ニハ、一面ニハ忠勇義
烈ナル愛國の良心ガ必要デアリマス、他方
ニ、他方ニ於テハ公明正大ナル人道の良心
ガ必要デアリマス、近頃最モ進
歩シタル、又最モ信頼スルニ足ル所ノ學者
ノ間ニ於テ、此意見ガ行ハレテ居ルコト云
フアルト思フノデアリマス(拍手)然ラバ近時
最モ重大ナル國家民人ノ大問題デアアル所ノ
社會問題ヲ解決シ、國民生活ノ安定ヲ圖ル
ト云フ爲ニハ、八千万同胞ハ茲ニ又我が皇
室ヲ奉戴シテ、此目的ノ解決ヲ爲サケレ
バナラナイノデゴザリマス、我が皇室ハ過去
三千年ノ間常ニ國民ニ率先シ給ウテ幾多ノ
大問題ヲ解決セラレタノデアリマス、社會問
題ヲ解決シテ、八千万同胞ノ生活ノ安定ヲ
圖ル爲ニハ、皇室ハ必ズ國民ノ中心トナ
テ、吾々ヲ指導シ給フコトヲ信ジテ疑ハナ
イノデアリマス(拍手)サレバ所謂思想國難
ノ今日ニ於キマシテハ、皇室ヲ奉戴シテ國
體ノ精華ヲ發揮スルコトニ、御互ニ力メナ
ケレバナラナイノデアリマス、然ルニ田中
内閣ハ消極的方法以外ニ何等積極方法ヲ講
ジナイノデゴザリマシテ、社會思想ノ狂瀾
怒濤東海ノ天ヲ浸サントスル今日ニ於キマ
シテハ、國民ヲ指導スル能力ナキモノト判
斷セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)殊ニ
昨年ハ、今上陛下ノ御即位式ヲ控ヘテ居
タノデアリマス、政府當局者ガ灰モカシテ
居ルノデアリマス、此事ニ付テモ意見ヲ述
ベタイノデゴザリマス、成程御大典ヲ中心
トシテ、政府當局者ガ日夜心懸ク碎カレマ
シテ、御警衛ノ上ニ於テ萬般漏レナク行ハ
レタト云フ功績ニ對シテハ、吾々國民トシ
テ感謝ノ意ヲ表スルニ吝ナラザルモノデア
リマス、然レドモ幸カ不幸カ現内閣ハ緊急
勅令ヲ發布シテシマッタノデゴザリマス、故
ニ中外ヲシテ政府ハ餘リニ心配ヲシ過シタ

ノデハナイカト疑ハシメタノデゴザイマス、
苟モ八千万同胞ノ仰ギ奉ル 今上陛下ノ曠
古ノ御大禮ヲ前ニシテハ、如何ニ深キ雲霧
ガ閉罩メマシテモ、忽ニシテ霧渡リマシテ、
朗ラカナ天日ヲ仰ギ奉ル感ヲ抱カシムルコ
トハ確信致スノデゴザイマス、勿論不逞ノ
輩ニ對シテハ宜シク嚴罰ヲ以テ處斷スベキ
デアリマス、併ナガラ態之ヲ仰々シク、
表向キニ取沙汰ヲ致スト云フコトハ、却テ
或ハ御遠慮申上グル方ガ宜イノデハナイカ
ト考ヘラレルノデゴザイマス、明治天皇ノ
御製ノ中ニハ「罪アラバ我ヲ咎メヨ天津神
民ハ我身ノ生ミシ子ナレバ」ト云フ御製ガ
アルノデゴザイマス、聖恩ハ廣大ニシテ無
邊、山ヨリモ高ク海ヨリモ深ク一切ノ民草
ヲ其慈愛溢ルル御胸ノ裡ニ抱カレ給フノデ
アリマス、皇室ノ尊嚴ト國體ノ精華ハ茲ニ
其源泉ヲ有スルノデゴザイマス、抑、共產
黨ハ特權階級ノ轉覆ヲ目的トスルノデゴザ
リマス、然ルニ我ガ皇室ハ或ル特殊階級ノ
ミヲ慈ミ給フト云フコトハナイノデゴザリ
マシテ、有ユル階級ニ對シテ一視同仁ノ大
御心ヲ持テラレルノデアリマス、即チ一
君萬民ノ理想ヲ實現シ給フタノデゴザリマ
ス、斯ル神聖ナル抱擁力ニ對シテハ、共產黨
ト雖モ結局ヒレ伏シテ仕ヘ奉ルヨリ外ハア
ルマイト思フノデアリマス、繰返シ申上
ダマス、國體ノ變革ヲ、宣傳及陰謀ニ依テ
之ヲ遂行セントスル者ニ對シテハ、素ヨリ
重刑ヲ以テ之ニ臨マナケレバナライ、併
ナガラ我ガ國體ハ力ト共ニ德ヲ重ンジサセ
給フノデゴザリマシテ、寬嚴宜シキヲ得、
恩威並ビ行ハル、ノデアリマス、而シテ不
幸ニシテ田中内閣ハ國體ノ精華ヲ中外ニ發
揚スベキ空前ノ好機會ヲ逸シタルコトハ、
私ハ遺憾千萬ナリト思フノデアリマス、私
ハ去ル二日ノ夜ノ討論ニ於キマシテ、憲法
論ニ基イテ私ノ意見ヲ述ベタノデゴザリマ
スルガ、今日ハ只今述ベマシタルガ如キ外
交關係ノ紛糾、本院決議ノ無視、並ニ國體
ノ精華ヲ發揮シ積極的方法ヲ講ズル能ハザ
リシコトヲ指摘シテ政府ノ反省ヲ求メ、處
決ヲ促ス意味ニ於テ本案ニ反對スルコトヲ

重ネテ聲明スル者デアリマス
○議長(元田肇君) 眞鍋勝君
(眞鍋勝君登壇)
○眞鍋勝君 我ハ只今問題ト相成テ居リ
マスル所謂緊急勅令其モノ、内容自體ニ對
シテハ異論ハアリマセヌ、サリナガラ政府
ノ執リタル其手續、其見解ニ對シテハ聊カ贊
成シ兼ネル所ノ點ガアルノデアリマス、仍
テ警告ヲ付シ、而シテ此案ニ承諾ヲ與ヘン
トスルノデアリマス、抑、議會政治ヲ認メタ
ル憲法政治ニ於キマシテハ、國民ノ權利義
務ニ關スル重要事項ハ、必ズ議會ノ決議ヲ
經ナケレバナラヌコトハ明ナルコトデアリ
マシテ、殊ニ懲罰法規ノ制度改廢ニ付キマ
シテハ、憲法制度ノ發達ト、罪刑法定主義
ノ沿革ヨリ致シマシテ、當然議會ノ決議ヲ
經ナケレバナラヌコトハ、是亦明ナコトデ
アリマス、而シテ是ガ例外ハ所謂緊急勅令
デアリマス、即チ本議會ヲ經ベキコトヲ經
ズニヤルノデアリマスカラシテ、正ニ一大
例外デアアルノデアリマス、而シテ此根據デ
アリマス所ノ憲法第八條ニハ「緊急ノ必要
ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ」トアル
バカリデアリマスカラシテ、政府ガ緊急ノ
必要ト認メタナレバ、議會閉會ノ場合ニハ
何時デモ勝手次第ニ發令スルコトガ出來ル
ヤウニモ見エラレルノデアリマス、而シテ又學
者ノ中ニモ此見解ヲ執テ居ル者モアリマ
シテ、此點ヨリ申シマスレバ私モ亦異論ハ
ナイノデアアル、サリナガラ無論同條ニハ議
會開會ヲ待ツ能ハズナドト云フ、所謂憲法第
七十條ニアルヤウナ字句ガアル譯デアアリ
マセヌ、サリナガラ元來緊急ノ必要アリ、
議會ノ議決ヲ要スル法律ニ代ル勅令デアリ
マスル點カラ見マシテ、斯様ナ字句ノ明記
ハアリマセヌニ致シマシテモ、事態ノ切
迫、議會ヲ待ツコトガ出來ナイ場合ニ限リ
マシテ、許サレモノト解釋スルノガ當然
デアルト信ズルノデアリマス、之ヲ議會開
會ヲ待テルノニ、ソレニ頓著ナクヤルト云
フコトニナリマシタナラバ假令同條第二項
ニ依リマシテ、次ノ議會ニ提出シテ其承諾
ヲ求メル條件ハアリマシテモ、議會ノ不承

諾ト云フコトハ將來ニ向ッテノ效力ヲ失
フバカリデアリマスルガ、發令後議會ノ不承
諾ノ間ハ立派ニ效力ガアルノデアリマスカ
ラシテ、萬一亂暴ナル所ノ爲政者ガ現ハレ
マシテ、此緊急勅令ヲ濫用スルニ於キマシ
テハ、事甚大ニナル虞ガアルノデアリマ
ス、一體憲法第八條ノ所謂緊急ノ必要ト云フ
コトハ、事態ノ切迫、一日ヲ緩ウセバ公共
ノ安全危殆ニ陥リ、國民ノ災厄避クルコト
ヲ得ザル場合ヲ謂フノデアリマス、然ルニ
是ガ昨年四月議會ニ提出致サレマシテ、政
府ハソレ程其通過ニ努力セズ、審議未了ノ
儘閉會ヲ致シマシタ、其後内部ニ反對ガア
リ、或ハ其他ノ種々ノ政府ノ都合デ勝手ニ
延ビテ致シマシテ、四十日ヲ經過シテ漸
ク樞府ニ提出ニナリ、六十日ニシテ初メテ
緊急勅令ヲ發布ト相成タノデアリマス、
而シテ世論ハ政府ハ議會恐怖病ニ罹ッタノ
デアルト爲シ、輿論ハ明ニ緊急勅令ニ對シ
マシテ反對ヲシテ居タヤウニ考ヘマス、尤
モ大丈夫天下ノ國策ヲ爲サントスルニ當リ
マシテハ、世論ヲ顧ミル必要ハナイカモ知
レマセヌ、サリナガラ政府ハ此世論ヲ恐レ
タカノ如キ觀ガアルノデアリマス、即チ議
會ヲ恐怖シ、世論ヲ恐レタヤウナ觀ガア
タノデアリマスルガ、吾人モ亦所謂政府ノ
説明ヲ以テ致シマシテハ、如何ニモ尤デア
ルトシテ満足ガ出來ヌモノガアルノデアリ
マス、否如何ニ考ヘマシテモ、此緊急勅令
ナクシテハ此半年ノ間ニ國體變革ノ烽火揚
リ、我ガ國體ノ危ウカレベキ事態ガ起ラン
トスル兆候ガ迫リ來リツ、アルト云フコト
ハ、考ヘ得ラレナカッタノデアリマス、否正
直ニ申シマスレバ、共產黨事件ヲ取扱フニ
際シマシテ政府ノ執リマシタ見解、即チ政
府自ラ之ヲ吹聴セシコトハ、爲政者トシテ
當ヲ得タモノデアアルカ如何、私ハ此點ニ付
テ深ク之ヲ疑ヒ、竊ニ政府ニ經國ノ見識ヲ
懷ク人ナキヲ惜ミ、殊ニ本員ハ母校出身ノ
俊才トシテ、且ツハ法曹界ノ鬼才トシテ現
内閣ノ閣僚中最モ尊敬スル原法相ノ爲ニ惜
ムノデアリマス、斯ク觀察スル所以ノモノ
ハ、我國ハ建國三千年皇統連續トシテ萬國

無比ノ國體デアリ、古來我國ハ儒教來ラバ
之ヲ採リ、佛教渡レバ之ヲ容レ、之ヲ同化
シ、其長ヲ採リ其短ヲ補ヒ、神儒佛ノ融合
ハ日本固有ノ精神ト爲リ、斯ノ如クニシテ
東洋三千年ノ精神文化ハ元ト支那ニ發達致
シマシタモノヲ、我國ガ之ヲ繼承スルコト
ニ相成リマシタ、即チ西洋ニ於キマシテ物
質文明ヲ誇ル者ガアレバ、我ハ燦タル東洋
三千年來ノ精神文化ガアルノデアアル、我ガ
萬國無比ノ國體ト、此東洋三千年來ノ精神
文化ヲ有スル所ノ我國ニ於キマシテハ、健
全ナラザル思想ガアリマシタト致シマシテ
モ、私ハ斯ク政府當局者ノ如ク憂ヘルコト
ハナカッタノデアリマス、否我ガ七千万國
民ト共ニ、我ガ此世界ニ誇ルベキ所ノ此方
國無比ノ國體ヲ有シ、此國民精神ヲ提デ
テ、我國體ニハ微動ダモナシト信ジテ居ル
ノデアリマス、サリナガラ今日ノ世態ヲ見
マス、憂國ノ士ノ言フガ如ク、人心ハ浮
薄輕佻ニ陥リ、世道日ニ危ク、人心月ニ微
ナリト云フ狀態ナキニシモアラズ、現在我
國ニ於テ共產黨運動ノ相當ニ擴テ居ルコ
トハ事實デアリマス、苟モ我ガ金甌無缺
大日本帝國ニ於キマシテ、千古不易ノ尊嚴
ナル所ノ國體ノ變革ヲ企テントスルガ如
キ者ハ、一人アツテモ國史上ノ一大汚點デア
リマス、空前ノ大事變デアリマス、朝野
舉ゲテ其撲滅ニ力ヲ盡サナケレバナラヌ
デアリマス、殊ニ大戰以來破壞思想ノ浸潤
シ來リマシテ、或ハ大逆事件トナリ、或ハ
各種秘密結社ノ計畫トナリ、遂ニ昨年ノ共
產黨事件トナッタノハ、寔ニ設想ニ堪ヘザル
モノガアルノデアリマス、事此ニ至リタル
以上ハ速ニ是ガ善後ノ處置ヲ講ジ、之ヲ一
掃スルニハ政府ト云ハズ、國民ト云ハズ、
一致協力餘ス所ナキヲ努メナケレバナラヌ
ノデアリマス、是レ恐クハ忠誠ナル全國民
ノ意思デアルト信ズルノデアリマス、即チ
是ガ吾人ノ内容自體ニ異論ナキ所以デア
ルノデアリマス、併ナガラ之ニ對シテ執ルベ
キ處置方策ト云フモノハ、決シテ奮ニ之ヲ
以テ満足スルコトハ出來ナイノデアリマ
ス、恐クハ政府ト雖モ死刑法ヲ制定致シマ

シタナラバ、危險思想ハ立ロニ絶滅スル
トハ考ヘテ居ナイノデアリマセウ、要スル
ニ問題ノ眼目點トスル所ハ國民ノ弛緩セル
所ノ精神ヲ緊張シ、汚濁セル思想ヲ其源ニ
歸ラシメ、以テ益、國民ノ國家の信念ヲ確實
ニシ、之ヲ作興シ、將來永遠ノ基礎ヲ固定
スルニ在リ、此事タル洵ニ言フニ易ク行フ
ニ容易ナラザル所デアリノデアリマス、要
スルニ此三千年來ノ我が國體ヲ——益、國
家ヲ泰山ノ安キニ置クト云フコトが大眼目
デアリノデアリマス、然ルニ是ガ對策トシ
テ如何ナル嚴法ヲ制定致シマシテモ、爾ク
權威ガアルモノトハ思ハヌノデアリマス、
殊ニ人心思想ニ關スル刑罰ハ、國民全體ガ
之ヲ無理モナキコト、スルニ非ザレバ、其
威力ヲ發揮スルコトハ出來ナイノデアリマ
ス、法律サヘアレバ行ハル、ト云フガ如キ
ハ、東洋思想ニ於キマシテ殊ニ之ヲ排斥
シテ居ルノデアリ、所謂古ノ名君名臣ノ爲
サマル所デアリマス、即チ王者ノ政治ハ至
誠ヲ以テ仁義ヲ行ヒ、霸道のノ權力主義ヲ
斥ケ、德化禮治ヲ主トシテ威壓法治ヲ卑
ミ、天地自然ノ大法ニ基キ、上下和合、天
地一致ノ政治ヲ行フト云フコトガ、即チ王
道の政治ノ理想デアリノデアリマス、尤モ
絕對ニ權力ヲ排斥スル譯ニハ參ラヌノデア
リマス、先ヅ事アル時ニハ之ヲ叱リ付
ケルト云フヨリモ、之ヲ教ヘ之ヲ指導シ、
威嚇ヨリモ寧ロ之ヲ憫ミ、之ヲ善導スルト
云フコトヲ忘レテハナラヌノデアリマス、
樞密院ノ警告モ之ヲ要スルニ刑ノ重キガ政
治ノ要諦デナイコトヲ明ニシタモノデア
ラウト思フノデアリマス

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス

○眞鍋勝君(續) 前ニ申上ゲマシタ如ク、
刑罰ハ重キガ故ニ威力ガアルモノデアリ
マセウ、檢舉ノ周到嚴正ガ第一デアルベキ
コトハ論ヲ俟タヌ所デアリマス

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス

○眞鍋勝君(續) 要スルニ人ニ在リト信ズ
ル、法律ハ死物デアリマス、之ヲ活用スル

ト否トハ其人ヲ得ルト否トニ依テ岐レルノ
デアリ、檢舉ヲ補フニ嚴刑ヲ以テスルト云
フコトハ、大ニ考慮ヲ要スルモノデアルト
思フノデアリマス、凡ソ世界ノ革命ハ之ヲ
歴史ニ徴シマスルニ、革命ノ起ルノハ常ニ
其國民ノ間ニ政治上又ハ社會上ニ於ケル所
ノ不平不満、是ガ勃發シ、瀾曼シタルコト
ニ其原因ヲ持ツコトハ、歴史ニ徴シテ明ナ
ノデアリマス、若シ斯ノ如キ原因ガ強大デ
アレバアル程、如何ナル嚴刑ヲ以テ之ヲ彈
壓セントシテモ、其氣運ヲ防止スルコトハ
甚ダムツカシイノデアリマス、却テ其刑罰
ヲ嚴重ニスレバスル程、一層反抗ノ氣運ヲ
激成スルノ虞ガアル、サレバ政府ノ執ルベ
キ方法トシテハ、嚴刑ヲ制定ヲ致シマシテ
國民ヲ威嚇スルト云フヨリハ、政治ヲ公明
正大ニシ、徒ニ言論ヲ抑制セズ、國民ノ不
平若クハ社會ノ不滿ヲ除去スルト云フ方法
ヲ講ジナケレバナラス、即チ上ニ立ツ者ハ
實踐躬行範ヲ國民ニ垂レル所ノ行ヒガナケ
レバナラスト私ハ考ヘルノデアリマス、而
シテ從來緊急勅令ノ出タコトモ甚ダ少クナ
イノデアリマス、今度ノヤウニ刑罰法規ヲ
規、殊ニ極刑ハ死刑マデモ含ム刑罰法規ヲ
緊急勅令デヤツタ例ハ、極メテ少ナイデア
ラウト存ジマス、他ノ事項デサヘ憲法第八
條ノ適用ハ最モ慎重ニシナケレバナラスニ
モ拘ラズ、死刑マデ含ム所ノ此刑罰法規ヲ
殊ニ現内閣ハ昨年組閣前後、前内閣ガ財政
上ノ緊急處分ヲ爲サントスルコトヲ非難ヲ
致シマシテ、アノ場合ニモ實質上ノ損害ヲ
顧ミズ、議會召集ヲ力説高調致シマシテ、
憲法ノ正道ヲ踏ミダコトヲ誇リトスル同一
内閣ガ、一年ヲ經ルヤ輕シテ同様ノコト
ヲ行ハントスルコトハ、人ヲ責ムルニ急ニ
シテ自ラ緩ナルノ憾ナキニシモアラズト私
ハ信ズル、尤モ憲法第八章第七條ハ其規
定ニ於テ多少異ナル所ガアリマセドモ、
憲法ノ運用ニ於テハ私ハ同一デアルト信
ズルノデアリマス、去リナガラ勅令ノ内容
其モノニ對シテハ先刻申上ゲマシタ如ク、
何等異論ハナイノデアリマス、故ニ私ハ之
ニ對シテ警告ヲ付ケマシテ本案ニ對シテ承

諾ヲ爲サントスルモノデアリマス、警告ハ
「治安維持法改正ニ就キ非常立法ノ手續ヲ
採リタルハ立憲ノ本義ニ鑑ミ頗ル遺憾トス
今後斯ノ如キ重要法律ノ制定ニ關シテハ立
法部ノ權限ヲ尊重セン事ヲ望ム」(拍手)

○議長(元田肇君) 水谷長三郎君

〔水谷長三郎君登壇〕

○水谷長三郎君 我等ハ無產階級選出ノ代
議士ト致シマシテ、斯ノ如ク暴虐飽ク所ヲ
知ラザル階級の惡法、治安維持法緊急勅令
ニ對シテハ斷乎トシテ反對スルデアリマ
ス、論者或ハ曰ク、本案ヲ以テ憲法違反ナ
リトシ、其上ニ立ッテ反對スル人ガ多イノ
デアリマスガ、吾々ハ本案ニ反對スルノハ
憲法違反デアルト云フ形式論ノ上ニ立ッテ本
案ニ反對スル者デアリマセウ、今日無產
階級ノ立場カラ考ヘマセバ、憲法違反
ナリノ疑ハ懷ク者ハ獨リ緊急勅令ノミニハ
止ッテ居ラナイ、憲法第二章ニ謳ハレタ所ノ
臣民ノ權利、即チ言論集會、結社ノ自由、
或ハ信書ノ秘密、或ハ住居ノ保障、斯ウ云
フモノハ今日ノ反動政府ノ下ニ於テハ——
反動政治ノ下ニ於テハ木葉微塵ニ碎細サレ
テ、動トモスレバ無產階級ノ立場カラ見レ
バ、憲法第二章ノ臣民ノ權利ハ一種ノ空文
ノ如キ感ヲ懷カシムルノデアリ、隨テ吾々
ハ所謂此緊急勅令ノミヲ以テ憲法違反デア
ルト云フ形式論ニ立ッテ居ル者デアリマ
セウ、吾々ハモット深イ所ノ實質論、モット
深イ所ノ本質論ノ上ニ立ッテ本案ニ反對ス
ル者デアリ、即チ治安維持法緊急勅令ハ愚
カ、治安維持法其モノサヘモ廢止シナケレ
バナラナイト云フ立場ニ立ッテ居ルノデア
リマス、一部ノ經濟學者、一部ノ社會學者
ノ説ク所ニ依リマスレバ、今日ノ經濟組織
ハ資本主義の經濟組織ノ最後ノ段階デア
ルト言ハレテ居ル、サウシテ其最モ特長のナ
表現ハ外、國際關係ニ關シテハ列強ノ弱小
民族ニ對スル壓迫、本國ノ殖民地ニ對スル
苛酷誅求トシテ現ハレ、内、國內關係ニ於
キマシテハ、眼覺メントスル所ノ無產階級
ニ對スル飽クナキ彈壓政治トナッテ現ハレ
テ居ル、斯ウ云フ反動政治ノ下ニ於キマシ

テハ、即チ「ブルジョア」ノ政治權力ヲ
代表スル所ノ反動政治ノ尖鋭化ニ對シマシ
テハ、無產階級ノ陣營内ニ於キマシテモ、
左翼、中間、右翼ト云フ、サウ云フ合法的政
黨ノ外ニ、動トモスレバ斯ウ云フ合法的政
黨ノ埒ヲ超エタル所ノ一種ノ思想、一種ノ
思想團體ガ起ルト云フコトヲ、一部ノ人々
ハ説イテ居リマス、吾々ハ必シモ其説ニ全
部ノ信賴ヲ持チ、或ハ其説ヲ全部賛成スル
者デアリマセウ、吾々ハソレニ對シテ或
ハ多クノ反對論ヲ持ッテ居リマスガ、兎ニ
モ角ニモサウ云フ説ヲ立テ、居ル所ノ一部
ノ經濟學者、一部ノ社會學者ガ存シテ居ル
ノデアリ、而モ吾々ハ斯ウ云フ説明ヲ聽ク
ト共ニ廣ク世界ノ情勢ヲ考ヘテ見マス、
英吉利ト云ハズ、佛蘭西ト云ハズ或ハ獨逸
ト云ハズ、所謂文明國ト名ノ附イテ居ル所
ノ國ニ於キマシテハ、一種ノ共產思想、
一種ノ共產團體ガ存在シテ居ルノヲ吾々ハ
見セ付ケラレテ居ル、例ヘバ彼「フアツ
シスト」全盛ノ伊太利ニ於テモ、可ナリ多
クノ共產黨員ガ活躍シテ居ル、世界ニ於
テ波蘭、伊太利ヲ除イテハ、總テノ國ニ於
テ公認團體トシテ、彼等ノ團體ガ活躍シ
テ居ル、斯ウ云フ事實ヲ吾々ガ見セ付ケラ
レマシタ時ニ於テ、吾々トシテ考ヘナクテ
ハナラナイノハ、斯ウ云フ共產思想ガ惡イ、
或ハ斯ウ云フ共產團體ガ惡イト云フコト、
或ハ其他ノ價值判斷ヲ下ス前ニ、吾々ガ考
ヘナクテハナラナイノハ、何故今日世界各
國ニ於テハ斯ウ云フ思想ガ起リ、斯ウ云フ
團體ガ起ルカト云フ所ノ根本義ニ邁ッテ考
ヘナクテハ、吾々ハ問題ヲ根本の二把握ス
ルコトガ出來ナイト云フコトヲハ、ハッキリ知
ラナクテハナラヌノデアリマス、存在スル
モノハ合理的デアリ、合理的ナルモノ又存在
スルトハ、單リ「ヘーゲル」學徒ノミニ言草
デハアリマセウ、吾々ハ此今日存在シタ所
ノ思想、此今日存在シタ所ノ團體ニ對シテ、
何故斯ウ云フ思想ガ存在シ、何故斯ウ云フ
團體ガ存在スルカト云フ根本義ニ邁ッテ考
テハナラヌノデアリ、是ハ單リ吾々ガ今日
抽象のニ何等ノ證據モ示サズニ言フノデア

アリマセヌ、既ニ特別議會ニ於テ尾崎行雄氏ノ思想國難決議案ノ說明ニ於テモ、此點ハ明ニ誣ハレテ居ル、又田中總理大臣ノ特別議會ノ施政方針ノ演說ニ於テモ、此點ガ明ニ誣ハレテ居ルノデアル、吾々ハ今日此點然ト横テ居ル所ノ思想、此點然ト横テ居ル所ノ團體ニ對シ、學者ハ學者ノ立場カラ、思想家ハ思想家ノ立場カラ考ヘナクテハナラナイ、就中政治家ハ、過去自分ノ在政權ヲ握テ居ル所ノ政治形態ト云フモノガ、斯ウ云フ思想ノ發生、斯ウ云フ團體ノ發生ニ、何等カノ影響ヲ與ヘナカッタドウカト云フコトヲ、ハッキリ反省シナクテハナラナイと思フノデアル、然ラバ吾ガ謂フ所ノ根本的原因トハ何デアルカト云ヘバ、ソレハ今日澎湃トシテ横テ居ル所ノ民衆ノ生活不安デアル、民衆ノ生活不安デアル、彼ノ有名石川啄木ノ歌ニ「我が懷タ思想ハ總テ金無キニ因スル如シ秋ノ風吹ク」ト云フ歌ガアリマスガ、正ニ其歌ハ今日ノ所謂民衆ノ生活不安、隨テソレカラ發生スル所ノ思想ヲ、簡單ナル文字デハアルケレドモ、十分ニ説明シテ居ルノデアル、即チ吾々ハ斯ウ云フ立脚點ニ立テ居ルガ故ニ、先ツ勞働者ノ爲ニハ徹底的勞働組合法ヲ作ラナクテハナラナイ、罷業權ヲ認メナクテハナラナイ、團結權ヲ認メナクテハナラナイ、小作人ノ爲ニハ耕作權ヲ確立シナクテハナラナイ、彼等ノ罷業權ヲ認メナクテハナラナイ、或ハ安月給取、或ハ小商人、其他被壓迫民衆ノ生活不安ヲ取除ク爲ニ、吾々ハ思切タ徹底シテ所ノ生活安定ノ政治ヲ行ハナクテハナラナイト云フコトヲ、吾々ハハッキリ知ラナクテハナラナイノデアル、而モ今日政友會内閣ガ十七億何千万ト云フ豫算ヲバ吾々ノ前ニ押付ケテ、而モ其内ニ無産階級ノ生活安定ニ關シテ所ノ豫算ガ幾何アリヤト云フコトヲ考ヘルナラバ、吾々ハ轉タ感慨ニ堪ヘナイ、少クトモ緊急勅令ヲ出サントスル所ノ政府ハ、此數字ノ上ニ現ハレタ所ノ無産階級生活安定策ニ對シテ、十分反省シナクテハナラナイト

云フコトヲ、吾々ハ斷言シテ憚ラナイノデアル、總テノ物ハ流動シ、萬物ハ流轉スルトハ、單リ希臘ノ哲人ノミノ言葉デハナイ、吾々ガ棲ンデ居ル所ノ社會組織モ絶エズ動キ、絶エズ進化シテ居ル、而モ此進化ニ付テ吾々人類ノ立場カラ考ヘナクテハナラナイノハ、此必然ニ流レテ居ル所ノ社會組織ノ進化ヲ極メテ安ラカニ、極メテ滑カニ進化セシメテハナラナイト云フノガ、吾々人類ノ上ニ課セラレタ大キナ義務デアル、社會進化ニハ血ヲ見ル所ノ進化ト、血ヲ伴ハナイ所ノ進化トガアル、而モ其社會進化ヲシテ血ヲ伴ハシムルカ、或ハ血ヲ伴ハズニ滑カニ進化セシムルカ如何ト云フコトハ、單リ其時代ノ支配階級ノ出方如何ニ懸テ居ルト云フコトヲ、經濟學者ハ說イテ居ルノデアル、例ヘバ單リ基督ノ死、或ハ「ソクラテス」ノ死、或ハ「ピスマルク」ノ彈壓政策、サウ云フヤウナ外國ノ例ヲ引イテ吾々ハ考ヘル必要ハナイ、少クトモ吾々ハ明治維新ノ一ツノ例ヲ引イテモ能ク分ルノデアル、今日芝居デ觀タナラバ、彼ノ荒レ狂フ所ノ近藤勇ノ蠻勇ハ、或ハ芝居デ觀タナラバソレハ面白イカモ知レナイ、或ハ芝居デ見タナラバソレハ痛快デアルカモ知レナイ、併ナガラ社會進化ノ立場カラ見タナラバ、アノ近藤勇ノヤウナ振舞ハ何等ノ益ガナイ、寧ろ害アルノミデアルト云フコトヲ、吾々ハ知ラナクテハナラナイ、ソレヨリモ彼ノ刀ニ劔ズシテ江戸城ヲ引渡シタ所ノ勝海舟ノ立場コソハ、社會進化ノ上カラ見テ、吾々ハ十分認メナクテハナラナイ所ノ點デアラウト思フノデアル、斯ウ云フ點ニ關シマシテ、斯ウ云フ立場ニ立テ、吾々ハ治安維持法緊急勅令ニ反對スル者デアル、今日治安維持法緊急勅令ニ關シテ色々ノ說ヲ爲ス者ガアル、併ナガラ此治安維持法緊急勅令ガ本當ニ正シイカ、本當ニ間違テ居ルカト云フ批判ヲスル資格アル者ハ、今日我國ノ「ブルジョア」デハナイ、又其「ブルジョア」ノ政治的代辯者デアル所ノ既成政黨デハナイ、治安維持法緊急勅令ガ本當ニ正シイカ、本當ニ間違

違テ居ルカト云フ事ヲ批判スル資格ノアル者ハ、我國ノ無産大衆唯一ツデアルト云フコトヲ知ラナクテハナラヌノデアル(拍手、發言スル者多シ)斯ウ云フ意味ニ於キマシテ、吾々ハ此治安維持法緊急勅令ガ正シイカ、或ハ間違テ居ルカト云フコトヲ判斷スル爲ニ、吾々ハ即座ニ議會ヲ解散シ、サウシテ不徹底デアルケレドモ、與ヘラレタ普通選舉ノ下ニ、アノ特別議會ノ總選舉ト異テ、言論ノ自由ヲ保障セシメテ、今日我國ノ無産大衆ガ此治安維持法緊急勅令ニ對シテ、如何ナル憤ト、如何ナル憤激ヲ持テ居ルカト云フコトヲ、議會解散ニ依テ驗サナクテハナラナイト私ハ思フノデアル(拍手)斯ウ云フ意味ニ於キマシテ吾々ハ即座ニ議會ヲ解散シ、無産大衆ノ意思ヲ以テ、此治安維持法緊急勅令ヲ判斷シナケレバナラナイと思フ、最後ニ吾々ガ特ニ既成政黨ノ人ニ對シテ言フベキ所ノ問題ハ、此治安維持法緊急勅令ノ採決ニ當リマシテ、記名投票ニ依ラズニ、無記名投票ニ依テ、簡單ニ片付ケヤウトスル策動ガ行ハレテ居ルト云フコトヲ知テ居ル、併ナガラ吾々ハソレニ對シテ、斷乎トシテ反對シナケレバナラナイ、少クトモ無産階級ノ利害ヲ代表スル吾々無産政黨ノ立場カラ言ヘバ、此大切ナル、此影響多キ所ノ治安維持法緊急勅令ヲバ、單ニ起立ニ依テ、或ハ多數或ハ少數ト云フ簡單ナル態度ヲ以テ採決スルト云フコトニハ、吾々ハ絕對ニ反對デアル、吾々ハサウ云フ簡單ナル採決ニ依テ、我國ノ無産大衆ヲシテ死刑ノ斷罪ニ、死刑ノ犧牲ニ送ルト云フコトハ、絕對ニ反對デアルト云フコトヲ一言シテ、此壇ヲ降ラントスルノデアル

(此時發言スル者多シ)
○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス——名川侃一君
(名川侃一君登壇)
○名川侃一君 私ハ本案ニ付キマシテ、承諾ヲ與フルコトニ賛成スル者デアリマス、我國ハ、天皇ガ統治權者デアルト云フコトハ、建國ト共ニ定テ居ル所デアリマス、皇統ハ連綿ト致シマシテ天壤ト共ニ永遠無窮デゴザイマス、即チ我國ハ、天皇ガアッテ大日本帝國ハ存在シテ居ルノデアル(拍手)吾々日本民族ハ、天皇ノ下ニ統一セラレマシテ、天皇ハ臣民ヲ我子ノ如ク可愛ガッテ下サル、眞ニ君民一致デアアル、其國體ノ精華ト云フモノハ宇内ニ冠絶シテ居ルノデアリマス、然ルニ第三「インターナショナル」ハ絕對ニ君主制、立憲制其モノヲ否認スルモノデアリマシテ、勞農獨裁ノ世界革命ヲ企テ、居ルモノデアリマス、既ニ御承知ノ通り我國ニ於キマシテモ結社ヲ組織致シマシテ、我ガ金匱無缺ノ國體ヲ、根柢ヨリ覆サントシテ居ルノデアリマス、本案ノ委員會ニ於キマシテ、民政黨ノ横山君ヨリ、斯ウ云フ過激思想ガ我國ニ起タト云フコトハ、日清及日露ノ戰爭以上ニ、我國ニ於テハ重大ナルコトデアルト云フコトヲ言ハレタノデアリマスガ、吾々モ其様ニ思ウテ居ルノデアリマス、隨テ我ガ國民ト致シマシテハ、舉國一致自衛ノ手段ヲ講ゼナケレバナラヌ、又政府ト致シマシテモ、力ノ及ブ限リ必要ノ處分ヲセナケレバナラヌノデアリマス、緊急勅令ノ條件ハ憲法八條ニ書イテアル所デアリマシテ「天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會開會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス」斯ウ云フコトガ書イテアルノデアリマス、政府ガ此憲法ノ條章ニ基キマシテ、共產主義ヲ撲滅スル爲ニ、本緊急勅令ヲ發シマシタコトハ、海ニ適當ナコトデアリマシテ、私ハ政府ノ勞ヲ多トスル者デアリマス、而シテ本案ガ極メテ適法ノモノデアルト云フコトハ、之ヲ形式的ニ及實質的ニ之ヲ觀察スベキモノデアリマス、本案ノ緊急勅令ガ、發布ノ前ニ於テ之ヲ發布スベキ緊急ノ事情ノアッタト云フコトハ、委員會ニ於テ政府ノ言明シテ居ル所デアリマス、是ハ委員長ヨリ先回本會議ニ於テ報告シテ居ル所デアリマス、殊ニ彼等ガ我ガ皇室ノ殊遇ヲ非議致シマシテ、我ガ國民ガ感激シテ居リマス所ノ最大ノ御盛儀ノ舉行ニ絕對反對デアルト唱道致シ、露國ニ於キマスル所ノ東洋勤勞者共産

主義大學、ソレニ在學シテ居ル所ノ邦人二十數人ノ者ニ對シマシテ、急遽我國ニ歸テ、サウシテ日本共產主義ノ組織整備、擴大ニ努力スベキ旨ヲ命ジテ、續ク我國ニ歸テ來タト云フ事實ガアルノデアリマス、此時ニ方リマシテ政府ガ安寧秩序維持ノ爲ニ、治安維持法ヲ改正スルト云フコトハ、海ニ緊要ナ事デアリマシテ、政府ガ之ヲ緊急ノ要アリト認メテ之ヲ發シタト云フコトハ、極メテ適當ナコトデアリマス(拍手)而シテ緊急勅令ノ要件デアル緊急ノ必要ガアルカナイカト云フコトハ、何人ガ之ヲ決メルカト云ヘバ、是ハ政府ガ決メルデアル、政府ガ其時ノ狀態ニ於テ、是ハ緊急ノ必要ガアルト認メレバ之ヲ發スル、即チ憲法ニ依ル緊急ノ必要アル所以デアル、其緊急ノ狀況ノ有ル無シノ判定ト云フコトハ議會ニ在ルノデハナイ、政府ニ在ルデアル、即チ政府ガ緊急ノ必要アリト認メテ、此緊急勅令ヲ出シテ居ルノデゴザリマスカラ、其緊急勅令ニ於テ憲法違反ナドト云フ問題ノ起ルベキ筈ハ絕對ニナイノデアリマス(拍手)民政黨ヲ代表セラレマシテ齋藤隆夫君ハ、緊急勅令ノ規定ノ嚴罰ト云フコトニ付テハ吾々ハ反對セズ、斯ル過激思想ガ起ルト云フコトニ付テハ、嚴重ニ取締ラナケレバナラス、斯ウ云フコトヲ言ウテ居ラレル、即チ實質ニ付テハ御反對ハナイノデアアル、形式ニ付テ反對シテ居ラレルノデアリマス、共產主義ノ如ク大逆無道ノ行爲ヲ爲ス者ニ對シテ之ヲ嚴罰スルト云フコトハ、是ハ當然デアリマス、之ニ又反對ノアルベキ筈ハナイノデアリマス、而モ斯ル大逆無道ノ者ガ、我國ニ起リマシテ、天壤無窮ノ國體ヲ根柢ヨリ覆サントシテ居ルノデゴザイマスカラシテ、之ヲ取締ルト云フコトハ、一日モ忽セニスルコトハ出來ナイノデアリマス、我國ニ於キマシテ是程緊急ナコトハナイト私ハ考ヘルノデアリマス、然ラバ之ニ對シテ緊急勅令ヲ發シタ所ガ何處ガ惡イカ、何處ガ憲法ニ違反シテ居ルカ、民政黨ノ方々ハ憲法ノ所謂緊急ノ必要アリト云フコトハ言ヘヌ、斯ウ云フコト

ヲ言ハレル、然ラバ民政黨ノ方々ハ何時ニ於テ緊急ノ必要ガアッタコト見ラレルノデアリマス、何時此法律ヲ改正スレバ宜イト言フノデアリマス、前回ノ齋藤君ノ議論デアリマス、昨年ノ臨時議會ニ於テ宜シク議會ヲ延長シテ之ヲ決議スルヤウニシナケレバナラス、ソレヲセナカッタノガ惡イト言ハレル、而シテ其時ニ民政黨ハ緊急ノ必要アリト認メテ居ラレル、此法律ヲ制定スル必要ガアルト認メテ居ラレル、ソレナラバ其議會ガ閉會ニナッタ後ニ於テ此法律ヲ制定スルコトハ適當デアル、緊急ノ理由ガアルノデアリマス、議會ガ閉會シテモ緊急ノ狀態ガ續イテ居ララバ、緊急勅令ヲ出スコトガ何處ガ惡イカ、學者ノ言フ所ニ依リマスレバ、議會ニ法律ヲ出シテ其議會ガ解散ニナッタ場合、尙同ジ狀態デアラナラバ、直ニ緊急勅令ヲ出スコトハ毫モ差支ナイト言フコトニ學者ノ説ガ一致シテ居ルノデアリマス、然ラバ議會ノ閉會ニナッタ時デアリマス、民政黨ガ其時ニ出シテ解決シナケレバナラスト云フ緊急ノ必要ヲ認メテ居ルナラバ、其後ニ緊急勅令ヲ出シタコトニ就テハ寧ろ感謝スベキデアリマス、之ニ對シテ非議スベキ所ハナイ、議會ヲ延長シテ此法律ヲ通過ニ努メナカッタト云フコトヲ責メルナラバ、責メル方法ガアリマセウ、此方法ヲ以テ此緊急勅令ヲ非難スル理由ニハナラヌ、又齋藤君ハ臨時議會ヲ召集シテヤレバ宜カッタ、何故ニ臨時議會ヲ召集シナカッタコトヲ言フ、是亦緊急ノ必要ヲ認メテ居ルカラコソ臨時議會ヲ召集セヨト云フノデアリマス、然ラバ緊急ノ必要ガアルデハナイカ、アルノヲ緊急ノ必要ガナイト言フノハドウ云フ譯デアルカ、又齋藤君ハ次期議會即チ本通議會迄待タレヌコトハナイト言フ、一體齋藤君ノ意見ハ何處ニアリマス、昨午ノ臨時議會ニ於テ必ズ延長シテヤルベキデアリマス、ヤラナカッタノガ都合デアル、臨時議會ヲ召集シテ必ズヤラナケレバナラヌト云フ、今度ハ通議會迄待タレヌモノヲヤッタカライカト云フ、論旨ハ何處ニアリマス、甚ダ理窟カ分ラヌト思ヒマス、

ソレカラ又本件ニ於キマシテ緊急ノ必要アリトシテ政府ガ説明シタコトニ就テ、齋藤君ハ荒唐無稽ノ事實デアラ、斯ウ云フコトヲ言ハレタ、齋藤君ハ辯護士デ在ラセラルマスカラ、此議會ノ説明ヲ民事訴訟ニ於キマスル所ノ當事者ノ主張ト同ジヤウニ考ヘテ居ラレルモノト思ヒマス、民事ノ訴訟ニ於キマスル當事者ノ主張デアラナラバ、證據ガナケレバ其事實ヲ認ムルコトガ出來ナイ、併ナガラ議會ニ於キマスル政府ノ事實ノ説明又ハ答辯ハ、決シテ證據ヲ舉ゲテ之ヲ證スル必要ハナイ、政府ガ責任ヲ負ウテ是ダケノ事實ガアルト云フコトヲ説明シテ居ル以上ハ、其事實ガ嘘デアラト云フ反對ノ證據ガアレバ格別、其證據ガナケレバ其事實ヲ眞實ト認ムルノガ當然デアラ、ソレヲ荒唐無稽ト言ハレルノハ何處ニ荒唐無稽デアルト云フ證據ガアルカ、齋藤君ノ言ハレル所、内ヶ崎君ノ言ハレル所ヲ聽イテ見テモ、ソナナ理窟ハナイト思フ、甚ダ失禮ナガラ是ハ家デ坐シテ居ラテ考ヘテ居ルダケノコトデアル、ソレハ尻理窟デアラト言ハソレダケノ責任ヲ以テ事實ガアルト言フ、其事實ガ虚偽デアラト云フ反對ノ事實ガナイニ拘ラズ、此事實ヲ荒唐無稽デアラトシテ緊急ノ必要ガナイト言フノハ、徒ニ反對センガ爲ニ反對スル言ハレテモ辯解ノ辭ハナカラウト思ヒマス(拍手)ソレカラ齋藤君ハ露西亞カラ東洋勤勞者共產大學ノ生徒ガ二十人ヤ三十人歸ッテ來タノガ何ダ、ソナナコトハ恐レル必要ハナイト言ハレマスガ、私等ハ是ガ恐ロシイ、金銀無缺ノ我國ニ於テ露西亞マデ行ッテ共產主義ヲ修得シテ來テ大ニ宣傳セントスル者ガアル時分ニ、之ヲ取締ルノハ國ヲ憂フル者トシテ當然デアアル、之ヲ放任シテ置クコソ國ニ不忠ナルモノデアアル、而シテ齋藤君ハ斯ウ云フ共產主義ノ者ハ嚴刑ヲ以テ取締ル必要ガアルト云フ、證據シテ居ルノデアリマス、アルト云フ證據シテ居ルノデアリマス、此緊急勅令ヲ出スコトニ反對セラレル理由ハ私ハナイト思ヒマス、ソレカラ又民政黨ノ方々ハ形式上ノ攻撃ヲナサリマス、ケレドモ、憲法ノ解釋カラ言ヘバ、形式上ノ攻

撃ヲスルコトハ出來ヌモノデアアル、全ク是ハ憲法ニ違反シタ誤ト主張シテ居ラレルト思ヒマス、前ニモ申上ゲマス通り、緊急勅令ニ於キマスル所ノ緊急ノ必要ガアルカドウカト云フコトニ付テハ、是ハ政府ガ解釋スベキモノデアアル、政府ニ於テ緊急ノ必要アリトシテ之ヲ發布シテ居リマス、若シ民政黨ノ諸君ノ言ハレルガ如ク、憲法違反デアラナラバ、此緊急勅令ハ憲法ノ要件ヲ缺イタモノトシテ根本ノ無効デナケレバナラス、併ナガラ憲法ノ條章カラ言フテモ、根本ノ無効ナモノデハナイ、唯將來ニ向ッテ其效力ヲ失フ旨ヲ公布スベシト書イテアリマス、之ニ依リマシテモ緊急勅令ハ根本ノ無効ト云フコトハナイ、即チ緊急デアルカ否カヲ政府ガ判斷シテヤルノデアラカラ、是ハ適當ノ行爲デアル、憲法ニ違反シタ行爲デアル、憲法違反ノ行爲デハナイ、隨テ緊急勅令ヲ議會ニ提出シマシテ、政府ノ承諾ヲ求ムルト云フコトハ、此法令ヲ將來ニ向ッテ、即チ議會後ニ於テ尙ホ繼續スル必要ガアルカドウカニ付テ議會ノ意見ヲ求メルノデアアル、ソレ以外ニハ何モナイノデアリマス、決シテ政府ノ責任解除ヲ求メル爲ニ出スモノデモ何デモナイ、隨テ緊急勅令ヲ出シテ、而シテ議會ノ開會マデニ其緊急勅令ガ廢止セラレタ場合ニ於テハ、決シテ此議會ノ承諾ヲ求メル必要ハナイ、是ハ諸君御承知ノ通りデアアル、屢、先例ガアリマス、明治二十三年、明治二十九年、明治三十九年、明治四十三年ニ其先例ガアリマシテ、議會ノ質問ニ對シテ政府ハ明ニ緊急勅令ハ議會後ニ於テ尙ホ存續スル必要アル場合ニノミ議會ノ承諾ヲ求ムベキモノデアアル、ソレ以外ニ於テ議會ノ承諾ヲ求メル必要ハナイト云フコトヲ政府ニ於テ言明致シマシテ、議會ハ之ヲ承認シテ居ル、即チ先例ニ依リテ明ニナッタ居ル、サウ云フ次第デアリマス、此勅令ガ將來ニ存續スル必要ガアルカドウカニ付テハ、議論ヲ進メル必要ガアリマスケレドモ、既往ニ過ッテ、此緊急勅令ヲ發スル當時、

緊急ノ必要ガアツカドウカト云フヤウナ議論ハ憲法ニ於テハ許サズノデアアル、其許サズコトヲ民政黨ノ方ニガヤツテ居ラレルノデアアル、全ク民政黨ノ諸君ハ憲法ノ解釋ヲ誤ラレモ、而シテ民政黨ハ暴ニ申ス通リニ、此緊急勅令ニ依リテ刑罰ハ適當デアアルト云フコトヲ認メテ居ラレルノデアリマス、即チ緊急勅令ニ賛成シテ居ラレルモノデアアル、唯、何カ辭柄ヲ設ケテ之ニケチヲ付ケラレヤウトスルノデアアル、實質ニ於テハ贊成シテ居ラレルモノデアアルト吾々ハ斷定スルノデアリマス、若シ民政黨ノ諸君ノ言ハレルガ如キ方法ニ依リマス、甚ダシキ不利不便ヲ生ズルト思フノデアリマス、ソレハドウ云フ譯デアアルカト申スト、若シ此緊急勅令ヲ議會ニ於キマシテ不承諾ヲ致シマシタ時ニハ、緊急勅令ニ依リテ變更セラレタル前ノ治安維持法其モノガ復活スルカドウカト云フコトハ大變ニ議論ノアル所デアアル、モウ絕對ニ復活スルモノデアナイト云フ説ガ中ニ有力デアアル、又復活スルト云フ議論モアリマス、若シ復活シナイト云フ議論ガ立ツコトニナリマシタナラバ、全實ニ大逆無道ノ被告人ガ澤山捉ヘタ居ル、此緊急勅令發布ノ後ニ於テモ捉ヘタ者ガアル、所ガ是ガ不承諾ニナツテ前ノ維持法モ復活セスト云フコトニナツタナラバ、此被告人ハ無罪トシテ放スヨリ外ニ方法ガナイ、民政黨ハ之ニ不承諾ヲ主張セラレルト云フナラバ、ソレニ對シテドウ云フ對策ヲ考ヘテ居ラレルカ、如何ナル方法ニ依リテ此不逞ナル者ヲ取締リ處罰セントシテ居ラレルノデアリマス、其對策ノ方法モ考ヘズ徒ニ理論ニ囚ハレテ、之ニ不承諾ヲ唱ヘラレト云フコトハ、決シテ國ニ忠ナル所以デハナイト私ハ信ズルノデアアル、ソレカラ齋藤君ハ樞密院ニ於テ一部ノ反對ガアツタト言ハレルガ、ソナコトハ議論ニナラナイ、議決ニナツタト云フコトハ當然デアアル、又吾々モ満足シナカッタト云フコトヲ齋藤君ハ言ハレテ居ル、如何ニモサウデアリマセウ、一昨年民政黨内閣ガ倒レテカラ

今日マデ、民政黨ノ御方デ御満足ナル御方ハ一人モアルマイ、今議會始メテ以來今日ニ至ルマデ、毎日御不滿ナコトバカリデアラウ、如何ニモ御同情申上ゲマス、併ナガラ貴方ノ御不滿ヲ以テ直ニ此緊急勅令ガ違法デアルトカ不當デアルトカ云フコトハ、理由ニハナリマセヌ、齋藤君ノ御不滿ヲ以テ此緊急勅令攻撃ノ事情ニハナラヌト思ヒマス、又内ヶ崎君ハ色々ト御議論ナサレマシタガ、其言ハレルコトハ何ヲ言ハレルノカ些トモ私ニハ分ラヌ、倫理ノ義ミタヤウナモノデアアル、何ノ事カ分ラヌ、何カ寬嚴宜シキヲ得テ善處シナケレバナラヌト言ハレルガ、其寬嚴宜シキヲ得テ善處シナケレバナラヌト云フコトハ何ノコトカ些トモ分ラヌ、又何カ社會施設ヲシナイカライケヌト云フコトヲ言ハレル、地租營業稅ノ委員ヲスルダケノ財源ガアルナラバ、社會施設ヲセイト言ハレルガ、地租營業稅ノ地方委員御分リニナラヌノデアアル、是ガ御分リニナラヌ此處デ御議論ナサルト云フコトハ洵ニ不都合デアアル、又英吉利ニ於テハ斯ウ云フ立法ヲヤツテ居ル、斯ウ云フ施設ヲシテ居ルト云フコトヲ色々ト御讀上ゲニナリマシタガ、ソレハ財政ノ問題デアアル、英吉利ノ財政ト日本ノ財政ト比較シテ御考ニナラナケレバナラヌ、三井ガ多大ノ資産ヲ持テ居テ慈善病院ヲ拵ヘタカラ、吾々貧乏人ニオ前モ慈善病院ヲ拵ヘロト言テモ出來ナイ相談デアアル、是ハ國ノ財政ニ依テ決マルモノデアアル、英吉利デ斯ウ云フコトヲヤツテ居ルカラ、日本デモヤラナケレバナラヌト云フコトハナイ、所謂學者ガ世事ニ迂イト云フノハ是ヲ言フノデアアル、政治ト云フモノハサウ云フモノデハナイ、實際ノ財政ニ重キヲ置イテ、ドレダケノ施設ガ出來ルカト云フコトヲ以テシナケレバナラヌノデアリマス、要スルニ内ヶ崎君ノ議論ハ學者ノ空理空論デアアル、其結果ニ於テハ何ヲ言テ居ルカ分ラヌ、反對ノ根據ハ一ツモナイト思フノデアリマス、又本會議ニ於キマシテハ餘リ議論ガナカッタノデアリマスガ、無

產黨ノ方ニ於テハ此刑ガ重イトカ、此法律ヲ廢止シナケレバナラヌト云フヤウナ質問ガアリ、議論ガアツタノデアリマスルケレドモ、是ハ吾々トハ全然根本觀念ガ違フ、治安維持法ガ要ラヌト云フ御説デアアル、本件ハ要ル要ラヌ、ト云フノデハナクシテ、既ニ出來テ居ルモノニ改正ヲシタコトニ對シテ、承諾ヲ與ヘルカ與ヘナイカト云フノデアアルカラ、根本ガ違フノデアアルカラ、之ニ付テハ深ク論ズル必要ハナカラウト思フノデアリマス、併シ此死刑其モノヲ緊急勅令デ出スノガ正當デアアルカドウカト云フコトハ、委員會ニ於テ色々議論セラレタモノデアリマシテ、武富君ノ質問ニ於キマシテモ、刑法ノ内亂罪ノ規定ニ比シテ刑罰ガ重過ギルト云フヤウナ議論モアツタノデアリマス、併シ此内亂罪ト、國體變革ニ關スル結社ヲ罰スル罪ト云フモノハ、全然内容ガ違フ、内亂罪ト云フモノハ極メテ發覺容易デアアル、其檢舉モ樂デアアル、然ルニ秘密結社ハ容易ニ發覺出來ズ、犯スニ極メテ易イモノデアアル、而モ内亂罪ト云フガ如キモノハ多クハ國體ニ關スルモノニアラズシテ、政治上ノ意見ニ依テヤルモノデアアル、所謂西南戰爭ナドモソレデアアル、國體變革ニ關スル罪ハ全無缺ノ我國ヲ根柢ノニ覆サントスル大逆無道ノモノデアアルカラ、此事ニ對シテ重キ刑ヲ課スルト云フコトハ當然デアラウト私ハ思フ、之ヲ内亂罪ノ規定ト比較シテ彼此レ言ハレルノハ、的外レタル議論デアルト思フ、刑罰ノ沿革ヲ考ヘマスルト云フト、昔ハ所謂復讐主義トカ、報復主義トカ、色々トムゾカシイ嚴罰ガ行ハレテ來タノデゴザイマスケレドモ、其後「カント」「ヘーゲル」ノ精神派哲學ガ出來テ、「ルソー」ノ自由民權説ガ盛ニナルニ從ヒマシテ「ベッカー」ナドハ刑罰ト云フモノハ自由、正義、平等、博愛ノ觀念ニ基カナケレバナラヌト云フコトニ於キマシテ、其刑ヲ成ベク博愛主義、自由主義ニシナケレバナラヌ、刑ノ範圍ヲ極メテ狹ク、即チ罪ヲ憎ンデ人ヲ憎マヌト云フ、罪ニ對シテ刑ヲ課スルト云フコトニナツ

タ、佛蘭西刑法ガ之ニ則タモノデアアル、我舊刑法モ亦之ニ則タモノデアアル、然ルニ其後「ロンブロー」ナドガ出來テ、斯ウ云フ刑ノ範圍ノ狹イコトハ極メテイカヌト云フ説ガ有力ニナツタ、即チ「ロンブロー」ノ言フ所ニ依レバ、國ヲ刑罰其モノニ依テ治メルト云フコトハ、醫者ガ病人ヲ診ルヤウナモノデアアル、一律ニ輕イ刑罰ヲ國ヲ治メントスルノハ、反魂丹ヤ千金丹デ總テノ病氣ヲ治サントスルノト同ジデアアル、是デハイケナイ、總テノ病氣ハ醫者ガ診テ適應スル藥ヲヤツテ始メテ病氣ガ治ルノデアアル、從テ刑罰ニ於テハ刑ハ餘程廣クシナケレバナラヌ、或ル意味ニ於テ刑法ノ刑ト云フモノハ惡イコトヲシタカラ罰スル位ニシテ置イテ、其以上ハ裁判官ノ自由裁量ニスベキモノデアアルト云フノガ即チ「ロンブロー」ノ説デアアル、其後「リス」ナドノ中庸ノ説ガ出マシテ、刑ノ範圍ハ成ベク廣クセヨト云フコトニナツテ、今日ノ立法政策ハ「リス」ナドノ中庸説ガ主ニ活用サレテ居ル、即チ緊急勅令ニ於キマシテハ重キハ死刑ヨリ無期、五年以上ノ懲役ト云フコトニナツテ居テ、五年ノ懲役カラ死刑ト云フ極メテ廣キ範圍ニ於テ、其人ノ悔悛ノ狀況、濟度スベカラザルモノデアアル、感情ノ如何等總テ見テ適當ノ刑ヲ定メルト云フ、極メテ便宜ナル所ノ活殺自在ノ刑法ヲ設ケテアルノデアアル、ソレヲ死刑ト云フ最極刑バカリ見テ、此罪ハ重イナド、言ハレルノハ、全ク刑事政策其モノヲ知ラヌ所ノ愚論デアルト私ハ思フ(拍手)サウ云フヤウナ次第デゴザイマスルカラシテ、要スルニ本緊急勅令ニ於キマシテ、斯ウ云フ廣キ刑ノ範圍ヲ決メマシテ、大逆無道ノ犯罪ヲ鎮壓セントシテ、政府ガ緊急必要アリトシテ之ヲ設定シタト云フコトハ、極メテ適當ナル事デアリマシテ、深ク議會トシテハ感謝シナケレバナラヌモノデアアラウト思フ、反對ナド、云フコトハ以テ外ノコトデアルト私ハ思フノデアリマス、徒ニ刑事政策ニノミ奔デハイカナイ、拔本塞源ノ途ヲ講ジテ社會政策ヲ實行シナケレバナラヌ、教育ノ改

善、諸設備ノ充實、種々ナル方法ヲ講ジナ
ケレバナラヌ、是ハ當然デアル、是等ノモ
ノヲ一面ニスルト同時ニ、一面ニ刑罰ヲ以
テ之ヲ治メルト云フコトハ適當ナル事デア
ル、昔ヨリ自分ノ子供ヲ育テルノニモ、片
方ニ劍ヲ持チ、片方ニ「パン」ヲ持タナケレ
バ、子供ハ育テラレヌト云フテアルノデア
ル、國ヲ治メルトデモ同ジ事デアアル、一面
ニ於テ嚴肅ナル刑罰ヲ加味シタル法律ヲ以
テ國民ヲ律シ、一面ニ於テ社會施設ヲシテ
國民ヲ救フ、兩々相俟テ即チ國ト云フモノ
ハ治メテ行ク、其刑罰法規ヲ設ケタコトニ對
シテ徒ニ議論ヲ唱ヘテ、是ガ不當デアアルト
云フガ如キハ、全ク刑事政策ト云フモノヲ
知ラヌ所ノ愚論デアアルト私ハ思フノデア
ル、サウ云フ次第デゴザイマスルカラシテ、
私ハ原案ニ對シテ賛成ノ意ヲ表スル者デア
リマス、無產黨ノ方ハ斯ウ云フ立法ハ無
產大衆ノ意思ニ反スルモノデアアル、斯ウ云
フ立法ヲ作ルト云フト、無產大衆ハ澎湃ト
シテ必ズ之ニ反抗スルト云フガ如キ意味ノ
コトヲ、水谷君ハ委員會ニ於テ言ハレタノ
デアアル、併シ一體常ニ無產黨ノ方ハ何カ
ト云フト、吾々ハ無產者代表、吾々ハ無產
者ノ代表ト仰シヤルケレドモ、吾々ハ甚ダ
ソレニ不賛成デアアル、日本全國ノ無產者ト
云フモノガ、決シテ諸君ニノミ代表ヲ依頼
シテハ居ナイノデアアル、吾々ハ殆ド大部分ノ
無產大衆ヲ代表シテ、有ラユル社會施設ヲ
シテ無產者救済ニ當テ居ル、決シテ無產黨
諸君ダケノ一手販賣デハナイノデアアル(拍
手)諸君ハ斯ウ云フ治安維持法ヲ拵ヘルト
無產大衆ガ反抗スルト言ハレルガ、是ハ甚
ダ無產者其者ヲ虐ゲテ詰リ陷レル議論デ
アル、我ガ忠良ナル國民ハ金匱無缺ノ國體
ヲ維持スル爲ニ、何處迄モ嚴重ナル法律ヲ
拵ヘテ之ヲ護ルト云フコトハ、何人モ希望
シテ居ルノデアアル、此法律ニ反對スル忠良
ノ國民ハ極メテ少ナイノデアアル、ソレヲ何
カ無產者大衆ノ全部ガ之ニ反對スルガ如ク
言ハレルノハ、無產者其者ヲ陷レル議論デ
アル、甚ダ無產黨ノ爲ニ惜ムモノデアリマ
ス

〔此時發言スル者多ク議場騒然〕
○議長(元田肇君) 靜肅ニ願ヒマス
○名川侃市君(續) 民政黨ノ方ハ現内閣
ハ社會政策ヲ行ハヌト云フコトヲ以テ攻撃
シテ居ラレルノデアアル、併ナガラ此共產主
義其モノガ我國ニ抑、兆シテ來タト云フコ
トハ、治安維持法ト云フモノヲ拵ヘテ之ヲ
取締ラントシテ居ラレル、ソレ程ナ民政黨内
閣ニ於テ社會施設ノ何物ヲシテ居ルカ、酒
ノ税金ト煙草ノ値上ハヤンテ居ルケレドモ、
何モノモ社會施設ヲシテハ居ナイデハナイ
カ、其人間ガ現内閣ハ社會施設ヲシナイナ
ド、言シテ攻撃スル資格ガ何處ニアル、私ハ
一ニ列舉致シマセヌガ、本年ノ豫算ニ於テ
多クノ社會施設ヲ致シ、一面ニ社會政策ヲ
行ヒ、一面ニ刑事政策トシテ此緊急勅令ヲ
出シテ居ル、極メテ適當ナル方法デアリマ
スカラ、要スルニ民政黨及無產黨ノ方ハ
攻撃ハ一ツモ當ラヌモノデアアル、原案ニ承
諾ヲ與ヘルノハ極メテ當然ノ事デアアルト思
ヒマシテ、之ニ賛成ノ意ヲ表スル者デアリ
マス(拍手)
○原惣兵衛君 本案ニ對スル討論ハ之ヲ以
テ終結セラレンコトヲ望ミマス
〔贊成「贊成」ト呼フ者アリ〕
○議長(元田肇君) 原惣兵衛君ヨリ討論終
結ノ動議ガ出マシタ、御異議ハゴザイマセ
ヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(元田肇君) 討論ハ多數ニ依テ終局
シタモノト看做シマス、是ヨリ採決ヲ致ス
ノデアリマスルガ、本案ノ採決ニ對シ淺原
健三君外三十名ヨリ記名投票ヲ以テスベシ
トノ要求ガアリマス、仍チ本案ノ採決ハ之
ヲ記名投票ヲ以テ致シマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(元田肇君) 是ヨリ記名投票ヲ行ヒ
マスガ、念ノ爲ニ申上ゲテ置キマス、緊急
勅令ニ承諾ヲ與フベシトスル賛成ノ諸君ハ
白票、反對ノ諸君ハ青票ヲ御持參セラレン
コトヲ望ミマス閉鎖——氏名點呼ヲ命ジマ
ス

〔書記官氏名ヲ點呼ス〕
○議長(元田肇君) 投票漏ハアリマセヌカ
〔「アリマス」ト呼フ者アリ〕
○議長(元田肇君) 投票漏ハアリマセヌ
カ——投票漏ハナイト認メマス、投票閉
鎖——開匣——開鎖
〔書記官投票ノ數ヲ計算ス〕
○議長(元田肇君) 投票ノ結果ヲ書記官長
ヨリ報告セシメマス
〔中村書記官長朗讀〕
投票總數四百十九
可トスル者 白票 二百四十九
否トスル者 青票 百七十
○議長(元田肇君) 本案ハ承諾ヲ與フルコ
トニ決定致シマシタ(拍手)
〔參照〕
承諾ヲ與フベシトスル議員ノ氏名左ノ如
シ
石井 次郎君 石射文五郎君
石坂 養平君 石坂 豐一君
岩崎 一高君 岩本 武助君
岩川 與助君 磯部 尚君
磯部 清吉君 磯野 庸幸君
伊坂秀五郎君 伊原五郎兵衛君
井口延次郎君 井上 孝哉君
井出繁三郎君 池田 龜治君
今井 健彦君 飯村 五郎君
大養 毅君 生田 和平君
板谷 順助君 出井 兵吉君
原 惣兵衛君 鳩山 一郎君
泰 豐助君 濱田 國松君
八田 宗吉君 著本 太吉君
英 義彦君 林 路一君
西岡竹次郎君 西方 利馬君
西村 茂生君 堀切善兵衛君
星島 二郎君 土井 權大君
富田 八郎君 豐田 收君
大澤寅次郎君 大口 喜六君
大橋亦兵衛君 小崎 清作君
小川 平吉君 小山 寬藏君
小野寺 章君 岡田 忠彦君
岡田伊太郎君 沖島 謙三君
若宮 貞夫君 渡邊 徳助君

加藤 知正君 加藤久米四郎君
加藤鏡五郎君 川口 義久君
川島正次郎君 川原 茂輔君
河上 哲太君 蔭山 貞吉君
粕谷 義三君 上條 信君
金光 庸夫君 金澤安之助君
龜割 安藏君 菅野善右衛門君
吉津 度君 吉植庄一郎君
吉木 陽君 橫堀治三郎君
橫山 泰造君 高橋 光威君
高橋金治郎君 高橋寅次郎君
高山 長幸君 田邊 熊一君
田邊 七六君 田子 一民君
竹内友治郎君 竹内 鳳吉君
竹下 文隆君 立川 太郎君
胎中楠右衛門君 武田徳三郎君
丹下茂十郎君 玉野 知義君
多田 勇雄君 津雲 國利君
中村 亨君 中村 巍君
中島 守利君 中島 鵬六君
中井 一夫君 中川原貞機君
中橋徳五郎君 中谷 貞頼君
中野 猛雄君 中山 貞雄君
鳴海文四郎君 名川 侃市君
成清 信愛君 永田 良吉君
向井 倭雄君 武藤 七郎君
内田 信也君 上塚 司君
上埜安太郎君 内野辰次郎君
植原悦二郎君 野田 俊作君
熊谷 巖君 熊谷 直太君
久山 知之君 久原房之助君
國枝捨次郎君 郡谷照一郎君
倉元 要一君 工藤十三雄君
葛原 猪平君 山本 唯次君
山本悌二郎君 山本 慎平君
山本条太郎君 山口 義一君
山口忠五郎君 山口 恒太郎君
山口 猛君 山口 達之輔君
山下 谷次君 矢野 鉦吉君
矢野 晋也君 矢野 力治君
矢本平之助君 安原仁兵衛君
松本 君平君 松本孫右衛門君
松村 光三君 松浦五兵衛君

松岡 俊三君	松野 鶴平君	武藤 山治君	藤原 米造君
松田 三德君	松實喜代太君	小寺 謙吉君	河野 正義君
牧野 賤男君	牧野 良三君	三宅 利平君	井坂 豐光君
前田 米藏君	枅谷 音三君	原 耕君	花城 永渡君
藤沼 庄平君	藤井 達也君	本多貞次郎君	東郷 實君
福井 甚三君	二神 駿吉君	沼田嘉一郎君	大内 暢三君
小谷 節夫君	木暮武太夫君	沼田嘉一郎君	高島 順作君
兒玉 右二君	遠藤 柳作君	小野 寅吉君	津崎 尚武君
青木雷三郎君	青木 精一君	瀧 正雄君	熊谷五右衛門君
青山 憲三君	安藤 正純君	長島 隆二君	眞鍋 勝君
赤尾藤吉郎君	淺石 惠八君	藏園三四郎君	赤塚 正助君
秋田 清君	有馬 秀雄君	寺田 市正君	岸本 康通君
東 武君	佐々木久二君	崎山 武夫君	志波安一郎君
佐々木長治君	佐々木平次郎君	志村清右衛門君	
佐藤安之助君	佐竹直太郎君	森 肇君	
坂本 一角君	坂本志魯雄君		
坂井 大輔君	齊藤 巖君		
齋藤藤四郎君	木村 清治君	井本 常作君	井上 剛一君
木本主一郎君	岸田 正記君	飯塚 知信君	飯塚春太郎君
宮古啓三郎君	宮澤 裕君	池田 敬八君	一宮房治郎君
宮脇 長吉君	宮川 一貫君	伊禮 肇君	原 脩次郎君
三輪市太郎君	三土 忠造君	原 夫次郎君	原田佐之治君
三浦 數平君	三井 德實君	林 平馬君	濱口 雄幸君
水島彦一郎君	水久保甚作君	坂東幸太郎君	西脇 晉君
島田 俊雄君	嶋居 哲君	西村丹治郎君	西 英太郎君
庄司 良朗君	庄 晋太郎君	本田 英作君	本田 恒之君
清水 銀藏君	志賀和多利君	戶井 嘉作君	戶田 由美君
平賀 周君	平井信四郎君	戶澤民十郎君	富田幸次郎君
平出喜三郎君	廣岡宇一郎君	小野 重行君	小俣 政一君
廣瀬 爲久君	匹田 銳吉君	小峰 滿男君	小山倉之助君
肥田 琢司君	久恒 貞雄君	小川郷太郎君	大野 敬吉君
森 嘉起君	森 恪君	大西 正幹君	大里廣次郎君
森 正則君	森田 政義君	岡本實太郎君	岡本 幹輔君
森本 千吉君	望月 圭介君	奥山 龜藏君	長内 則昭君
鈴木吉之助君	鈴木 英雄君	川崎安之助君	川崎 克君
鈴木 隆君	鈴木 五六君	河西豐太郎君	勝田 永吉君
鈴木 巖君	砂田 安孝君	勝 正憲君	神田 正雄君
菅原 傳君	砂田 重政君	神部 爲藏君	加藤 鯛一君
須之内品吉君	千葉 三郎君	漢那 憲和君	横山勝太郎君
太田信治郎君	奥村 千藏君	横山金太郎君	高木益太郎君
鬼丸 義齋君	河崎助太郎君	高木 正年君	高橋元四郎君
田崎 信藏君	田中 善立君	高田 松平君	高島 兵吉君
檀野 禮助君	堤 清六君	田中 萬逸君	田中千代松君
		田中 養達君	田中 隆三君

承諾ヲ與フヘカラストスル議員ノ氏名左ノ如シ

井本 常作君	飯塚 知信君	飯塚春太郎君	井上 剛一君
池田 敬八君	伊禮 肇君	一宮房治郎君	原 脩次郎君
原 夫次郎君	原 隆吉君	原田佐之治君	濱口 雄幸君
林 平馬君	坂東幸太郎君	西脇 晉君	西 英太郎君
西村丹治郎君	本田 英作君	戶井 嘉作君	戶田 由美君
戶澤民十郎君	小野 重行君	小峰 滿男君	小山倉之助君
小川郷太郎君	大西 正幹君	大里廣次郎君	岡本 幹輔君
岡本實太郎君	奥山 龜藏君	川崎安之助君	川崎 克君
河西豐太郎君	勝田 永吉君	神田 正雄君	加藤 鯛一君
神部 爲藏君	漢那 憲和君	横山勝太郎君	高木益太郎君
横山金太郎君	高木 正年君	高橋元四郎君	高島 兵吉君
高田 松平君	高田 萬逸君	田中 千代松君	田中 隆三君
田中 養達君			

武内 作平君	武富 清君
頼母木桂吉君	谷口源十郎君
依 孫一君	添田敬一郎君
土屋清三郎君	堤 康次郎君
中村 繼男君	中村啓次郎君
中島彌次郎君	中崎 俊秀君
中野 正剛君	永田善三郎君
永井柳太郎君	村上 國吉君
村松恒一郎君	紫安新九郎君
鶴澤 宇八君	海野 數馬君
内ヶ崎作三郎君	白田 久内君
野田文一郎君	野中 徹也君
野村 嘉六君	則元 由庸君
栗原彦三郎君	工藤 鐵男君
黒金 泰義君	山田 又司君
山田 道兄君	山田 毅一君
山邊 常重君	山道 襄一君
山崎傳之助君	山本 厚三君
八木 逸郎君	松田竹千代君
松田 源治君	松尾 四郎君
松本 忠雄君	松井文太郎君
松村 謙三君	前田房之助君
枅谷 寅吉君	牧山 耕藏君
増田 義一君	町田 忠治君
藤澤幾之輔君	藤田 若水君
藤井 啓一君	福田 五郎君
降旗元太郎君	深水 清君
小山 谷藏君	小泉又次郎君
小坂 順造君	小橋 一太君
小池 仁郎君	木橋三四郎君
寺島 權藏君	田 昌君
安倍邦太郎君	安達 謙藏君
淺川 浩君	佐藤 正君
佐藤 與一君	佐藤 啓君
櫻内 辰郎君	櫻内 幸雄君
櫻井兵五郎君	齋藤 隆夫君
齋藤太兵衛君	柵瀬軍之佐君
作田高太郎君	澤本 與一君
木村 秀興君	木村小左衛門君
岸 衛君	三宅 磐君
三浦 虎雄君	宮原幸三郎君
清水留三郎君	清水傳太郎君
斯波 貞吉君	下元鹿之助君

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(元田肇君) 御異議ナシト認メ一括シテ議題ニ供シマス、日程第二、船舶職員法中改正法律案、日程第三、無線電信法中改正法律案ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——久原國務大臣

第二 船舶職員法中改正法律案(政府提出)

船舶職員法中改正法律案 第一讀會

第一條第二項中「二等運轉士、機關長及一等機關士」ヲ「二等運轉士、三等運轉士、機關長、一等機關士、二等機關士及三等機關士」ニ改ム

第五條第一項中「試験ヲ受ケ」ヲ「體格検査及學術試験ヲ受ケ」ニ、同條第二項中「船舶學校全科卒業證書ヲ有シ通信大臣ニ於テ試験規程ニ合格スト認ムル者」ニハ「試験ヲ用キスシテ」ヲ「船舶ノ運航若ハ機關ノ運轉ニ關スル學術ヲ教授スル學校ノ所定ノ課程及練習ヲ卒リ通信大臣ニ於テ學術試験ニ合格スト認ムル者」ニハ學術試験ヲ行ハスシテ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

小形船舶ニ乗組ム船舶職員ノ有スヘキ

重松 重治君	定塚門次郎君
平川松太郎君	一松 定吉君
廣瀬 德藏君	比佐 昌平君
森 峰一君	森田 茂君
森保 祐昌君	瀬川 光行君
鈴木富士彌君	鈴木憲太郎君
菅原 英伍君	菅村 太事君
杉浦 武雄君	末松偕一郎君
尾崎 行雄君	河上丈太郎君
龜井貫一郎君	鶴見 祐輔君
久野 尊資君	山本 宣治君
山崎 延吉君	小山邦太郎君
安部 磯雄君	淺原 健三君
水谷長三郎君	椎尾 辨匡君
鈴木 文治君	清瀬 一郎君

海技免狀ハ逓信大臣ノ定ムル所ニ依リ
學術試験ヲ行ハスシテ之ヲ授與スルコ
トヲ得
第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ船
舶職員タルコトヲ得ス又前條ノ體格檢
査及學術試験ヲ受クルコトヲ得ス
一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處
セラレタル者
二 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處
セラレ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行
ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
三 癡癲、白痴、身體不具其ノ他精神
又ハ身體ニ缺陷ヲ有シ執職ニ不適當
ナル者
四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者

五 海技免狀ノ行使停止中ノ者
六 破産者ニシテ復權ヲ得サル者
逓信大臣ハ海技免狀受有者ニシテ前項
第三號ニ該當スルノ疑アルモノニ就キ
管海官廳ヲシテ體格檢査ヲ執行セシム
ルコトヲ得
第九條第一項中「刑法ノ數罪俱發ヲ」刑
法併合罪ニ改ム
第九條ノ三 朝鮮總督又ハ臺灣總督ノ授
與シタル海技免狀ニシテ逓信大臣ニ於
テ第五條ノ規定ニ依リ授與シタルモノ
ト同等ト認メタルモノハ之ヲ第五條ノ
規定ニ依リ逓信大臣ノ授與シタル海技
免狀ト看做ス
第一號表ヲ左ノ如ク改ム

第一號表

(其ノ二) 船長及運轉士定員表

近		海 航 路				平 水 航 路				航 路
		汽 船				汽 船				船 種 類
		帆 船	千 噸 以 上	千 噸 未 滿	二 百 噸 未 滿	千 五 百 噸 以 上	千 五 百 噸 未 滿	五 百 噸 未 滿	總 噸 數	船 船 職 員
		船 長	船 長	船 長	船 長	船 長	船 長	船 長		免 狀 種 類
		乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種三等運轉士免狀	乙種四等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種三等運轉士免狀	乙種四等運轉士免狀	定 員
千 噸 未 滿	船 長	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種三等運轉士免狀	乙種四等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種三等運轉士免狀	乙種四等運轉士免狀	一
五 百 噸 未 滿	船 長	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種三等運轉士免狀	乙種四等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種三等運轉士免狀	乙種四等運轉士免狀	一
二 十 噸 以 上	船 長	丙種運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種三等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種三等運轉士免狀	乙種四等運轉士免狀	一
五 百 噸 未 滿	船 長	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種三等運轉士免狀	乙種四等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種三等運轉士免狀	乙種四等運轉士免狀	一
千 噸 未 滿	船 長	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種三等運轉士免狀	乙種四等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種三等運轉士免狀	乙種四等運轉士免狀	一

遠 洋 航 路 又 ハ 近 海 航 路 第 一 區										海 航 路 第 一 區									
汽 船					帆 船					汽 船					帆 船				
三 千 噸 未 滿 ノ 旅 客 船 又 ハ 五 千 噸 未 滿 ノ 非 旅 客 船					二 百 噸 未 滿					五 千 噸 未 滿					二 千 噸 未 滿				
三 千 噸 以 上 ノ 旅 客 船 又 ハ 五 千 噸 以 上 ノ 非 旅 客 船					二 百 噸 未 滿					五 千 噸 未 滿					二 千 噸 未 滿				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				
三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀					三 等 運 轉 士 免 狀				
船 長					船 長					船 長					船 長				
一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀					一 等 運 轉 士 免 狀				
二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀					二 等 運 轉 士 免 狀				

二區	五百噸以上	
	船長	船
	一等運轉士	甲種一等運轉士免狀
	二等運轉士	甲種二等運轉士免狀
		一

備考 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ積石數十石ヲ以テ總噸數一噸ニ換算ス
本表ノ定員ハ船長ヲ除クノ外最少員數ヲ示シタルモノトス

(其ノ二) 機關長及機關士定員表

航路			平水航路			沿海航路			近海		
機關公稱馬力	船舶職員	免狀種類	定員	機關公稱馬力	船舶職員	免狀種類	定員	機關公稱馬力	船舶職員	免狀種類	定員
四百馬力未満	機關長	三等機關士免狀	一	四百馬力未満	機關長	三等機關士免狀	一	四百馬力未満	機關長	三等機關士免狀	一
七百馬力未満	機關長	三等機關士免狀	一	七百馬力未満	機關長	三等機關士免狀	一	七百馬力未満	機關長	三等機關士免狀	一
千二百馬力未満	機關長	二等機關士免狀	一	千二百馬力未満	機關長	二等機關士免狀	一	千二百馬力未満	機關長	二等機關士免狀	一
千二百馬力以上	機關長	一等機關士免狀	一	千二百馬力以上	機關長	一等機關士免狀	一	千二百馬力以上	機關長	一等機關士免狀	一
三百馬力未満	機關長	三等機關士免狀	一	三百馬力未満	機關長	三等機關士免狀	一	三百馬力未満	機關長	三等機關士免狀	一
五百馬力未満	機關長	二等機關士免狀	一	五百馬力未満	機關長	二等機關士免狀	一	五百馬力未満	機關長	二等機關士免狀	一
七百馬力未満	機關長	二等機關士免狀	一	七百馬力未満	機關長	二等機關士免狀	一	七百馬力未満	機關長	二等機關士免狀	一
千二百馬力以上	機關長	一等機關士免狀	一	千二百馬力以上	機關長	一等機關士免狀	一	千二百馬力以上	機關長	一等機關士免狀	一
二百五十馬力未満	機關長	三等機關士免狀	一	二百五十馬力未満	機關長	三等機關士免狀	一	二百五十馬力未満	機關長	三等機關士免狀	一
四百馬力未満	機關長	二等機關士免狀	一	四百馬力未満	機關長	二等機關士免狀	一	四百馬力未満	機關長	二等機關士免狀	一
六百馬力未満	機關長	一等機關士免狀	一	六百馬力未満	機關長	一等機關士免狀	一	六百馬力未満	機關長	一等機關士免狀	一

航路第一區												航路第二區									
千二百馬力未満				二千馬力未満				三千馬力未満				五千馬力未満ノ旅客船又ハ三千馬力以上ノ非旅客船				五千馬力以上ノ旅客船				備考	
機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		本表ノ定員ハ船長ヲ除クノ外最少員數ヲ示シタルモノトス	一
機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一			
機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一			
機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一			
機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一			
機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一			
機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一			
機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一			
機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一			
機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一		機關長	一等機關士免狀	一			
機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一		機關長	二等機關士免狀	一			
機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一		機關長	三等機關士免狀	一			

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ船舶職員トシテ就職中ノ者ハ通信大臣ノ定ムル所ニ依リ本法施行後引續キ同一ノ船舶ニ於テ同一ノ職ヲ執ル期間内ニ限リ仍從前ノ例ニ依リ就職スルコトヲ得

本法ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第三 無線電信法中改正法律案(政府提出)
第一讀會

無線電信法中改正法律案
第三條中「私設ノ無線電信ノ通信」ヲ「私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ通信」ニ改メ「資格」ノ下ニ「及配置定員」ヲ加フ

第七條中「設備ノ變更ヲ命スルコトヲ得」ヲ「設備ノ變更、使用ノ制限若ハ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得無線電信、無線電話ノ混信防遏ノ爲必要ト認ムルトキ亦同シ」ニ改ム

第八條ノ二 無線電信又ハ無線電話ニ依リ通信公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止シ又ハ當該無線電信、無線電話ノ施設者若ハ當該通信ヲ發スル者ニ對シ其ノ通信ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十三條ノ二 主務大臣ハ私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ機器、其ノ裝置又ハ運用ニ關シ監督上必要ト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ其ノ施設ノ場所ニ立入り機器工作物及關係書類ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條ノ三 前二條ノ規定ニ依リ當該官吏無線電信又ハ無線電話ノ施設ノ場所ニ立入ル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯スヘシ

第十五條中「船舶遭難」ノ下ニ、「航行ノ安全」ヲ加フ

第二十條ノ二 無線電信又ハ無線電話ニ依リ知得タル前條ニ該當セサル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ秘密ヲ漏泄シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
第二十二條ノ二 無線電信又ハ無線電話ニ依リ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル通信ヲ發シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條中「前十條」ヲ「第十六條乃至第二十五條」ニ改ム

第二十七條中「第十三條」ノ下ニ「若ハ第十三條ノ二」ヲ加フ

第二十八條中「第五條」ヲ削ル
第二十八條ノ二 無線電信又ハ無線電話ニ非スト雖高周波電流ヲ使用シ通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用ス

第二十八條ノ三 主務大臣ハ無線電信又ハ無線電話ニ依リ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ニ及ホス障礙ヲ防止スル爲必要ト認ムルトキハ高周波電流ヲ發生スル設備ニシテ無線電信、無線電話又ハ前條ノ通報信號施設ニ非サルモノニ關シ其ノ施設者ニ對シ設備ノ變更又ハ特殊ノ設備ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ設備ノ變更又ハ特殊ノ設備ニ要シタル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依リ補償ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣久原房之助君登壇)
○國務大臣(久原房之助君) 只今提案ニナリマシタル船舶職員法中改正法律案ニ付キマシテ、一寸御説明ヲ申上ゲマス、現行船舶職員法ハ

(此時發言スル者アリ)

○議長(元田肇君) 靜ニ

○國務大臣(久原房之助君)(續) 明治二十九年ニ制定セラレマシテ、三十八年僅ニ其一部ニ改正ヲ加ヘラレマシタニ過ギナイデゴザイマス、然ルニ海運界ハ異常ノ進歩ヲ遂ゲテ居リマシテ、適應セヌ箇所ガ非常ニ多イノデゴザイマス、就キマシテ今今回關係者ヨリノ陳情建議等ノ趣意ヲ參酌按配致シマシテ、我が海運ノ現狀ニ適應セシメシガ爲ニ、本改正案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、ドウカ御審議ノ上御協賛アラシコトヲ希望致シマス(拍手) 尙ホ同時ニ提案ニナリマシタル無線電信法中改正法律案ノ事ニ付キマシテ一寸一言申上ゲマス、一昨年十月ヨリ十一月ニ互リマシテ、米國華盛頓ニ開催セラレマシタル國際無線電信會議ニ於キマシテ、帝國委員ガ各國委員ト共ニ調印致シマシタル所ノ改正國際無線電信條約ハ、曩ニ御批准ヲ得マシテ、昨年末公布セラレマシテ、本年一月ヨリ既ニ實施セラレテアルノデゴザイマス、此條約ノ實施ニ伴ヒマシテ、國內法規ニモ改正ヲ必要トスルモノガ生ジテ參タノデアリマスガ、尙ホ我國ニ於ケル無線電信、無線電話ノ普及發達ノ狀況ニ鑑ミ、廣ク電波ノ統制並ニ通信ノ取締ニ付キマシテモ、亦新ニ規定スルノ必要ヲ見ルニ至、タノデゴザイマス、斯様ナ次第デ茲ニ無線電信法ノ一部改正ノ法律案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上、御協賛アラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(元田肇君) 別段ニ質問ノ通告ガアリマセヌカラ、日程第四、右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第四 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○原惣兵衛君 兩案ヲ一括シテ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(元田肇君) 御異議ガゴザイマセヌケレバ原君ノ動議ノ如ク決定致シマシタ——日程第五、資源調査法案ノ第一讀會ヲ開キマス——宇佐美資源局長官

第五 資源調査法案(政府提出 貴族院送付) 第一讀會

資源調査法案
第一條 政府ハ人的及物的資源ノ調査ノ爲必要アルトキハ個人又ハ法人ニ對シ之ニ關スル報告又ハ實地申告ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ資源調査ノ範圍、方法其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 當該官吏又ハ吏員ハ人的及物的資源ノ統制運用計畫ノ設定及遂行ニ必要ナル資源調査ノ爲必要ナル場所ニ立入り、検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニハ其ノ證票ヲ携帯スベシ

第三條 工業ノ發明ニ係リ其ノ他特殊ナル業務上ノ秘密ニ屬スル事項又ハ設備ニシテ命令ニ定ムルモノニ付テハ第一條ノ報告若ハ實地申告ヲ命ジ又ハ前條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ若ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得

第四條 第一條ノ規定ニ依リ報告又ハ實地申告ヲ命ゼラレタル者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ於テ報告又ハ實地申告ヲ爲スノ義務ヲ有ス

第五條 第一條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告若ハ實地申告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告若ハ實地申告ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 第二條ノ規定ニ依リ當該官吏又ハ吏員ノ職務執行ヲ拒ミ、妨ダ若ハ忌避シ、調査資料ノ提供ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ調査資料ヲ提供シ又ハ質問ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

五五九

官報號外 昭和四年二月六日 參議院議事速記第二十五號 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 資源調査法案 第一讀會

第七條 當該官吏若ハ吏員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千萬圓以下ノ罰金ニ處ス當該官吏又ハ吏員第三條ノ規定ニ違反シタルトキ亦同ジ

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員宇佐美勝夫君登壇〕

○政府委員(宇佐美勝夫君) 只今議題ニ供セラレマシタ資源調査法案ニ付キ、簡單ニ提案ノ理由ヲ申上ゲタイト存ジマス、所謂國家總動員ノ準備施設ト致シマシテ、先ヅ廣ク資源調査ノ必要アルコトハ申ス迄モナク、所デアリマス、而シテ其範圍ハ單リ現行軍事調査令ニ規定スル所ニ止マラズ、廣ク人的、物的資源ニ付キ正確詳密、且ツ最も新シキ資料ヲ整備シナクテハナラヌコト、存ズルノデアリマス、然ルニ一面其他ノ一般行政目的ノ達成ニ付キマシテモ、時運ノ進展ニ連レ、資源ノ現況ヲ調査闡明スルコトノ必要ハ益々緊要ヲ告ゲテ參タノデアリマス、而モ其範圍ニ於テハ兩者殆ド一致ヲ見ルベク、其内容ニ於テモ大體大差ナキ關係ニアルノデアリマス、仍テ資源ノ調査ニ關シマシテ法律上ノ根據ヲ與フルト共ニ、制度ノ煩雜ヲ避ケ、人民負擔ノ重複ヲ來サシメナイヤウ、一ツノ調査體系ニ纏メ、以テ諸調査ノ連絡ヲ確保スルコト云フコトハ、今日最も時宜ニ適シタル施設ト存ズルノデアリマス、本法案ハ以上ノ如キ趣旨ノ下ニ立案セラレタモノデアリマシテ、之ガ大綱ニ付キマシテハ、既ニ資源審議會ニ諮詢シテ其賛同ヲ得テ居リマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘテレンコトヲ御願申上ゲマス

(拍手)
○議長(元田肇君) 別段質疑ノ通告ガゴザイマセヌカラ、日程第六、右議案ノ審查ヲ

付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○原惣兵衛君 本案ハ議長指名特二十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(元田肇君) 原君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(元田肇君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決定致シマシタ一日

程第七、鐵道營業法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——小川鐵道大臣

第七 鐵道營業法中改正法律案(政府提出)

鐵道營業法中改正法律案

第十一條 旅客又ハ荷送人ハ手荷物又ハ運送品トシテ運送品運送規程ノ定ムル所ニ依リ表示料ヲ支拂ヒ要償額ヲ表示スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル表示額カ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡期間末日ニ於ケル到達地ノ價格及引渡ナキ場合ニ於テ旅客又ハ荷送人カ受クヘキ其ノ他ノ損害ノ合計額ヲ超ユルトキハ其ノ超過部分ニ付テハ其ノ表示額ハ之ヲ無効トス

第十一條ノ二 要償額ノ表示アル託送手荷物又ハ運送品ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害ニ付賠償ノ責任ニ任スル場合ニ於テハ鐵道ハ表示額ヲ限度トシテ一切ノ損害ヲ賠償スル責任ニ任ス此ノ場合ニ於テ鐵道ハ損害額カ左ノ額ニ達セサルコトヲ證明スルニ非サレハ左ノ額ノ支拂ヲ免ルルコトヲ得

一 全部滅失ノ場合ニ於テハ表示額

二 一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於テハ引渡アリタル日(延著シタルトキハ引渡期間末日)ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リ計算シタル價格ノ減少割合ヲ表示額ニ乗ンタル額

託送手荷物、高價品又ハ動物ニ付テハ託送ノ際旅客又ハ荷送人カ要償額ノ表

示ヲ爲ササル場合ニ於テハ鐵道ハ鐵道運輸規程ノ定ムル最高金額ヲ超ユル其ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害ヲ賠償スル責任ニ任セス

前二項ノ賠償額ノ制限ハ託送手荷物又ハ運送品カ鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失又ハ毀損シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十二條 引渡期間満了後託送手荷物又ハ運送品ノ引渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ延著トス

引渡期間ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル

延著ニ因ル損害ニ付賠償ノ責任ニ任スル場合ニ於テハ鐵道ハ左ノ額ヲ限度トシ

テ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ一切ノ損害ヲ賠償スル責任ニ任ス

一 要償額ノ表示アルトキハ其ノ表示額

二 要償額ノ表示ナキトキハ其ノ運賃額

前項ノ賠償額ノ制限ハ託送手荷物又ハ運送品カ鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ延著シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十三條 鐵道カ引渡期間満了後一月ヲ經過スルモ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡ヲ爲ササル場合ニ於テハ旅客又ハ貨主ハ滅失ニ因ル損害賠償ヲ請求スルコトヲ得但シ鐵道ノ責任ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ引渡ヲ爲ササル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ賠償ヲ受ケタル者ハ其ノ請求ノ際留保ヲ爲シタルトキハ到達ノ通知ヲ受ケタル後一月内ニ限り賠償金ヲ返還シテ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡ヲ受タルコトヲ得

第十八條ノ二 第三條、第六條乃至第十八條、第十四條、第十五條及第十八條ノ規定ハ鐵道トシテ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル船舶、軌道、自動車又ハ索道ニ依ル運送ニ付之ヲ準用ス

第十八條ノ三 鐵道ト船舶ト通シ運送ヲ

爲ス場合ノ運送ニ付テハ請求ニ因リ荷送人ハ全運送ニ對シ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ荷送人ノ請求ニ因リ全運送ニ對シ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

前二項ノ運送狀又ハ貨物引換證ニ付テハ鐵道運送ニ於ケル運送狀又ハ貨物引換證ニ關スル規定ヲ準用ス

第十八條ノ四 前二條ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ船舶ニ依ル運送ハ其ノ運送ノ狀態ニ於テ鐵道運送ニ附屬シタルモノニ限リ其ノ航路及之カ運送業者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

鐵道營業法中改正法律案 第一讀會

五六〇

爲ス場合ノ運送ニ付テハ請求ニ因リ荷送人ハ全運送ニ對シ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ荷送人ノ請求ニ因リ全運送ニ對シ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

前二項ノ運送狀又ハ貨物引換證ニ付テハ鐵道運送ニ於ケル運送狀又ハ貨物引換證ニ關スル規定ヲ準用ス

第十八條ノ四 前二條ノ規定ノ適用ヲ受クヘキ船舶ニ依ル運送ハ其ノ運送ノ狀態ニ於テ鐵道運送ニ附屬シタルモノニ限リ其ノ航路及之カ運送業者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 削除

第三十條 託送手荷物又ハ運送品ノ種類又ハ性質ヲ詐稱シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス記名乗車券ヲ買求ムル際氏名ヲ詐稱シタル者亦同シ

第四十三條 削除

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣小川平吉君登壇〕

○國務大臣(小川平吉君) 現行ノ鐵道營業法ハ明治三十三年ノ制定ニ係リマシテ、爾來約三十年ヲ經過致シテ居リマス、其間一方ハ鐵道其他ノ交通機關ハ長足ノ進歩ヲ遂ゲ、又他方之ヲ利用スル社會、經濟ノ方面ニ於キマシテモ、著シキ發達ヲシテ來タノデアリマス、爲ニ同法ハ今日ノ狀態ニ適合シナイ嫌ヒモアリマスノデ、今回同法中一部改正ヲ施スノ必要ヲ認メテ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、而シテ主要ナル點ノ大略ヲ申上ゲマス、損害要償額表示ノ制度ヲ設ケテ、商取引ノ實際ニ適合セシムルコト共ニ、損害賠償ヲ迅速、簡單ニ處理セシムル方法ヲ講ジ、次ニ引渡期間ヲ定メマシテ、鐵道運輸ノ期間ヲ保證スルコト同二、延著等ノ場合ニ於ケル賠償關係ヲ明確ナラシメ、更ニ又鐵道ト他ノ運送機關トノ連絡運送ヲ圓滑ナラシメ、殊ニ鐵道ヨリ船舶ニ跨ル所ノ運送ニ對シマシテ、貨物引換證ヲ發行スルノ途ヲ開クト云フコトニ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣小川平吉君登壇〕

○國務大臣(小川平吉君) 現行ノ鐵道營業法ハ明治三十三年ノ制定ニ係リマシテ、爾來約三十年ヲ經過致シテ居リマス、其間一方ハ鐵道其他ノ交通機關ハ長足ノ進歩ヲ遂ゲ、又他方之ヲ利用スル社會、經濟ノ方面ニ於キマシテモ、著シキ發達ヲシテ來タノデアリマス、爲ニ同法ハ今日ノ狀態ニ適合シナイ嫌ヒモアリマスノデ、今回同法中一部改正ヲ施スノ必要ヲ認メテ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、而シテ主要ナル點ノ大略ヲ申上ゲマス、損害要償額表示ノ制度ヲ設ケテ、商取引ノ實際ニ適合セシムルコト共ニ、損害賠償ヲ迅速、簡單ニ處理セシムル方法ヲ講ジ、次ニ引渡期間ヲ定メマシテ、鐵道運輸ノ期間ヲ保證スルコト同二、延著等ノ場合ニ於ケル賠償關係ヲ明確ナラシメ、更ニ又鐵道ト他ノ運送機關トノ連絡運送ヲ圓滑ナラシメ、殊ニ鐵道ヨリ船舶ニ跨ル所ノ運送ニ對シマシテ、貨物引換證ヲ發行スルノ途ヲ開クト云フコトニ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣小川平吉君登壇〕

○國務大臣(小川平吉君) 現行ノ鐵道營業法ハ明治三十三年ノ制定ニ係リマシテ、爾來約三十年ヲ經過致シテ居リマス、其間一方ハ鐵道其他ノ交通機關ハ長足ノ進歩ヲ遂ゲ、又他方之ヲ利用スル社會、經濟ノ方面ニ於キマシテモ、著シキ發達ヲシテ來タノデアリマス、爲ニ同法ハ今日ノ狀態ニ適合シナイ嫌ヒモアリマスノデ、今回同法中一部改正ヲ施スノ必要ヲ認メテ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、而シテ主要ナル點ノ大略ヲ申上ゲマス、損害要償額表示ノ制度ヲ設ケテ、商取引ノ實際ニ適合セシムルコト共ニ、損害賠償ヲ迅速、簡單ニ處理セシムル方法ヲ講ジ、次ニ引渡期間ヲ定メマシテ、鐵道運輸ノ期間ヲ保證スルコト同二、延著等ノ場合ニ於ケル賠償關係ヲ明確ナラシメ、更ニ又鐵道ト他ノ運送機關トノ連絡運送ヲ圓滑ナラシメ、殊ニ鐵道ヨリ船舶ニ跨ル所ノ運送ニ對シマシテ、貨物引換證ヲ發行スルノ途ヲ開クト云フコトニ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣小川平吉君登壇〕

○國務大臣(小川平吉君) 現行ノ鐵道營業法ハ明治三十三年ノ制定ニ係リマシテ、爾來約三十年ヲ經過致シテ居リマス、其間一方ハ鐵道其他ノ交通機關ハ長足ノ進歩ヲ遂ゲ、又他方之ヲ利用スル社會、經濟ノ方面ニ於キマシテモ、著シキ發達ヲシテ來タノデアリマス、爲ニ同法ハ今日ノ狀態ニ適合シナイ嫌ヒモアリマスノデ、今回同法中一部改正ヲ施スノ必要ヲ認メテ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、而シテ主要ナル點ノ大略ヲ申上ゲマス、損害要償額表示ノ制度ヲ設ケテ、商取引ノ實際ニ適合セシムルコト共ニ、損害賠償ヲ迅速、簡單ニ處理セシムル方法ヲ講ジ、次ニ引渡期間ヲ定メマシテ、鐵道運輸ノ期間ヲ保證スルコト同二、延著等ノ場合ニ於ケル賠償關係ヲ明確ナラシメ、更ニ又鐵道ト他ノ運送機關トノ連絡運送ヲ圓滑ナラシメ、殊ニ鐵道ヨリ船舶ニ跨ル所ノ運送ニ對シマシテ、貨物引換證ヲ發行スルノ途ヲ開クト云フコトニ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣小川平吉君登壇〕

○國務大臣(小川平吉君) 現行ノ鐵道營業法ハ明治三十三年ノ制定ニ係リマシテ、爾來約三十年ヲ經過致シテ居リマス、其間一方ハ鐵道其他ノ交通機關ハ長足ノ進歩ヲ遂ゲ、又他方之ヲ利用スル社會、經濟ノ方面ニ於キマシテモ、著シキ發達ヲシテ來タノデアリマス、爲ニ同法ハ今日ノ狀態ニ適合シナイ嫌ヒモアリマスノデ、今回同法中一部改正ヲ施スノ必要ヲ認メテ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、而シテ主要ナル點ノ大略ヲ申上ゲマス、損害要償額表示ノ制度ヲ設ケテ、商取引ノ實際ニ適合セシムルコト共ニ、損害賠償ヲ迅速、簡單ニ處理セシムル方法ヲ講ジ、次ニ引渡期間ヲ定メマシテ、鐵道運輸ノ期間ヲ保證スルコト同二、延著等ノ場合ニ於ケル賠償關係ヲ明確ナラシメ、更ニ又鐵道ト他ノ運送機關トノ連絡運送ヲ圓滑ナラシメ、殊ニ鐵道ヨリ船舶ニ跨ル所ノ運送ニ對シマシテ、貨物引換證ヲ發行スルノ途ヲ開クト云フコトニ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣小川平吉君登壇〕

○國務大臣(小川平吉君) 現行ノ鐵道營業法ハ明治三十三年ノ制定ニ係リマシテ、爾來約三十年ヲ經過致シテ居リマス、其間一方ハ鐵道其他ノ交通機關ハ長足ノ進歩ヲ遂ゲ、又他方之ヲ利用スル社會、經濟ノ方面ニ於キマシテモ、著シキ發達ヲシテ來タノデアリマス、爲ニ同法ハ今日ノ狀態ニ適合シナイ嫌ヒモアリマスノデ、今回同法中一部改正ヲ施スノ必要ヲ認メテ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、而シテ主要ナル點ノ大略ヲ申上ゲマス、損害要償額表示ノ制度ヲ設ケテ、商取引ノ實際ニ適合セシムルコト共ニ、損害賠償ヲ迅速、簡單ニ處理セシムル方法ヲ講ジ、次ニ引渡期間ヲ定メマシテ、鐵道運輸ノ期間ヲ保證スルコト同二、延著等ノ場合ニ於ケル賠償關係ヲ明確ナラシメ、更ニ又鐵道ト他ノ運送機關トノ連絡運送ヲ圓滑ナラシメ、殊ニ鐵道ヨリ船舶ニ跨ル所ノ運送ニ對シマシテ、貨物引換證ヲ發行スルノ途ヲ開クト云フコトニ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣小川平吉君登壇〕

○國務大臣(小川平吉君) 現行ノ鐵道營業法ハ明治三十三年ノ制定ニ係リマシテ、爾來約三十年ヲ經過致シテ居リマス、其間一方ハ鐵道其他ノ交通機關ハ長足ノ進歩ヲ遂ゲ、又他方之ヲ利用スル社會、經濟ノ方面ニ於キマシテモ、著シキ發達ヲシテ來タノデアリマス、爲ニ同法ハ今日ノ狀態ニ適合シナイ嫌ヒモアリマスノデ、今回同法中一部改正ヲ施スノ必要ヲ認メテ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、而シテ主要ナル點ノ大略ヲ申上ゲマス、損害要償額表示ノ制度ヲ設ケテ、商取引ノ實際ニ適合セシムルコト共ニ、損害賠償ヲ迅速、簡單ニ處理セシムル方法ヲ講ジ、次ニ引渡期間ヲ定メマシテ、鐵道運輸ノ期間ヲ保證スルコト同二、延著等ノ場合ニ於ケル賠償關係ヲ明確ナラシメ、更ニ又鐵道ト他ノ運送機關トノ連絡運送ヲ圓滑ナラシメ、殊ニ鐵道ヨリ船舶ニ跨ル所ノ運送ニ對シマシテ、貨物引換證ヲ發行スルノ途ヲ開クト云フコトニ

ナッテ居ルノデアリマス、何卒御審議ノ上御
協賛ヲラシコトヲ希望致シマス(拍手)
○議長(元田肇君) 別段質疑ノ通告ガアリ
セヌカラ、日程第八、右議案ノ審査ヲ付
議スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員
ノ選舉
○原野兵衛君 本業ハ政府提出北海道鐵道
株式會社所屬鐵道外十三鐵道等買收ノ爲公
積發行ニ關スル法律案外三件ノ委員ニ併セ
テ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(元田肇君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ。日程第
九、同盟及聯合國ト獨逸國及其ノ同盟國ト
ノ戰爭ニ因リ損害ヲ被リタル帝國臣民ノ追
加救恤ニ關スル法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開
キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員
長兼支ナラ理事庄吉太郎君ノ報告ヲ求メマ
ス

第九 同盟及聯合國ト獨逸國及其ノ同
盟國トノ戰爭ニ因リ損害ヲ被リタル
帝國臣民ノ追加救恤ニ關スル法律案
(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一 同盟及聯合國ト獨逸國及其ノ同盟國ト
ノ戰爭ニ因リ損害ヲ被リタル帝國臣民
ノ追加救恤ニ關スル法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和四年二月二十七日
委員長 守屋 榮夫
衆議院議長元田肇殿
希望條項

一 本法第三條ノ救恤審査會ノ組織ニ關
シテハ貴衆兩院議員中ヨリ若干ノ委員
ヲ舉クヘシ
二 本法追加救恤ト共ニ尼港、環春事
變、青島農業團並薩哈連州引揚被害者
等ニ對シ速ニ救恤ノ途ヲ講シ今期議會
ニ提出セラレムコトヲ望ム

(庄吉太郎君登壇)

○庄吉太郎君 只今議題トナリマシタル同
盟及聯合國ト獨逸國及其ノ同盟國トノ戰爭
ニ因リ損害ヲ被リタル帝國臣民ノ追加救恤
ニ關スル法律案ニ付キマシテ、委員長兼支
ノ爲ニ理事トシテ私が代テ簡單ニ、此委員
會ノ經過並結果ニ付テ御報告申上ゲマス、
本法案ノ趣旨ハ既ニ申上ゲタル迄モナク、日
獨戰爭ニ因リマシテ、我が同胞ガ戰爭ノ爲
ニ

(元田議長議長席ヲ退キ清瀬副議長代
リ著席)

損害ヲ被リマシタ者ヲ、既ニ第五十議會ガ
五十一議會當時ニ於テ、彼ノ國ヨリ賠償金
ヲ取リマシタ一部ヲ以テ、第一回ノ救恤ト
シテ五百萬圓程支出ニナッテ居ルノデアリ
マス、其當時我が衆議院ニ於テ、此戰爭ニ
因テ損害ヲ被リタル者ヲ五百萬圓デハ少ナ
イカラ、速ニ追加救恤ヲスルコトヲ考慮セ
ヨト云フ院議ヲ決定サレテ、所謂附帶決議
ヲ附シテ本院ヲ通過シ、尙ホ貴族院ニ於キマ
シテモ、其意味合ノ希望決議ヲ附シマシテ通
過シタ實際デアリマス、既ニ「ドーズ」案ニ
依リマシテ、獨逸國カラ賠償金ヲ取ツタノ
ヲ、此度四百萬圓ダケ、前ニ少ナカッタ船
舶、若クハ其當時要求シテ居ッタクレドモ、
其要求ガ間ニ合ハナカッタモノニ對シテ、追
加救恤ヲスルト云フ案デアリマス、而シテ此
案ニ付キマシテハ、或ハ川崎君、原夫次郎
君、堤君、吾黨ト致シマシテハ石坂君、竹
内君等ヨリ、交、政府當局ト質問應答ガアリ
マシテ、之ヲ一々申上ゲタル長クナリマス
カラ、是ハドウカ委員會ノ速記録ニ依テ御
取調ヲ御願スルコトニ致シマシテ、私ハ唯
確定致シマシタ事ニ付テ申上ゲマス「尼港、
環春事變、青島農業團並薩哈連州引揚被害
者等ニ對シ速ニ救恤ノ途ヲ講シ今期議會
ニ提出セラレムコトヲ望ム」斯ウ云フ希望
條件ヲ附シマシテ、此法案ヲ可決スルコト
ニ委員會ニ於テ決シタノデアリマス、而シテ
是ハ色々質問應答、研究ノ結果、詰リ實際
此戰爭ニ因テ損害ヲ受ケタル帝國臣民ノ損

害ヲ、國トシテ必ズ幾分デモ餘裕ガアレバ
之ヲ賠償シテヤル、「ドーズ」案ニ依テ獨逸
國カラ賠償金ヲ取ツタ以上ハ、其幾分ヲ救恤
トシテ賠償シテヤルコト云フコトハ、當然過
ギル程當然ノ事デアリカラト云フノデ、各
派悉ク一致ヲ以テ斯様ナ希望條件ヲ附シテ
可決確定シタヤウナ次第デアリマス、ソレ
カラ本法第三條ニ救恤審査會ト云フモノノ
アリマス、其審査會ノ組織ニ付キマシテハ、
貴衆兩院議員中ヨリ若干ノ委員ヲ舉グベ
シ、更ニ言ヒ換ヘマス、第一ノ希望ガ只
今申上ゲタル通り、第二ノ希望條項ガ「本法
追加救恤ト共ニ尼港、環春事變、青島農業
團並薩哈連州引揚被害者等ニ對シ速ニ救恤
ノ途ヲ講シ今期議會ニ提出セラレムコトヲ
望ム」是ダケノ希望條件ヲ附シマシテ、全
部全員一致可決確定シタ次第デアリマス、
此段御報告致シマス(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 本案ニ關シテハ質
疑ノ通告モ討論ノ通告モアリマセヌ、直ニ
採決ニ入リマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ
御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○原野兵衛君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、
第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可
決確定セラレンコトヲ望ミマス

(「贊成」ト呼フ者アリ)
○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、直ニ第二讀會ヲ開キ議案全部ヲ議題
ト致シマス

同盟及聯合國ト獨逸國及其ノ同盟國ト
ノ戰爭ニ因リ損害ヲ被リタル帝國臣民
ノ追加救恤ニ關スル法律案

第二讀會(確定議)
(「異議ナシ」贊成「ト呼フ者アリ」)

○副議長(清瀬一郎君) 別ニ御發議モアリ
マセヌカラ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報
告通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第十
乃至十三ハ同一委員ニ付託シタル議案デア
リマス、仍テ一括議題ト爲スニ御異議アリ
マセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程第十、臺灣事業公債法中改
正法律案、日程第十一、製鐵所特別會計ニ
於テ大藏省預金部ノ橫濱正金銀行ニ對スル
債權ノ讓渡ヲ受クルコトニ關スル法律案、
日程第十二、健康保險特別會計法中改正法
律案、日程第十三、健康保險法中改正法律
案ヲ一括シテ、其第一讀會ノ續ヲ開キマス、
委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長佐々木
長治君

第十 臺灣事業公債法中改正法律案
(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提
出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和四年二月二十八日
委員長 佐々木長治
衆議院議長元田肇殿

第十一 製鐵所特別會計ニ於テ大藏省
預金部ノ橫濱正金銀行ニ對スル債權
ノ讓渡ヲ受クルコトニ關スル法律案
(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一 製鐵所特別會計ニ於テ大藏省預金部ノ
橫濱正金銀行ニ對スル債權ノ讓渡ヲ受
クルコトニ關スル法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和四年二月二十八日
委員長 佐々木長治
衆議院議長元田肇殿

第十二 健康保險特別會計法中改正法
律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一 製鐵所特別會計ニ於テ大藏省預金部ノ
橫濱正金銀行ニ對スル債權ノ讓渡ヲ受
クルコトニ關スル法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和四年二月二十八日
委員長 佐々木長治
衆議院議長元田肇殿

報告書

一健康保險特別會計法中改正法律案
(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和四年三月四日

衆議院議長元田肇殿

委員長 佐々木長治

第十三 健康保險法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一健康保險法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也
昭和四年三月四日

衆議院議長元田肇殿

附帶決議

政府ハ速ニ健康保險法改正ニ關スル調査
ヲ完了シ之ガ根本的改正ヲ爲スベシ
(佐々木長治君登壇)

○佐々木長治君 臺灣事業公債法中改正法

律案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シ
マス、本案ニ付キマシテハ、後デ討論モ行
ハレルヤウデアリマスルカラ、政府委員ノ
説明ニ付キマシテ、大略御紹介致シタイト
考ヘマス、臺灣ニ於ケル鐵道運輸用石炭ハ、
從來四脚亭ノ鐵道部所有ノ鑛區カラ採掘致
シテ居タルデアリマス、所ガ同鑛區ハ昭和
三年度ヲ以テ採掘ヲ終ルノミナラズ、四脚
亭附近ノ優良炭田ノ命脈ガ漸次縮小セラレ
ツ、アル現狀ニ於キマシテハ、今後ハ條件
ノ頗ル不利ナル購入炭ニ依ラナケレバナラ
ナイコトニナルデアリマス、隨テ新優良
炭田ノ開發ハ、鐵道政策上將タ一般産業ノ
發達上喫緊ノ事デアリマシテ、政府ハ豫テ
ヨリ是ガ對策ヲ考究シテ居リマシタガ、其
結果トシテ有望ナル新炭田トシテ、所謂裏
臺北一帶石炭ノ炭田ヲ選ンダノデアリマ
ス、今回買収セント致シマスル臺灣鑛業株
式會社所有ノ三貂嶺、善桐坑間延長八哩一分
ノ鐵道ハ、此炭田ノ中心ヲ通ズル現在唯一

ノ交通路デアリマス、然ルニ本鐵道ハ會社
ノ專用線デアリマシテ、爲ニ沿線炭田ノ開
發ヲ望ミ得ナイノミナラズ、又假ニ沿線住
民ノ希望ヲ容レマシテ、營業線ニ變更セシ
メマシテモ、會社ハ資力ガ乏シクシテ、是
ガ改良費ヲ負擔スルコトガ出來マセヌ、ソ
レデ到底所期ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナ
イ憾ミガアルデアリマス、仍テ政府ハ之
ヲ買収致シマシテ、本鐵道ノ經濟的能率ヲ
増進シテ、以テ炭田ノ開發ヲ促進シ、鐵道
運輸用炭ノ價格ヲ安クシ、且ツ供給ヲ潤澤
ニ致シタイ、之ニ依テ延テ一般産業ノ發達
ヲ期セントスルト云フ説明デアリマス、此
買収價格ハ百五十萬圓ト致シマシテ、公債
ヲ時價ニ換算シテ交付シヤウト致スノデア
リマス、委員會ハ前後三回ニ互リマシテ開
キマシタガ、本案直接ノ質問ト致シマシテ
ハ、民政黨ノ坂東君カラ、本鐵道買収ト同
時ニ臺北鐵道ヲ買収シテ、將來兩鐵道ヲ連
絡スルコトガ、鐵道政策上意義深キモノデ
ハナイカトノ質問ガアリマシタ、之ニ對シ
マシテ政府委員ハ、臺北鐵道ハ現在ニ於テ
買収スル意思ガナイ、將來兩鐵道ヲ連絡セ
シムルコトハ、地方交通發達ノ上カラ望マ
シイコトデアルガ、多額ノ費用ヲ要スルノ
デ、現在ノ財政ニ於テハ考慮スルコトガ出
來ナイ、今回ノ買収ハ炭田開發ヲ主要ナル
目的トシテ居ルコトヲ諒セラレタイトノ
意味ノ答辯ガアリマシタ、次ニ政友會ノ赤
尾、板谷兩委員カラ、本鐵道買収ノ價格ヲ
百五十萬圓ト算定シタノハ、如何ナル計算
ノ基礎ニ據リタカト云フ質問ニ對シマシテ、
政府委員ハ本鐵道ハ建設費ニ於テ二百三十
餘萬圓トナシテ居ルガ、政府ハ之ヲ現在建設
スルモノト假定シテ之ヲ見積ラ結末、百五
十九萬餘圓ノ計算ヲ得タガ、百五十萬圓ヲ
以テ買収スルコトニ決定シタト云フ意味ノ
答辯ガアリマシタ、討論ニ入リマシテ民政
黨ノ坂東君カラ、原案ニ反對ノ意思ヲ表
示セラレ、政友會ノ赤尾君カラ賛成ノ意味ヲ
表シセラレマシタ、採決ノ結果賛否同數デア
リマシタノデ、委員長ハ可決スベキモノト裁
定致シマシテ、本案ハ委員會ニ於テ可決セ

ラレタノデアリマス、次ニ製鐵所特別會計
ニ於テ、大藏省預金部ノ橫濱正金銀行ニ對
スル債權ノ讓渡ヲ受クルコトニ關スル法律
案ノ委員會ニ付キマシテ御報告致シマス、
本案ニ付キマシテハ大口大藏政務次官ノ
説明ノ後デ、淺原君並堤君ヨリ詳細ナル質
問ガアリ、之ニ對シマシテ中井、富田兩政
府委員カラ又懇切ナル答辯ガアリマシタ、
委員長ハ其御熱心ニ對シテ深く敬意ヲ表
スルデアリマス、詳細ナルコトハ速記録
デ御覽ヲ願フト致シマシテ、重要ナル多數
ノ質問ノ中デ、本案ニ最も關係ノ深イモノ
ニツテ御紹介致シタイト考ヘマス、第一ハ
漢冶萍鐵廠鑛有限公司ニ對シテ、日本ハ
幾ラノ貸金ヲ致シテ居ルカ、其元利ノ支拂
ハ現在ドウ云フ風ニナツテ居ルカト云フ問
デアリマス、之ニ對シマシテ政府ハ總計四
千一百二十二萬餘圓トナシテ居ル、元利金ノ支拂
ニ付テハ、製鐵所ノ買取リマスル鑛石代カ
ラ優先的ニ支拂ヲ受ケルコトニナツテ居ル
ガ、其後同公司ハ戰亂其他ノ爲ニ全ク行詰
テ、元利金ノ支拂ヲ思フヤウニ受ケルコト
ガ出來ナイ、愈々行詰タ結果、今日ノヤウ
ナ事情ノ下ニ、本案ニアリマスル二百萬圓
ヲ、昭和二年ノ一月ニ鑛石銑鐵ノ相當量ヲ
供給シ、且又元金支拂ヲ爲シ得ナイ場合ニ
ハ、一應正金ト製鐵所ト同公司ト商議ヲ致
シマシテ、商議ガ二箇月内ニ整ハナイ場合
ニハ、日本ノ指名スル者ニ其經營ヲ一任ス
ルト云フ意味ノ覺書ヲ取交スコトニ依テ、
最後ノ二百萬圓ヲ貸出シタノデアリマス、
サウシテ同公司ノ經營ノ命脈ヲ繋イダノデ
アリマスガ、現在ニ於キマシテ鑛石ニ付キ
マシテハ、明治三十三年以來ノ最高「レコ
ード」デアル年四十萬噸以上ノ供給ヲ受ケ
テ居ルデアリマスルガ、銑鐵ハ供給ヲ受
ケルコトガ出來ナイシ、元利金ノ支拂モ受
ケルコトガ出來ナイ狀態ニ今日デハナツテ
居ルトノ各辯ガアリマシタ、第二ニ然ラバ
多額ノ左様ノ預金部カラ貸付金ガアルト
スレバ、其中デ二百萬圓ノミヲ製鐵所ニ讓
渡シヤウトスル所以ハドウデアルカ、尙ホ
進ンデ所謂政友會ノ積極方針ニ則テ、先程

ノ覺書ノ趣旨ヲ實行スルヤウニシナイカト
云フ問ガアリマシタ、之ニ對シマシテ政府
委員ハ、二百萬圓ノ借款ハ當時製鐵所ヨリ
貸付クベキ筋合ノモノデアッタノガ、當時ノ
製鐵所特別會計ノ規定ニ拘束セラレテ、臨
機ノ處置トシテ預金部カラ融通シタモノデ
アルカラ、其爲ニ今回其二百萬圓ノミハ、
取敢ヘズ製鐵所ニ肩代リシヤウトスルノデ
アル、他ノ債權ニ付テハ成立ノ事情、其他
金額モ大キイデアリマスルシ、關係ガ重
大デアリマスルガ故ニ、各方面共其整理ニ
付キマシテハ今日ハ考慮中デアアル、覺書ノ
趣旨實行ニ付キマシテハ、製鐵所正金銀行
ヨリモ漢冶萍ノ整理委員會ニ委員ヲ派シ、
又顧問ヲ派シテ其趣旨實行ニ努力致シテ居
リマスガ、經營ノ一任ヲ受ケルト云フコト
ハ、民國ノ政情カラ致シマスルモ、亦更ニ
ソレ以上ノ理由ト致シマシテハ、經濟的見
地カラ考ヘマシテ、非常ニ考究ヲ要スル點
ガアル、デアアルカラシテ未ダ決定シテ居
ナイト云フ答辯ガアリマシタ、採決ニ這入リ
マシテ討論ヲ用ヒズシテ、本案ハ原案通り
滿場一致可決セラレタノデアリマス、次ニ健
康保險特別會計法中改正法律案デアリマス、
本案ニ付キマシテハ、政府委員ヲ説明ノ後ニ
簡單ナ質問ガアリマシタバカリデ、本案ノ改
正ハ適當ナルモノト認メラレマシテ、滿場一
致原案通り可決セラレタノデアリマス、次
ニ健康保險法中改正法律案デアリマス、委
員會ハ開會二回ニ互リマシテ、本法ノ根本
ノ改正ニ關スル事項ニ付キマシテ、意見ヲ
含ンダ重要ナル質問ガ淺原君、大里君、久
恒君等カラアツタノデアリマス、政府ハ之ニ
對シマシテ大體健康保險法ガ實際社會ニ於
テ有效ニ——有益ニ成績ヲ擧ゲテ、社會的
ニ有力ナル法案タルベキコトヲ期待シテ、
根本的改正ハ近キ將來ニ行ハルベキ時期ア
ルベキヲ認ムルモ、今回ハ本法ノ根本ニ觸
レズシテ、二年間ノ實踐ニ微シテ、諸般ノ
事務ノ手續、保險料ノ強制徵收ノ方法デア
ルトカ、保險給付ノ内容等ニ關シテ改善ヲ加
ヘテ、本事業ノ施行ヲ圓滑ニシ、事務ノ簡
捷ヲ圖ラント致シタノデアルトノ答辯ガアリ

リマシタ、本案其モノニ付キマシテノ質問ト致シマシテハ四十七條ノ改正デアル、殊ニ六十一條ニ著シキ不行跡ノ一項ヲ加ヘルコトニ付キマシテハ、段々御議論モアリマス、熱心ナル質疑應答ガアタノデアリマス、是等ノ事項ニ互ツテ淺原君、中井君、大里君等カラ、政府當局ニ對シテ注意的の希望ノ發言モアリマシテ、政府ハ其希望ニ付テハ十分注意スルトノ答辯ガアタノデアリマス、採決ニ入リマシテ小谷君カラ「政府ハ速ニ健康保險法改正ニ關スル調査ヲ完了シ之ガ根本的改正ヲ爲スベシ」トノ附帶決議ノ提案ガアタノデアリマス、之ニ對シマシテ淺原健三君、大里廣次郎君、中井一夫君カラ、各本案ニ賛成スルニ至ル迄ノ立場ニ付テ、又希望ヲ含シテ御演說ガアリマシテ、本案並ニ附帶決議共滿場一致可決セラレタノデアリマス、右御報告ヲ申上デマス(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 議題トナツテ居リマスル四案中先ツ臺灣事業公債法中改正法律案ノ審議ニ入リマス、而シテ此案ニ關シテハ討論ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——堤康次郎君

〔堤康次郎君登壇〕

○堤康次郎君 現在ノ財政狀態デハ成ベク新事業ヲ少クシ、成ベク公債ヲ少クシナケレバナライノデアアルガ、臺灣當局ノ遺方ハ成ベク新事業ヲ多クシ、成ベク公債ヲ多ク發行シヤウトシテ居ルヤウデアアル、是ハ我が國策ノ根本ニ反スルノデアアル、併シ今ドウシテモヤラナケレバナライト云フモノデアレバ、是ハ又別デアリマスガ、私ハ本案ノ如キモノハ今決シテ急イデアル必要ハナイ、寧ろ永久ニヤルベキ必要ノナイモノデアルト考ヘルノデアリマス(ヒヤ)「此意味ニ於テ本案ニ對シテハ反對ノ意見ヲ表明スルモノデアアル、極ク簡單ニ其理由ヲ申上デマス、大體本案ハ今佐々木委員長ノ報告セラレマシタ通り、臺灣鑛業會社ノ持テ居リマスル石炭ノ探掘ノ爲メ專用鐵道約八哩ヲ、百五十萬圓ノ公債ヲ買收シテヤラウト云フ案デアアル、ザット一哩ノ單價ガ二十

萬圓位ニナルノデアリマス、今我國ノ私設鐵道ノ建設費ノ總平均ハ一哩約十四萬圓位ニナツテ居ル、臺灣ノ如キ用地費ノ安イ處デ一哩二十萬圓ト云フノハ餘リ安イ價段デハナイノデアアル、ノミナラズ此鐵道ト云フモノハ非常ニ御粗末ナモノデアルト云フコトハ、委員會ニ於テ政府委員ノ説明ニ依テ明デアル、政府委員ハ委員會ニ於テ説明ヲ致シテ居リマスルガ、其要點ヲ朗讀シマス「隨テ所謂賣ノ持チ腐レトデモ申ノマスガ、隨分ヒドクナツテ居、相當ノ金ヲ掛ケテ改善シナケレバナラヌ、斯様ナ狀態ニアリマスガ、其改善スラモ満足ニ出來ナイ、斯様ナ次第デアリマス、隨ヒマシテ列車ヲ動かス回数ト云フモノモ極メテ少ナイ、唯自分ノ所ノ石炭ヲヤット出シテ居ルト云フヤウナ次第デアリマシテ」云々ト申シテ居リマス、之ニ依テモ此鐵道ガ極メテ御粗末ナモノデアルト云フコトハ想像ガ出來ルノデアアル、先ツ石炭探掘ノ爲メ「トロコ」ニ一寸氣ノ利イタ位ノモノデアツテ、少シ高イ處カラ見ルト松明ヲ立テ、百足ガ行列ヲシテ居ルヤウニ見エル位ノモノデアアル、斯様ナモノヲ一哩二十萬圓買フト云フコトハ、寔ニ御深切ナコトデアリマスガ、値段ハ別ト致シマシテモ、根本ニ於テ大體鑛山ヲ探掘スルガ爲メ數イテ居ル私設鐵道ヲ買收シタト云フ例ハ殆ドナイノデアアル、全國ニハ無數ノ優良ナル鑛區ガアル、鑛物ノ成分ハ豐富ニアルケレドモ、運搬ノ便ガ惡イカラ採算ガ引合ハナイト云フコトデ、脾肉ノ欺ヲ洩シテ居ル所ノ鑛山主ト云フモノハ澤山アル、ソレヲ此鐵道ノ如ク買收シテヤル、更ニ又改良ヲシテヤルト云フコトニナツタナラバ、多數ノ鑛山ヲ持テ居ル者、即チ皮肉ノ嘆ヲ漏シツ、唯徒ニ年々鑛區稅ヲ拂テ居ル者ハ、ドウモ今度ノ臺灣鑛業會社ノ如キモノハ、三井ノ運動デ旨イコトヲスル痛ニ障ルト云フヤウナ感ジヲ持ツコトハ決テ居ル、斯ウ云フ考ヲ一部ノ者ニ持タスニ云フコトガ、段々危險思想ヲ醸成スル本ニナツテ來ルノデアアル(拍手)總テ此國民ノ經濟戰ト云フモノハ、公平ニヤラサナケレバ

ナラヌ、優勝劣敗適者生存ノ原則ノ下ニ立テ、同ジ「ハンディキャップ」ノ下デ「スタート」ヲ切テコソ、初メテ經濟戰ニ敗シテ悲況ノどん底ニ沈淪シテモ諦メルコトカ出來ルガ、一部ノ者ガ失敗シタ場合ニ於テハ、政府カラ救助シテ貰ヘルト云フコトニナツタル者ハ、洵ニ是ハ不公平ナ事デアアル、一部ノ者ハ財閥ハ政府ヲ結托シテ旨イコトヲスルト云フヤウナ感ジヲ持ツコトガ、知ラズ識ラズ危險思想ヲ醸成スルコトニナルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌノデアアル、(拍手)私ハ本案ノ如キコトハ洵ニ餘計ナコトデアルト思フ、其的確ナル證據ハ臺灣デハ政府ハ今、日月潭水力電氣ヲヤラウトシテ居ル、此日月潭水力電氣ヲヤツテシマッタナラバ、臺灣ノ鐵道ト云フモノハ殆ド全部電化セラレル、隨テ石炭ノ必要ハ大シテナイ、サウシテ見ルト今此石炭探掘ノ爲メ専用鐵道マデ買收ヲシテヤツテ、石炭ノ探掘ヲ保護獎勵スルト云フ必要ハナイノデアアル、日月潭水力電氣ノ建設ヲ暫ク延バヌ、ソコデ石炭ガ要ル、ソコデ此專用線マデ買收シテヤツテ、石炭ノ探掘ノ保護獎勵ヲスルト云フノナラバ理窟ハ立チマスケレドモ、兩方ヤツテシマフト云フコトハ、何トシテモ理窟ガ立タヌ(拍手)是非之ヲドウシテモヤラナケレバナラヌト云フコトデアルナラバ、私ハ日月潭水力電氣ノ工事ヲ延期シテ、其金デ以テ之ヲ買收スレバ宜シイ、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ノ承認ヲ求ムル爲メ、本院ヘ政府カラ提出セラレタ書類ヲ見ルト、昭和四年度デ臺灣電力會社ヘ三萬圓ノ莫大ノ當分延バシテ、ソレデ此鐵道ヲ買收シタナラバ、公債ヲ發行セズシテマダ百五十萬圓殘ル、何故此方法ヲ採ラナイノデアアルカ、即チ日月潭水力電氣ノ工事ヲ延期スルナラバ、此案ヲ提出スルト云フ理由モ立ツガ、此案モ提出スルト、日月潭水力電氣ノ建設モ急イデヤルト云フコトハ、是ハ全ク議論ノ筋ガ立タナイノデアリマス(拍手)是ハ唯徒ニ一部ノ者ヲ保護スルガ爲メ提出シタモノト見ナケレバナラヌ、私ハ是

ニ於テ臺灣日月潭水力電氣ト云フモノヲ、今直グニヤルコトガ良クナイト云フコトガ、此本案ノ結論ニ對シテ非常ナ重大ナル關係ガアリマスルガ故ニ、議論ノ前提ト致シマシテ臺灣日月潭水力電氣ノ問題ヲ明ニシテ聊論ズル必要ガアル、此日月潭水力電氣ノ問題ハ、豫算分科會ニ於テ我黨ノ田君カラ政府ニ對シテ詳細ニ質問ヲ致シテ居ル、其質疑應答ニ依テ、今不急ノ事業デアルト云フコトハ既ニ明ニナツテ居リマスガ、政府ノ説明スル所ニ依ルト、此日月潭水力電氣ニ依テ十萬「キロ」ヲ出スト云フ、差當テハ二萬七千「キロ」ヨリ要ラナイト云ウテ居ル、サウスルト七萬三千「キロ」ト云フモノハ電氣ノ使ヒ途ガナイノデアアルガ、政府ハ年々二千五百「キロ」位ツ、需要ガ殖エルト申シマスルガ、年々二千五百「キロ」位ツ、殖エタケデハ、是カラマダ全部使テシマフニハ三十年掛ル、洵ニ是ハ遠イ話デアル、ソコデ政府ハ此餘タモノデ肥料ヲ拵ヘルト申シテ居ル、併ナガラ政府ノ計算ニ依ルト、「キロ」一錢六厘トノコトデアリマスルガ、内地デモ窒素肥料ヲ拵ヘテ居リマスノハ、何レモ「キロ」五六厘ノ安イ電氣デヤツテ居ル、此位安イモノデナケレバ引合ハナイ、ソコデ政府ガ臺灣デ肥料ヲ拵ヘルト申シマシテモ、電氣ナラバ海ヲ越エテ幾ラ安クテモ内地カラ臺灣マデ送ルト云フコトハ出來ナイケレドモ、窒素肥料ガ安ク内地デ出來タナラバ、ドント臺灣ヘ送ルコトニナル、是ハ競争ニ勝テナイコトハ明デアル、政府ハ今日日月潭水力電氣二千九百萬圓ヲ固定サシテ居ル、ソレヲ固定シテ置クコトガ勿體ナイカラ此工事ノ進行ヲ圖ルノダト言ヒマスケレドモ、二千九百萬圓ト云フモノハ機械ヲ買ウテ固定サシテ居ルノデアリマスカラ、三年五年延バシタ所ガ少シモ傷ムコトハナイ、鑄止メサヘシテ置ケバ些トモ差支ナイノデアアル、ソレニ此二千九百萬圓ノモノヲ固定サスコトガ勿體ナイト云フ、更ニ四千八百萬圓ノモノヲ固定サスコトガ勿體ナクト云フ理由ハ立タナイノデアアル(拍手)デ之ヲ二三年假ニ延バスト致

シマシテモ、四千八百萬圓二年六分ノ利息ヲ乘ケルトシテモ、此二年ノ利息ノ總計ガ約六百萬圓位ニナル、其六百萬圓ノ金ヲ以テ火力發電所ヲヤルト云フト約三萬「キロ」ノモノガ出來ル、現在「キロ」二百圓位デ出來ルノデアリマスカラ、六百萬圓アルト云フト、三萬「キロ」ノ火力發電所ガ十分ニ出來テ、而シテ是ガ後ニナツテモ決シテ無駄ニハナラヌ、十萬「キロ」ニ對シテ約三分ノ一位ノモノハ火力發電所ノ準備ノ爲ニ、何處ノ水力電氣デモヤテ居ルノデアルカラ、是ハ少シモ無駄ニナラヌ、何故斯ウ云フ方法ヲヤラナイノデアルカ、又技術ノ點ニ於テモ尙ホ相當ノ疑問ヲ持テ居ル、政府ハ「ストン・ウエプスター」ト云フ會社ノ技師ニ見セタカラ安心ダト申シテ居リマスケレドモ、此「ストン・ウエプスター」ト云フ電氣會社ハ世界ノ二權威ノアルモノダト云フコトハ私モ聞イテ居ル、併シ私ノ聞イテ居リマス所ニ依リマスルト、此會社ノ技師ガ調査シタ結果、マダ技術上多少ノ疑問ガアルト申シテ居ルサウデアル、ソレハ砂ハ如何ニシテ取ルカト云フコトガ中々ムツカシイカラ、是ハ餘程研究ヲシナケレバナラヌト申シテ居ル、日月潭ト云フ湖水ハ濁水溪ノ水ヲ引入レルコトニナツテ居ル、濁水溪ノ水ハ讀ンデ字ノ如ク濁水デ、半分位砂ガ混テ居ル、ソコデ湖水ノ入口デ其砂ヲ如何ニシテ取ルカト云フコトハ、中々技術上ムツカシイノデアデ、外國ニモ斯ウ云フ例ハナイカラ、先ヅ小規模デヤテ見ナケレバナラヌト云フコトヲ「ストン・ウエプスター」ノ技師ガ言ウテ居ルト聞イテ居ルノデアアル、然レニ斯ウ云フ技術上ノ疑問モ殘テ居ルノニ、今之ヲ直ニヤラナケレバナラヌト云フ理窟ハドウシテモ判斷スルコトガ出來ナイ、斯ウ云フヤウナコトヲドントヤテテ居リマスルカラ、日本ノ公債ハ益、膨脹スル、是ハ名前ハ社債デアルケレドモ、政府ガ保證スルノデアルカラ結局公債デアアル、而シテ又當分利益ガ舉ラナイノデアルカラ、是ハ矢張不生産ノ公債デアアル、斯ウ云フ事ヲヤルカラ益、公債ガ殖エルバカ

リデアアル、隨テ爲替モ下落スルバカリデアアル、現在ノ公債ハ既ニ約五十八億ニナツテ居ル、昭和四年度ニ於テ一億九千八百萬圓殖エル、更ニ又間モナク此議場ニ於テ鐵道ノ交付公債ノ議案ガ審議サレルコトニナルガ、ソレダケデモ五千萬圓、又西原借款ノ整理ニ二千萬圓、國際汽船ノ整理ニ三千万圓、鹽田整理ニ一千萬圓、是等ノモノヲ合セマシテザツト六十億以上ニナル、之ヲ六千万ノ國民ニ割當テルト一人ニ百圓デアデ、一軒ニ五人トスルナラバドンナ貧乏ナ者デモ五百圓宛國ノ借金ヲ背負フコトニナル、國民ハソレ「皆個人ノ借金ヲ持テ居ル、其上ニドンナ貧乏ナ者デモ五百圓宛國ノ借金ヲ背負ハネバナラヌト云フコトニナルト、國民ノ士氣ニ及ボス影響モ少クナイト思フ、ノミナラズ直接ニハ爲替ガ益々下落スル、正金銀行ノ表面ノ建値ハ現在四十五弗ニナツテ居ルサウダケレドモ、實際ニ於テハ四十五弗ヲ割テ居ル、正金銀行ハ之ニ對スル對策ヲ致シマスシテ、正金銀行ガ日本銀行ノ持テ居リマス外貨公債ヲ借りテ、ソレヲ擔保ニシテ外國デ金ヲ借りテ決濟シタ、併ナガラ是ハ間接ニ通貨ヲ膨脹サスコトニナルノデアデ、輸入商ガ金ヲ正金銀行ニ拂込ンデ正金銀行カラ日本銀行ヘ決濟スル間ハ、一時、矢張通貨ヲ膨脹サセルノデアリマスガ、併シ是ハ已ムヲ得ヌコトデアリマスカラ、此方法ヲ執ルヨリ外ニ途ガナイ、非常ニ惡イケレドモ斯ウ云フ方法ヲ執ラナケレバナラヌト云フコトハ、是ハ「アルコール」ノ中毒ニナツテ居ル者ガ、仕方ガナクシテ「モルヒネ」ノ注射ヲスルヤウナモノデアアル、サウカト思フト、政府ハ此法案、又後刻引續イテ鐵道公債五千萬圓ヲ増發スル案ヲ續々衆議院デ審議セシメルノデアアル、是ハ丁度「アルコール」ノ注射ヲシガ、右ノ手ヲ出シテ「モルヒネ」ノ注射ヲシツ、左ノ手デ酒ヲ飲ンデ居ルヤウナモノデアアル、此内閣ハ此醉拂ヒ内閣ノヤルコトハデアリマスガ、此醉拂ヒ内閣ノヤルコトハ徹底シテ居ルト思フ（拍手）此法案ノ如キモノハ何ノ理由ニ依テ臺灣總督ハ出スノデア

ルカ、吾々ハ疑ハザルヲ得ナイノデアアル、川村臺灣總督ハ臺灣ノ輿論デアルト云フテ居ル、臺灣ノ輿論デアアルニ違ヒナイ、臺灣ニ於テ五千萬圓ノ金ヲ投ジテ吳レルト云フコトデアレバ、臺灣ニハ黃金ノ雨ガ降ルノデアリマスカラ、是ハ歡迎スルニ違ヒナイ、併ナガラ國民ハ堪ラナイ、臺灣ノ總督ハ何レノ時代ニ於テモ臺灣ノ島民カラセガマレテ居ルノダケレドモ、皆之ヲヤラナクッタノデアアル、今日迄田、内田、伊澤、上山四代ノ總督ガ七年ノ間臺灣ノ島民ノ希望ヲ斥ケテ、國家の見地ニ立テ毅然トシテ此事ヲ中止シテ居タ英斷ニ對シテハ、吾々滿洲ノ敬意ヲ表セザルヲ得ナイノデアアリマ、川村臺灣總督ハ、若シ臺灣ノ島民ニ媚ル爲ニ斯ル無謀ナル案ヲ出スニ於テハ、君ノ政治的價值ヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、若シ此議政壇上ニ於テ論ズルコトヲ憚ルヤウナ或種ノ目的ヲ以テ之ヲヤルナラバ其罪惡カラズ斷ジテ救ヌコトハ出來ナイ、殷鑑遠カラズ、臺灣電力會社ガ今日ノ悲境ニ墮テ居ルノハ何ノ爲デアリカト云フト、創立當時重役ガ「コンシジョン」ヲ取リタイ爲ニ、要リモシナイ機械ヲ三千八百萬圓モ買テシマス、未ダ工事ガ出來ナイ内カラ、出來タ後デナケレバ据附ケラレナイモノヲ、「コンシジョン」ヲ取リタイガ爲ニ早ク買ウタ結果ガ、臺灣電力會社ヲシテ斯ル悲境ニ至ラシメタノデアアル、斯ウ云フ惡イ例ガ眼前ニ在ルノデアリマス、川村總督ハ決シテ左様ナ考デハナイト思フケレドモ、世人ガ疑成ヲ挾ムモノモ洵ニ無理カラヌコトデアアル、李下ニ冠ヲ整サズ瓜田ニ履ヲ納レズト云フコトガアル、世人ノ疑惑ヲ受ケルヤウナ事ハ餘程慎重ナル態度ヲ執ルコトガ必要デアアル、吾々ハ斯ル理由ニ依テ此臺灣事業公債デモ日月潭ノ水力電氣デモ、共ニ我ガ國策ト相容レズ、且又事業ノ本質ガ斷ジテ許スコトノ出來ナイモノデアルト信ズルガ爲ニ反對スルノデアアル（拍手）

○副議長（清瀬一郎君） 小谷節夫君（小谷節夫君登壇）
○小谷節夫君 私人ハ只今議題トナツテ居リマスル臺灣事業公債法中改正法律案ニ對シマシテ、賛成ノ意ヲ表示シ、先程ノ委員長報告通り即チ政府原案通り可決確定セラレンコトヲ望ム者デアリマス、高ガ百五十萬圓ノ問題ナド、申シマスルト、近頃流行ノ輕卒不謹慎ノ至リナド、言ハレマスカ知レマセヌケレドモ、苟モ衆議院ノ壇上デ論ジマスル問題トシテハ、ソレガ何德ト云フ問題デハナク、何十萬圓ト云フ問題デモゴザイマセヌデ、百五十萬圓ノ事業公債ノ問題デアリマシテ、而モ其筋道ガ非常ニ通テ居リノゴザイマスカラ、私ハ之ニ對シテ餘リ口角泡ヲ飛バシテ論ズル必要ハナイト思ヒマスルノデ、至極簡單ニ明瞭ニ私ハ賛成ノ意思ヲ表示致シマス、私ハ常ニ世ノ中ノ問題トナリマシタモノヲ研究致シマス場合ニ、自分ノ身體ヲビタリト其當事者ノ立場ニ當メテ考ヘルコトヲ習慣トシテ居リマス、客觀的デハナク、徒ニ抽象的デハナク、兎ニ角自分ノ身體ヲ其立場ニ置イテ考ヘテ見ルト、一番公平ナ判斷ガ出來ルノデアリマス、是ハ西郷南洲翁ガ常ニヤツテ居ラレタ方法デアリマスシテ、西郷南洲翁ノ遺訓ノ中ニモサウ云フコトガ書イテゴザイマス（代議士ハ違ウゾ）ト呼フ者アリ）代議士トシテ此法案ヲ研究致シマス時分ニハ特ニ其必要ヲ感ズルノデアリマス、私ハ今此問題ヲ、自分ヲ臺灣總督ノ立場及臺灣總督府鐵道部長ノ立場ニ置イテ考ヘテ見タナラバ、非常ニ公平ナ判斷ガ出來ルト思フ、先程堤君ノ御話ノ中ニハ不急ノ問題デアルト云フ御話ガゴザイマシタケレドモ、只今臺灣ノ鐵道ガ使テ居リマスル石炭ハ、四脚亭ト云フ炭坑カラ掘テ居ルノデゴザイマスガ、其炭坑ノ炭ハ昭和三年度ヲ以テ掘盡シテシマウノデアリマス、日月潭ノ水力電氣ハドウ致シマシテモ今直グト云フ間ニハ合ハナイノデアリマシテ、是ハ數年前カラノ懸案デアッタノデアリマス、ソレデ色ト石炭ヲ探シテ見ル中ニ、臺臺北ノ中ニ非常ニ良イ炭田ガアリマシテ、サウシテ三千百萬噸ノ可採炭量ガアル、其三千百萬噸

ノ可採炭量ノ中千五百萬噸ガ非常ニ優良炭デアリマシテ、鐵道ノ運輸用ニ非常ニ都合ノ好イ石炭デアル、サウ云フ譯デ其石炭ヲ採リマス爲ニ、其炭坑所在地カラ鐵道ノ幹線ノ間ニアリマス八哩一分ノ鐵道ヲ、買收スルコト云フコトニナッタデアリマス、先程ハ如何ニモ變手古ナ鐵道デアルカノヤウナ、何カ「トロ」ダケデ動イテ居ルヤウナ鐵道ト云フヤウナ御批評モアリマシタガ、立派ニ三呎六吋ノ鐵道デアリマシテ、サウシテ台社ハ經營難ノ爲ニ十分ニ此鐵道ヲ改良スルコトガ出來ナイ、所ガ其鐵道ノ八哩一分ノ沿線ニハ外ニ色々ノ炭坑モゴザイマスシ、或ハ米デアルトカ、茶デアルトカ、材木ト云フヤウナ物資モ澤山アリマスノデ、沿線ノ人間ハ非常ニ希望シテ居ル、是非此鐵道ヲ改良シテ營業用ニ供シテ貰ヒタイト云フコトヲ總督府ノ方ヘ出願シテ居ル、サウ云フコトニナツテ總督府ガ買收スルコトニナツタノデゴザイマスカラ、私ガ臺灣總督トシテノ立場ニ立チマシテモ、是ハ立派ニ買テ宜イモノデアルト私ハ思フノデアリマス、サウシテ、此鐵道ヲ初メ造リマシタ時分ニハ、先程委員長ノ報告ノ通り二百三十七萬圓ノ經費ヲ投ジテ居ルノデアリマス、サウスルト今度ハ立場ヲ變ヘテ其鐵道ヲ持テ居ル人間ノ方面カラ考ヘテ見マスルナラバ、出來ルダケ高ク賣リタイノハ是ハ當然デアリマス、總督府トシテハ出來ルダケ安ク買ヒタイ、賣ル方デハ出來ルダケ高ク賣リタイ、ダカラシテ是ハ一方バカリノ思フヤウニ安イ値段デ買ヘナイト云フコトハ當然ノコトデアリマス、唯問題ハ其値段ガ高イカ安イカト云フ問題ニナツテ來ルノデアリマスガ、私ハ數年來ノ日本ノ鐵道ノ買收ノ様子ナカヲ調ベテ見マシテ、決シテ不當ノ値段デナイト云フコトヲ判斷シタノデアリマス、是ハ皆様ノ中ニ先程ノ堤サンノ御言葉ノ中ニモ大分濁テ居リマシタガ、如何ニモ利權問題ト云フモノガ喰付イテ居ルト云フコトデ、非常ニ反對ニナツテ居ルト云フ御話デアリマス、所ガ政友會ノ總督ガ臺灣ニ居テシマスル仕事ニハ民

政黨ノ方々ガ皆利權問題ガ喰付イテ居ルトシテ之ニ御反對ナサル、又民政黨ノ總督ノ方ガ臺灣デ爲サレル仕事ニ對シテハ、政友會ノ連中ガ利權問題ガ喰付イテ居ルトシテ之ニ反對スル、斯ノ如クナリマシタナラバ、臺灣ニ於ケル仕事ト云フモノハ絕對ニ出來ナイコトニナルノデアリマス、特ニ此問題ハ決シテ川村總督ガ行カレマシテカラ後ニ起タ問題デアリマセヌノデ、特ニ天降リノ案デハナイノデアリマス、鐵道部ノ當事者ガ、ドウシテモアノ炭坑ノ石炭ニ頼ラナケレバナラヌ、ソレニハアノ鐵道ヲ買收シテ、サウシテ改良スルノガ工合ガ宜イト云フコトニナリマシテ、サウシテ鐵道部ノ方カラ上山總督時代ニ之ヲ上申致シマシテ、上山總督カラ政府ノ方ヘ上申セラレタコトガアルノデアリマス、所ガソレガマダ議會ヘ提出スル運ビニナリマセヌデ、上山總督ガ辭セラレマシテ、サウシテ其後ヘ川村總督ガ行カレマシテ、川村サンノ時ニナツテ今度ノ議會ニ出タノデアリマス、サウシテ見マス、利權問題ノ臭ヒガ若シスルト致シマシタナラバ、上山總督時代ノ其利權問題ノ臭ヒガシテ居ル譯デアリマス、私ハサウヤカマシタ仰シヤルト云フコトニナルト、泥棒ヲ捕ヘテ見レバ吾子ナリト云フ結論ニナリハシナイカト思フノデアリマス(拍手)假ニ泥棒デアルトシテモト申シマス、私ハ御互ニ己ノ欲セザル所ヲ人ニ施サザルヤウニシマシテ、サウシテ所謂德孤ナラズ必ズ隣アリト云フヤウナ遣方ヲシナケレバ、政治ハ段々暗黒ニナリマシテ、決シテ明ルクハナツテ來ナイノデアリマス、私ハ先程申シマシタ通りニ、餘リ長ク申述ベル必要ハアリマセヌノデ、先程日月潭ノ問題ヲ盛ニ論ゼラレテ居リマシタケレドモガ、是ハ問題外デゴザイマスカラ、私此處デ論ジマセヌ、只民政黨ノ方ハ公債ト言ヘバ非常ニ御嫌ヒデゴザイマシテ、僅ニ二百五十萬圓デモ、公債ダカラト言テ大變御嫌ヒニナツテ居ルヤウデゴザイマスガ、黨内ニ於テモ皆サン御交際ガ御嫌ヒナサウデ、民政黨ハ非常ニ冷ヤカデアルト云フコトヲ、民政黨ノ内輪ノ

人ガ申シテ居ル、私ハ幾ラ公ケノ借金ノ公債ガ御嫌ヒデモ、御付合ノ交際ハ一ツ御好キ下サイマシテ、サウシテ滿場一致可決確定セラレンコトヲ望ムノデゴザイマス(拍手)

○副議長(清瀨一郎君) 討論ヲ終リマシタ、採決ニ入リマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ望ミマス

(贊成者 起立)

○副議長(清瀨一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ決シマシタ

○原惣兵衛君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

(贊成者 起立)

○副議長(清瀨一郎君) 御異議ナシト認メマス、直ニ第二讀會ヲ開キ議案全部ヲ議題ト致シマス

臺灣事業公債法中改正法律案 第二讀會

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(清瀨一郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第二讀會ニ於テハ委員長報告通り決シマシタ、是ニテ本案第二讀會ハ終了致シマシタ

○原惣兵衛君 直ニ本案ノ第三讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

(贊成者 起立)

○副議長(清瀨一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ第三讀會ヲ開キ議案全部ヲ議題ト致シマス

臺灣事業公債法中改正法律案 第三讀會

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(清瀨一郎君) 別ニ御發議モアリマセヌカラ、直ニ採決ヲ致シマス、本案ニ贊成ノ諸君ハ起立

(贊成者 起立)

○副議長(清瀨一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ハ可決確定致シマシタ、次ニハ製鐵所特別會計ニ於テ大藏省預金部ノ橫濱正金銀行ニ對スル債權ノ讓渡ヲ受クルコトニ關スル法律案ノ審議ニ入リマス、別ニ

御發議ガアリマセヌカラ本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(清瀨一郎君) 御異議ナシト認メマス、本案ハ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○原惣兵衛君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

(贊成者 起立)

○副議長(清瀨一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

製鐵所特別會計ニ於テ大藏省預金部ノ橫濱正金銀行ニ對スル債權ノ讓渡ヲ受クルコトニ關スル法律案 第二讀會(確定議)

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(清瀨一郎君) 別ニ御發議モナイト認メマス、本案ハ第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)

次ニ健康保險特別會計法中改正法律案、健康保險法中改正法律案ノ審議ニ入リマス、是モ別ニ討論ノ通告ハアリマセヌ、兩案共第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(清瀨一郎君) 御異議ナシト認メマス、第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○原惣兵衛君 直ニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

(贊成者 起立)

○副議長(清瀨一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ議案全部ヲ議題ト致シマス

健康保險特別會計法中改正法律案 第二讀會(確定議)

健康保險法中改正法律案 第二讀會(確定議)

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(清瀨一郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、兩案共委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)以上ヲ以テ只今議題ト致シマシタ四案共全部

議了致シタノデアリマス、日程第十四乃至第十八同一委員ニ付託シタル議案デアリマス、仍テ一括議題ト爲スニ御異議アリヤセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、日程第十四 府縣制中改正法律案、日程第十五、市制中改正法律案、日程第十七、六、町村制中改正法律案、日程第十八、北海道會法中改正法律案、此五案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス—委員長三輪市太郎君

第十四 府縣制中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一府縣制中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和四年三月一日

委員長 三輪市太郎

衆議院議長元田肇殿

〔別紙〕

府縣制中改正法律案中左ノ通修正ス

第四條ニ左ノ二項ヲ加フ

府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受テ前項ノ規定ニ依リ選舉區ヲ分テ數選舉區ト爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ選舉區ヲ分ツ場合ニ於テ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條第一項ニ左ノ但書ヲ加ヘ同條第四項中「市町村ノ區域」ヲ「第一項ノ規定ニ依リ投票區ノ區域」ニ改ム
但シ第四條第三項ノ規定ノ適用ニ依リ市ノ區域内ニ數選舉區アルトキハ其ノ選舉區ニ依ル

第十五 市制中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一市制中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノ

ト議決致候此段及報告候也
昭和四年三月一日

委員長 三輪市太郎

衆議院議長元田肇殿

〔別紙〕

市制中改正法律案中左ノ通修正ス

第二十條第一項ヲ左ノ如ク改ム

市會議員中關員ヲ生ジタル場合ニ於テ第三十條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムベシ此ノ場合ニ於テハ第三十三條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ノ適用ヲ受クル者ナク若ハ前項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ヲ定ムルモ仍其ノ關員ガ議員定數ノ六分ノ一ヲ超ユルニ至リタルトキ又ハ市長若ハ市會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補關選舉ヲ行フベシ

第十六 町村制中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一町村制中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和四年三月一日

委員長 三輪市太郎

衆議院議長元田肇殿

町村制中改正法律案中左ノ通修正ス

第十七條第一項ヲ左ノ如ク改ム

〔別紙〕

町村會議員中關員ヲ生ジタル場合ニ於テ第二十七條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムベシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ノ適用ヲ受クル者ナク若ハ前項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ヲ定ムルモ仍其ノ關員ガ議員定數ノ六分ノ一ヲ超ユルニ至リタルトキ又ハ町村長若ハ町村會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補關選舉ヲ行フベシ

第十七 北海道會法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一北海道會法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和四年三月一日

委員長 三輪市太郎

衆議院議長元田肇殿

〔別紙〕

北海道會法中改正法律案中左ノ通修正ス

第一條第二項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

北海道廳長官ハ北海道會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受テ前項ノ規定ニ依リ選舉區分テ數選舉區ト爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ選舉區ヲ分ツ場合ニ於テ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八 北海道地方費法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一北海道地方費法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和四年三月一日

委員長 三輪市太郎

衆議院議長元田肇殿

〔三輪市太郎君登壇〕

○三輪市太郎君 議題トナリマシタ地方制度、即チ府縣制中改正法律案外四案ノ委員會ノ經過結果ヲ御報告ヲ致シマスルガ、ソレニ先テ御了解ヲ得テ置キタイノハ、此委員會ハ委員諸君ガ熱誠ニ質疑ヲサレマシテ、就中女子ニ公民權ヲ付與スルト云フ問題ノ如キハ、最モ熱心ナル質問應答ヲ重ネラレマシテ、是等ノ事ノ詳細ニ御報告致シタイト思ヒマスルガ、之ヲ報告ヲ致シマシタナラバ、他ノ諸君ノ質疑應答モ是亦御報告ヲセンテレバナルマイと思フノデゴザリマスルガ、委員長ハ此點ニ付テハ、假令簡

單タリトモ皆サンノ質疑應答ノ要點ダケヲ申述ベヤウト云フノ用意ハ致シテ置イタカナレドモ、モウ議會ノ會期モ迫リマシタシ、殊ニ今日ハ尙ホ餘ス所ノ案件ガ三十件餘ニモ互ッテ居リマスルカラ、經過ノ報告ダケハ總テ略スルゴトニ御了解ガ願ヒタイノデゴザリマス、殊ニ又此機會ニ一言諸君ノ御諒察ヲ願ッテ置キタイノハ、質問應答ヲ終リマシテ、討論ニ入ル其間十餘日委員會ヲ開カナカッタノデアリマスガ、此點ニ於テハ實ハ委員長ハ毎日出勤ヲ致シテ居リマシタガ、色々ノ事情デ其運ビニ至ラナカッタコトハ汗願ノ至リデアアル、要スルニ委員長ガ其責ヲ負フ事ヲ御諒察ヲ願ッテ置キマス、討論ニ入りマシテ川島正次郎君ヨリ修正案ガ出マシタノデゴザリマスルガ、是ハ何レ諸君ノ御手許ニ修正ノ報告書ガ配付ニナッテ居ルトハ思ヒマスルガ、此場合はダケハ一讀シテ置イタ方ガ便宜カト思ヒマス、府縣制中改正法律案中ノ「第四條ニ左ノ二項ヲ加フ、府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受テ前項ノ規定ニ依リ選舉區ヲ分テ數選舉區ト爲スコトヲ得、前項ノ規定ニ依リ選舉區ヲ分ツ場合ニ於テ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム、第十五條第一項ニ左ノ但書ヲ加ヘ同條第四項中「市町村ノ區域」ヲ「第一項ノ規定ニ依リ投票區ノ區域」ニ改ム、但シ第四條第三項ノ規定ノ適用ニ依リ市ノ區域内ニ數選舉區アルトキハ其ノ選舉區ニ依ル」之ガ府縣制中ノ改正ノ修正ノ條項デゴザリマス、次ニ市制中改正法律案ニ於テ修正ヲサレマシタル點ハ、第二十條第一項ヲ左ノ如ク改ム、市會議員中關員ヲ生ジタル場合ニ於テ第三十條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムベシ此ノ場合ニ於テハ第三十三條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス、前項ノ規定ノ適用ヲ受クル者ナク若ハ前項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ヲ定ムルモ、仍其ノ關員ガ議員定數ノ六分ノ一ヲ超ユルニ至リタルトキ又ハ市長若ハ市會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補關選舉ヲ行フ

ベシ」之ガ市制中ノ修正デゴザイマス、次ニ町村制中ノ改正法律案中ニ修正ヲサレマシタル點ハ「第十七條第一項ヲ左ノ如ク改ム、町村會議員中關員ヲ生ジタル場合ニ於テ第二十七條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其者ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムベシ此ノ場合ニ於テハ第三十條第三項及第四項ノ規定ヲ準用ス、前項ノ規定ノ適用ヲ受ケル者ナク若ハ前項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ヲ定ムルモ仍其ノ關員ガ議員定數ノ六分ノ一ヲ超ユルニ至リタルトキ又ハ町村長若ハ町村會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補關選舉ヲ行フベシ」是ガ町村制中改正法律案ノ中ニ修正サレタノハ「第一條第二項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ、北海道廳長官ハ北海道會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依リ選舉區ヲ分チテ數選舉區ト爲スコトヲ得、前項ノ規定ニ依リ選舉區ヲ分ツ場合ニ於テ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」以上川島君ノ修正デゴザイマス、續イテ清水留三郎君ヨリ又修正ガ出マシタ、此修正モ是ニテ朗讀スルガ便宜ト思ヒマス、御清聴ヲ願ヒマス」市制中改正法律案中ノ左ノ通修正ス、第九條第一項中「帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子」ヲ「年齡二十五年以上ノ帝國臣民」ニ改ム、第二十條第一項中「關員ヲ生ジタルトキハ」ヲ「關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ五分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ市長若ハ市會ニ於テ必要ト認ムルトキハ」ニ改ム、第六十四條第一項中「市長、助役、收入役又ハ副收入役」ヲ「市長及助役又ハ收入役及副收入役共ニ」ニ改ム、次ニ町村制中ニ於テ修正ヲサレマシタル點ハ「第七條第一項中「帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子」ヲ「年齡二十五年以上ノ帝國臣民」ニ改ム、第十七條第二項中「關員ヲ生シタルトキハ」ヲ「關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ五分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ町村長若ハ町村會ニ於テ必要ト認ムルトキハ」ニ改ム、第四百四十四條第一項中「町村長、助役、收入役

又ハ副收入役」ヲ「町村長及助役又ハ收入役及副收入役共ニ」ニ改ム、次ニ北海道會法中改正法律案ニ於テ「第三條中「帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子」ヲ「年齡二十五年以上ノ帝國臣民」ニ改ム」是ガ清水君ノ修正案デゴザイマス、此討論ニ入りマシテ藤井啓一君ハ清水君ノ修正案中ニテ、市制ノ第九條及町村制第七條ノ婦人公民權ノ點ハ國家社會ノ現狀ガ、今尙ホ許サズト云フ理由ノ下ニ反對ヲ表示サレタノデゴザイマシテ、其他ノ修正案ハ總テ清水君ノ修正案ニ賛成ヲ表示サレタノデゴザイマス、西尾君ハ清水君ノ修正案モ不徹底デハアルガ、政友會ノ案ニ較ベテ稍、進歩的デアルト思ヒ賛成スルノ意見デアリマシタ、再度發言ヲ求メラレマシタ場合ニハ、私ハ面倒デアッタカラ總括的ニ賛成ト申シタノデアリマス、ルガ、例ヘバ是ガ第二議會ニ入りマシテ、逐條審議ニ入ッタ時分ニハ、又別ニ考慮スル點ガアルコトヲ申上ゲテ置クト云フ、斯ウ云フ附言ヲサレタノデゴザイマス、藤井達也君ハ政友會ノ修正案、即チ川島君ノ修正案ニ對シテハ、全然同意デアルト云フ賛成ノ意見ヲ表示セラレ、民政黨即チ清水留三郎君ノ修正案ニ對シテハ、政府案ヲ修正スルコトハ絕對ニ反對デアル、併シ其反對ノ理由中ニ於キマシテ、婦人公民權ヲ與ヘル問題ニ對シテハ、民政黨ヨリモ別箇ノ法律案ガ議員ヨリ提出サレテ居リ、政友會ヨリモ又別箇ノ婦人公民權ノ議案ガ提出サレテ居ルカラシテ、此問題ニ對シテノ意見ハ、其案ヲ審議サレル時ニ於テ述べアル、斯ウ云フコトデゴザイマシタガ、此述アルト云フコトニ付テ、保留ト云フ言葉ヲ用ヒラレマシテ、此保留ト云フ言葉ニ付テ森田君若クハ藤井君……（簡單ニセヨ）ト呼フ者アリ、簡單ハ望ム所デアリマスガ、諸君ノ爲ニ報告ヲシテ居ルノデアリ、藤井君トノ間ニモ色々保留ノ言葉ニ付テノ質問應答ハアリマシタガ、要スルニ藤井達也君ハ、尙ホ再度發言ヲ求メテ言ハレルニハ、矢張保留ノ意味ハ賛否ヲ保留スルニアラズシテ、意見ヲ述ブルコトヲ此場合セヌト云

フノデアッテ、政府案ニ對シテ清水君ノ修正案レフト云フコトハ、總テ反對スルト、斯ウ云フ御意見デアリマシタ、ソレデ清水君ノ又御求ニ依リマシテ、此採決ニ入りマシタル場合ニ、婦人公民權ノ問題ニ付テハ、民政黨ハ自由問題トナシ居ル關係上、之ヲ一案毎ニ採決ヲ要求サレマシタ、其爲ニ清水君ノ修正案ニ對シテハ、一ツ宛採決ヲ致シマシタガ、何レモ少數デ否決ニナリマシタ、今申ス如ク其少數ノ中ニデモ、一案ダケハ藤井啓一君ハ之ニハ賛成ヲサレナカッタノデアル、政友會ノ修正案、即チ今申ス川島君ノ修正案ニ對シテハ、一括シテ採決ヲ致シマシタガ、是ハ多數デ通過ヲ致シマシタ、其修正ヲ可決致シタル残りノ政府案全體ニ對シテ採決ヲ致シタル殘リノ政府案全體一致デ御賛成ニナッタノデゴザイマス、序ナガラ一言申シテ置キマスルガ、西岡君ノ如キハ、餘程御議論ガアツタヤウデアリマスガ、是ハ當議ノ下ニ服サレタ關係上、委員ノ辭職サレタコトデゴザイマスルカラシテ、此點ハ諸君ニ於テモ諒セラレレンコトヲ御願致シテ置キマス、以上ノ通りデアリマシタ、然ルベク御審議アラント望ミマス（拍手）

○副議長（清瀨一郎君） 星島二郎君ヨリ本件各案ニ關聯致シテ、政府ニ對シテ質疑ヲ致シタイ事ガアルト云フ申出デアリマス、之ヲ許シマス、星島二郎君

〔星島二郎君登壇〕

○星島二郎君 此機會ニ於キマシテ、政府ニ質シテ置キタイト思フコトガアリマス、暫時御清聴ヲ戴キタイト思フノデアリマス、

〔此時發言スル者多シ〕

○副議長（清瀨一郎君） 靜肅ニ願ヒマス

○星島二郎君（續） 本案ノ上程サレマシタ時ニ、私ハ殊ニ婦人公民權ノ問題ニ付キマシテ、詳シク政府ニ御尋シタ事ガアルノデアリマス、私ハ今回ノ地方制度ノ大改正、地方自治制ノ擴充ヲ圖ルコトニ付キマシテハ、非常ニ賛成ヲスル一人デアリマス、殊ニ全會一致デ政府ノ原案ノ主ナル部分ガ通

過シタト云フコトハ、何ヨリ證據デアリマスガ、唯一點折角ノ此大改正ニ、婦人公民權ノ何故與ヘラヌスカト云フコトハ、上程ノ日ニ質問致シタルデアリマス、吾々モ亦議員ト致シマシテ、是非トモ昭和新政ノ當初ニ當リ、之ヲ與ヘテ欲シイト云フノデ、殆ド議員ノ絕對過半數ノ賛成ヲ得マシテ提案サレタアルノデアリマス、其後政府ノ答辯其他ヲ見マスト云フコト……

〔此時發言スル者多シ〕

○副議長（清瀨一郎君） 靜肅ニ願ヒマス

○星島二郎君（續） 政府ハ決シテ反對デハナイ、唯問題ハ時機ノ如何ニアルト云フノデアリマシタガ、委員會ノ經過ヲ見マスト云フコト、吾々ハ此問題ニ付キマシテ、政府ノ原案ヲ修正シテ、サウシテ之ヲ通過サセタイト迄ノ希望ヲ、實ハ打開ケテ申シマスレバ持ッテ居リマシタ、ケレドモ吾々ガ單ニ其時ノ面目ヲ維持スル爲ニ、或ハ言懸リヲ通ス爲ニヤルノデナク、眞ニ最も早く之ヲ實現シタイト云フ爲ニハ、ソレハ立憲政治ハ一見シテ言ヘバ妥協政治デアリマス、吾々ノ原案ハ或ハ民政黨ノ出サレル案モ、其實施期ハ今年ニアラズシテ、四年ノ後ノ總選舉、今年之ガ通過シマシテモ、名簿ノ調製ガ出來ナイノデアリマス、若シ是ガ四年ノ後ノ總選舉ニ合フト云フヤウニ、政府ガ自ら進ンデ提案サレルナラバ、吾々ハ必シモ他ノ重大ナル法案ガ、或ハ此會期切迫シマシテ、貴衆兩院ヲ通ル點ニ於キマシテ不安デアリマス、若シ此際ニ於キマシテ、政府ガ誠意アル聲明ヲサレ、且ツ吾々與黨、此政友會ノ幹部ニシマシテ責任ヲ以テ、將來此問題ニ付キマシテ相當ノ處置アルナラバ、吾々ガ又提案者モ茲ニ考ヘテ見タイト思フノデアリマス、茲ニ明瞭ニ政府ノ聲明ヲ得タイト思フノデアリマス（拍手）

○副議長（清瀨一郎君） 望月内務大臣

〔國務大臣望月圭介君登壇〕

○國務大臣（望月圭介君） 婦人公民權ノ問題ニ付キマシテハ、今日マデ屢、申シテアルノデアリマス、只今又星島君ノ熱誠

ヲ罷メテラレタル質問ニ付キマシテ、政府ハ答辯ヲシタト思ヒマス、是迄申シマシタガ如クニ、婦人ニ公民權ヲ付與スルコト云フコトハ、主義トシテ決シテ政府ハ反對ヲシテ居ルノデハナイ、是ハモウ屢、申シテアル、隨テ政府ハ相當ノ時期ニ於テ、或ハ進んで之ヲ提案スルコト云フコトヲ考テ有テ居ルト云フコトヲ、此場合ニ言明テ致シテ置キマス(拍手)

○星島二郎君 内務大臣ノ御答辯ニ依リマスレバ……

〔登壇々々〕ト呼ヒ其他發言スル者多シ

○星島二郎君(續) 相當ノ時期ニ改正ヲ加ヘルト云フコトデアリマス、其時期ハ最も近イ時期ト解釋シマシテ、吾々ハ提案致シマシタル婦人公民權ニ關スル議案提出者ノ同意ヲ得マシテ、撤回致シタト思ヒマス

○副議長(清瀬一郎君) 只今星島二郎君ヨリシテ、婦人公民權ニ關スル議案撤回ノ意思表明ガアリマシタ、是ハ本院ニ於テハ、其上者裁若外四名提出、市制中改正法律案、井上孝裁若外四名提出、町村制中改正法律案、並井上孝裁若外四名提出、北海道會法中改正法律案ノ三案ヲ指スノデアリマス、而シテ此三案ニ對シテハ、星島君以外ノ提案者ヨリモ、撤回ノ申出ガ全部出テ居リマス、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ之ヲ許可スルコトニ決シマシタ、此際議事ノ進行ニ關シ、宣告スルコトガアリマス、増田義一君外三十名ヨリ異議ノ申出ガアリマシタ、仍テ採決致シマス、右撤回ヲ許スニ付キ同意ノ諸君ハ、起立テ請ヒマス

〔賛成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 多數ト認メマス

○副議長(清瀬一郎君) 多數ニ付キ撤回スルコトニ決シマシタ、尙ホ本案ニ關シ質疑ガ出マシテ、工藤鐵男君

〔工藤鐵男君登壇〕

○工藤鐵男君 現内閣ハ重要ナル政策ノ一ツトシテ、地方分權ヲ高調致サレタムデアリマス、地方分權ノ内容如何ニ依リマシテハ、私共ハ或ハ之ニ賛成シ得タカモ知レナカッタデアアル、而モ此度提出セラレマシタル地方制度ニ關スル諸案ヲ拜見致シマシタガ、地方分權ヲシイ所ハ、一ツモ發見シ得ナカッタ云フコトガ、如何ニ現内閣ノ看板ニ偽アルカト云フコトハ明瞭デアリマス、現内閣ハ此度ノ地方制度ヲ以テ、地方分權ノ内容ヲ具ヘタリト言フガ如キハ、羊頭懸ゲテ狗肉ヲ賣グモノデアリマス、吾々ノ此本案ニ賛成シタ理由ハ、斯様ナ意味ニ於テ賛成シテ居ルモノデハナイ、地方制度ヲ完成スルコトハ、如何ナル内容、如何ナル時デアツテモ、常ニ實行シナケレバナラヌノデアリマス、此意味ニ於テ地方制度ノ改正ニハ賛成致シマシタガ、之ヲ捉ヘテ以テ現内閣ノ重要ナル政策、即チ地方分權ヲ包含スルナドト云フコトハ夢ニモ想ハザルモノデアルト云フコトヲ聲明致シマス、先以テ現内閣ハ、地方分權ニ關シテ徹底シタル所ノ政策ヲ、遂行シ得ナカッタシタナラバ、茲ニ私共ハ此度ノ改正案ニ對シテ、種々ナル疑ヲ起スノデアリマス、若シ現内閣ハ多年主張致シ、政友會ハ其説ヲ支持シテ、眞ニ斯様ナ政策ヲ實行スルノデアラナラバ、實ニ明治以來ノ大改革、即チ中央ニ集中セル所ノ權力ヲ地方ニ分チテ、以テ地方ノ自治團體ヲ發展セシムルト云フコトニ付テハ、天下何人カ之ニ異議ヲ唱ヘル者ガアルデアリマセウ、是ニ於テ私ハ斯ノ如ク内容空虛ナル所ノ地方分權案、即チ只今吾々ノ審議シテ居リマスル所ノ府縣制改正ニ付キマシテハ、多大ノ不安ト疑感ヲ持テ居リマスカラ、茲ニ現内閣、殊ニ總理大臣並内務大臣ニ、地方行政ニ對スル所ノ監督ノ問題ニ付テ、私ハ質疑ヲ致シタイノデアリマス、地方長官ノ更迭ニ付キマシテハ、貴衆兩院共ニ、餘リニ其頻繁ナルコトニ、心ヲ憚マシテ居ルノデアリマス、故ニ常ニ貴衆兩院共ニ屢々問題ニ相成リマシタガ、現内閣ハ成立ノ際ニ、地方長官ノ大更迭ヲ行ヒマシテ、

爾來其人選ヲ誤リ、人事行政ノ不當デアッタト云フコトハ、天下齊シク知ッテ居リマス、〔ソナナ微ノ生エタヤウナ問題ハ止メ給ヘ〕ト呼フ者アリ、其微ノ生エタヤウナ問題ヲ屢々繰返ス所ノ問題ガ伏在シテ居ルノデアリマス、即チ去ル二月十八日新庄青森縣知事赴任ノ途上聲明書ヲ天下ニ發表シタノデアリマス、青森縣知事ノ新庄君赴任ノ途上發表シタル所ノ聲明書ハ、如何ニ現内閣ノ官紀ガ紊亂シテ居ルカト云フコトヲ立證スルニ足ルモノガアルノデアリマス、試ニ私ハ其文書ヲ朗讀致シマス、去ル十八日發表二月二十一日赴任、新庄青森縣知事談「政友會ノ往年分裂シテ以來、其間ニ益々感情ニ阻隔ヲ來シ、是ガ根本ノ原因トナリ、昨今縣政萬般ノ上ニ甚ダ面白カラザル所ノ事情ヲ發生シ云々」ソレカラ「先ヅ以テ第一ニ此根本問題ニ付キ至誠至情ヲ以テ、飽迄兩者ノ阻隔ヲ碎イテ、圓滿ニ一致協力セラレヤウニ全幅ノ力ヲ注ギタイ」又青森縣政ノ問題トシテ傍觀スルコトヲ許サナイ、即チ青森縣政ニ於テ絕對ニ多數ヲ占ムル政友會ノ現狀ハ、其事自態ガ縣ノ政治行政ノ上ニ非常ナル關係ヲ有スルモノデアルカラ、此意味ニ於テ政友會ノ分裂セシ現狀ヲ融合一致セシムルト云フコトハ、取りモ直サズ今日マデ此分裂抗争ニ依リ、迷惑ヲ蒙レル八十萬縣民ノ福利ヲ増進スル最モ根本的ノ宿題デアラウト考ヘル

〔此時發言スル者多シ〕

○副議長(清瀬一郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○工藤鐵男君(續) 又更ニ新庄君赴任ノ途上何故頭顱ニ於テ之ヲ言ハナケレバナラナカッタカ、即チ我國ニ於テ天皇陛下ノ命ヲ奉ジ、大臣ノ命ヲ受ケテ、各地ニ赴任シタル所ノ地方長官ハ澤山アリマス、然レドモ或ル政黨ノ分裂ヲ防止シ、之ヲ融合一致セシムルガ爲ニ、是ハ根本的ノ縣治上ノ問題ナリト聲明シ、恰モ政友會ノ特派大使ノ如キ態度ヲ以テ臨シタ地方長官ガ即チ此新庄知事デアアルノデアリマス、私共ハ一縣ノ知事ヲ目標トシテ唯徒ニ論議スル者デハナイタレドモ、新庄知事ハ前任地タル佐賀ニ於

キマシテハ、極メテ令名ノアッタ人デアリマス、極メテ評判ノ好カッタ人デアッタノデアリマス、唯佐賀縣ニ於ケル政友會ノ大物ノ言フコトヲ聞カヌ知事デハ仕方ガナイトシテ、無理ニ青森縣ニ放逐シタト云フコトガ傳ヘラレテ居ルノデアリマス、適任者トシテ地方長官ノ地位ヲ占メル所ノ知事ヲ、一黨派ノ有力者ニ服從セザル所以ヲ以テ、之ニ濫ニ轉任セシムルガ如キハ、即チ現政府ガ地方民ノ感情ヲモ考ヘズ、獨立セル官吏ノ身分ノ保護ヲモ考ヘズ、徒ニ黨派ノ爪牙トスルガ爲ニ地方官ヲ更迭スルガ如キコトヲ見ルニ至テハ、吾々ハ斷ジテ許スコトハ出来ナイ

〔此時議長々々〕ト呼ヒ發言スル者多シ

○副議長(清瀬一郎君) 工藤君——工藤君、本案ニ關係シタル發言ヲシテ下サイ

○工藤鐵男君(續) 私ハ府縣制ノ中ヲ見マシテ、地方分權即チ或ル意味ニ於キマシテハ地方長官ヲ公選トスルコト云フガ如キ重要ナルモノモアルデアラウト思ヒマス、然ルニ地方長官ニ關スル身分上ノ規定ハ勿論チイノデアリマスケレドモ、之ニ關聯シタル一條項ヲ發見シナカッタ爲ニ、此點ニ關スル質問ヲ致スノデアリマス、即チ政府ハ地方分權ヲ高調シテ居タガ、此度ノ改正案ニハナイ、將來地方長官ヲ公選スルノ機會アリヤ、若クハ其用意アリヤ、若クハ之ニ對スル所ノ調査ヲ遂ゲタカドウカト云フコトヲ伺フノデアリマス、何ガ故ニ私ハ斯様ナ質問ヲ起シタノデアルトカト云フト、此微徵タル一地方長官ノ聲明書デアリマスケレドモ、一縣ノ知事ガ已ノ使命ヲ完フルコトヲセズシテ、唯或ル黨派ノ分裂ヲ融合スルガ爲ニ赴任スルコト云フニ至テハ、實ニ地方自治團體トシテノ府縣政ノ精神ヲ蹂躪スルノ甚シキモノデアリマセヌカ(拍手)私共ノ記憶ニハ鮮カデアリマス、即チ十五議會ニ於テ衆議院ハ如何ナル決議ヲ致シタノデアリマスカ、其中ノ二三ノ要項ヲ申シマシテモ「君國ノ爲ニ奉仕スベキ事務官ヲ誘感シテ私黨ノ爪牙ニ供シ、以テ輿論民意ノ

公正ナル發露ヲ妨碍ス、是ハ一ハ以テ「陸下ノ聰明ヲ權蔽シ奉リ、一ハ以テ民意ノ暢達ヲ抑塞スル」所以ニシテ閣臣ノ非違實ニ是ヨリ大ナルハナシ」トアリマス、此一事ハ即チ地方事務官ナルモノガ動モスルト政黨ノ爪牙ニナリテ居ルト云フ、此點ニ關スル本院ニ於ケル意思ノ表明デアリマス、次ニハ「事務官ハ凡テ適當ノ地位保障ヲ與ヘ以テ選舉干渉ノ本源ヲ杜絶シ、將來再ビ斯ノ如キ汚點ヲ我憲政史上ニ印スルモノナカラシメンコトヲ期ス」是ハ固ヨリ選舉干渉ヲ認メテノコトデアリマスガ、併ナガラ事務官ノ地位ヲ保障シ、事務官ヲシク仕事ヲセシムルト云フコトノ保障ガナイ爲ニ、動モスルト政黨ノ爪牙ニ掛リ、政府ノ不當ナル命令ヲ奉ジナケレバナラヌノデアリマスカラ、本院ノ此點ニ關スル意思ガ、如何ニ地方官ノ獨立性ヲ飽迄モ保護スルコト、云フコトガ明瞭デアリカハ私共ノ言ヲ俟タナイノデアリマス、第三ニハ「政務官ヲ設置シタルハ其目的一ニ事務官ヲ永久官トナシ、内閣ノ交替ニ拘ラズ其職ニ安居シテ國家必要ノ常務ヲ執ラシムルニアリ」政務官ト事務官ノ區別ヲ混亂シ、事務官ニ向テ黨派ノ任免ヲ爲ス是レ網紀紊亂ノ本源ニシテ」ト云フコトヲ本院ニ於テ決議シタデアリマセヌカ、更ニ又「本院ハ事務官ニシテ苟モ黨派ニ偏倚スルガ如キモノハ悉ク之ヲ罷免シ、代フルニ純忠無私ノ能吏ヲ以テセン事ヲ要求ス」如何デアリマス、地方長官ハ純然タル事務官デアリマセヌカ、八十萬縣民ニ臨ムニ當テ、一黨一派ノ内訌ヲ治ムルガ爲ニ、最大使命ハ茲ニアリ、根本問題ハ茲ニアリトシテ、黨派ノ爭ヲ救済スルガ爲ニ、縣ノ政治ヲ度外視スルガ如キ知事ハ、明ニ現内閣ノ方針ニ違ヒ、又本院ノ意志ヲモ踐踏スルモノナリト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス（拍手）斯ノ如ク萬々一地方長官ニシテ一黨一派ニ使喚セラレ、其爪牙トナルト云フコトニナリマセバ、現内閣ガ網紀肅正ヲシ、地方自治ノ作興ヲ標榜シテ居ル此時ニ、何デアナタガ地方政治ニ對スル責任ヲ完ウスルコトガ出來ルト言ヘマセウ

カ、即チ地方政治ノ作興ニ對シテ責任アルナタガ、而シテ府縣制ノ改正ニ付キマシテ、最も大切ノ精神ノ方面ニ付テ、現ニ斯ノ如キ事柄ガアリト致シマスナラバ、此點ニ關スル現内閣ノ地方監督ニ對スル御方針ヲ伺ヒタイノデアリマス、私共ハ新庄知事其人ニハ恩怨ハアリマセヌ、青森縣ノ政友會ハ確ニ二分致シマシタ、隨テ縣治上ニ及ブ影響モ固ヨリアルデアリマセウ、縣ノ政治ニ影響ノ及ブ所ハ、豈獨リ政友會ノ内訌ノミナランヤ、總テニ付テ一致セシムルト云フコトニハ、私共敢テ異存ハナイガ、別段政友會カラ俸給ヲ貰テ居ル知事デハナイノデアリマス、然レニ政友會ノ内訌ニ没頭シテ居ルノデアル、若シ縣一致ヲ説ク、黨派ノ如何ヲ問ハズ、縣民一致ヲ以テ縣治ニ當ルト云フナラバ、吾々ハ此事ニ付テハ、或ル意味ニ於テハ敬意ヲ表シマス、然ルニ何等縣一致ヲ説カズ、縣政ノ前途ニ向テ、何等ノ希望ヲモ與ヘズ、唯一縣ノ長官トシテ其地方ニ臨ム根本の方針ガ、政友會ノ内訌ヲ無クスルノガ、地方官ノ第一ノ使命ナリト云フニ至テ、實ニ斯様ナル知事ハ、洵ニ私共國家ノ爲ニ慨ハシイト考ヘマスカラ、此點ヲ申スノデアリマス、（ソレガドウシタ）ト呼フ者アリ、此問題ハ私ノ府縣制ニ關スル一詰リ府縣制ノ運用ニ關シテハ、地方長官ガ其中心トナルノデアル、然ルニ此人ガ一黨一派ノ便宜ノ爲ニ、役所ニ出デズ、縣ノ官舎ニ居テ、政友會系統ノ人ヲ集メテ、色々相談ヲシテ居ル、縣民ハ之ニ對シテ非常ナル反感ヲ持テ居ルノデアリマス、聞ク所ニ依レバ、佐賀縣カラ青森縣ニ赴任スル當時、政友會ノ最高幹部ノ某々ト、現内閣ノ有力者ガ、青森縣ハ政友會ガ分裂シテ困ルカラ、君ノ仕事ハ是ダゾト云フコトノ内命ヲ傳ヘタ所ガ、正直ナル新庄知事ハ、一刻ニ考ヘテ、此聲明書ヲバ東京ニ居テ之ヲ印刷致シ、而シテ去ル十八日青森縣ノ知事官房ニ各新聞記者等ヲ呼ビデシレテ配付シタ、其原本ハ此所ニ私ヲ手ニ遣入テ居ルノデアル、私共ハ一地方長官

ノ進退ニ付テ、彼此レ申ス者デアリマセヌ、吾々ハ事務官ニ對シテハ、出來ルダケ身分ノ地位ヲ保障シテ、黨爭ノ渦中ニ入ラザルコトヲ、豫テヨリ警メテ居ルト云フコトヲ伺ヒマシタ、然ルニ現實ニ茲ニ斯様ノ者ガアリトスレバ、新改正セラレタル府縣制モ、其人ヲ得ザレバ如何ニシテ之ヲ運用スルコトガ出來ルデアリマセウカ、如何ニシテ貴方ハ眞ニ官紀ヲ正シ、地方民ヲ安堵セシメ、而シテ君國ノ爲ニ上下一致シテ當ル所ノ所謂義勇奉公ノ念ヲ起サシムルコトガ出來ルト考ヘルカ、此點ニ關シテ、ドウゾ内務大臣ノ御説明ヲ伺ヒタイ、巨細ニ互テ伺ヒタイコトデアリマセウカ、聽テハ豫算委員會ヲ開カレレデアリマセウカ、事ノ細カナ點ハ、何レ豫算委員會ニ於テ申上ダマス、大體現内閣ノ地方長官ノ監督ニ關シ、黨派ト關係如何、而シテ斯様ナコトガ果シテ縣民ノ幸福ヲ増進スルコトニナルト、現内閣ハ認メテ居ルカドウカ、更ニ進シテ五十五議會ニ於テ本院ガ決議シタ事務官ノ身分保障ニ關シテ、政府ハ如何ナル處置ヲ執リ、而シテ今回ノ如キ場合ニハ、如何ナル方法ニ依テ其知事ヲ監督スルカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス（拍手）

〔答辯ノ必要ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長（清瀬一郎君） 望月内務大臣〔國務大臣望月圭介君登壇〕

○國務大臣（望月圭介君） 地方長官ニ對シテハ、其言動ニ付テモ又長官トシテ地方ヘ臨ムニ付テモ、能ク公平ニ、能ク至誠ニ其職務ヲ行フベキ旨ヲ、政府ハ常ニ申付ケテ居ル譯デアリマス、而シテ之ニ對シテノ監督ハ、決シテ怠ラズ居リマセヌ、只今今藤君ノ新庄知事ニ對シテノ事柄ハ、是ハマダ存ジマセヌ、是ハマダ私ハ聞イテ居リマセヌガ、是ハ君モ一彼ノ聲明書トカ云フコトヲ今仰シヤッタガ、其聲明書ニシテ果シテ不都合ナ點ガアルナラバ、其點ニ付テハ能ク裁メマセウ、ソレカラ知事公選ト云フコトノ問題ニ付テノ御尋ガアリマシタガ、知事公選ト云フコトノ主義ハ、政府ハ尊重ヲ致シマス、併シハ今回ノ地方制度ノ改

正ニハ、之ヲ提案シナカッタ、併シ之ニ付テハ政府ハ調査ヲ怠ラズ居リマセヌ（拍手）

〔工藤鐵男君登壇〕

○工藤鐵男君 只今内務大臣カラ一應ノ御答ガアリマシタ、御存知ガナイト云フコトデアリマスカラ、私ハ重ねテ申上ダマス、去ル二月十九日ノ東京日報ニ載テ居ルコトデアルカラ、天下公知ノ事デアアル、即チ官房ニ於テ新聞記者ニ騰寫版ヲ與レタノデアリマス、新聞記者ハ其官房デ實タ騰寫版ヲ新聞ニ載セテ居ルノデス、（新庄知事ノ重大ナル使命トハ、分裂セル政友會ノ融合ガ第一ノ根本問題）斯様ナ標題デ出テ居ル、内務大臣ハ多忙デアラセラレカラ、一地方ノ事ハ知リハシマス、然レドモ是ハ現内閣ノ綱紀肅正、若クハ官紀肅正ニ關スル大問題デアリマス、縱今一地方ニ起タコトデアリマシテモ、一事ハ以テ萬事ヲ知ルニ足ルノデアラテ、此事ハ偶、以テ青森縣ニ起リマシタコトデアアルガ、恐クハ日本全國ニ、之ト共通ノ點ハ澤山アルデハナイカト考ヘルノデアリマス、若シ内務大臣ガ斯ル事實アルコトヲ知ラズ、貴方ノ監督ノ下ニ在ル地方長官ノ手カラ現ハレタル此文書ヲ知ラヌト云フコトデアレバ、知ラヌトシテモ宜シイノデアリマセヌ、政務官以下其他事務官ハ、之ニ對シテ相當ナル注意ヲ拂テ居ラナケレバナラヌ答ト私ハ考ヘル、而モ此事ハ、政友會ノ分裂ハ地方ノ事情カラ見テ、固ヨリ長官モ御心配デアリマセウ、吾々モ或ル意味ニ於テハ心配タ、若シオセツカイニ言フナラバ、何ガ故ニ縣一致ヲ以テ縣民ニ要望セラレナイノデアリマスカ、地方長官ガ已ノ地位ヲ辨ヘズ、時ノ政府ノ屬シテ居ル黨派ノ内訌ニ恐レ、之ニ指ヲ染メ、而シテ縣ノ政治ニ關シテハ、未ダ何等聲明モスル所ガナイト云フコトハ、誠ニ遺憾デアリマスカラ、此點ヲ伺ヒタイノデアリマス、此騰寫版ヲ東京ニ於テ印刷シタサウデアリマス、サウシテ之ヲ輸送シテ青森ノ縣廳ノ官房ニ送ッタサウデアリマス、知ラザル者ハナイノデアリマスカラ、何レ豫算委員會其他ノ機會ニ申上ダ

マスケレドモ、新聞紙上既に公ナルコトデアリマスカラシテ、私ノ申上ゲルコト果シテ眞ニ出ツルカト云フ疑ガアルナラバ、速ニ相當ナル方法ヲ以テ調査ノ上、適當ノ時期ニ其結果ヲ發表セラレンコトヲ希望致シマス

○副議長(清瀬一郎君) 以上ヲ以テ本案ニ關スル質疑ヲ終リマシタ——此際議事進行ノ方法ニ付キ一言致シテ置キマス、議題トナリマシタ五案中、市制中改正法律案、町村制中改正法律案並北海道會法中改正法律案ノ三案ニ對シテハ各少數意見ノ提出ガアリマス、此少數意見ハ總テ修正デアリマスカラ、第二讀會ニ於テ其報告ヲ求メルコトニ致シタイト思ヒマス、尙ホ討論ハ便宜上第二讀會ニ於テ爲スコトト致シタイト思ヒマス、左様御諒承ヲ願ヒマス、就キマシテハ先ヅ府縣制中改正法律案外四件ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス、之ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ五案トモ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○原惣兵衛君 直ニ五案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○副議長(清瀬一郎君) 御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ五案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

府縣制中改正法律案 第二讀會

市制中改正法律案 第二讀會

町村制中改正法律案 第二讀會

北海道會法中改正法律案 第二讀會

北海道地方費法中改正法律案 第二讀會

○副議長(清瀬一郎君) 此際市制中改正法律案外二件ニ對スル少數意見ノ報告ヲ求メルノデアリマス、清水留三郎君

少數者意見書

一市制中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト認ムルニ依リ少數者意見書及提出候也
昭和四年三月一日
委員少數意見者 高橋元四郎 外八名

〔別紙〕

市制中改正法律案中左ノ通修正ス
第九條第一項中「帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子」ヲ「年齡二十五年以上ノ帝國臣民」ニ改ム

第二十條第一項中「關員ヲ生シタルトキハ」ヲ「關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ五分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ市長若ハ市會ニ於テ必要ト認ムルトキハ」ニ改ム

第六十四條第一項中「市長、助役、收入役又ハ副收入役」ヲ「市長及助役又ハ收入役及副收入役共ニ」ニ改ム

少數者意見書

一町村制中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト認ムルニ依リ少數者意見書及提出候也
昭和四年三月一日
委員少數意見者 高橋元四郎 外八名

〔別紙〕

町村制中改正法律案中左ノ通修正ス
第七條第一項中「帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子」ヲ「年齡二十五年以上ノ帝國臣民」ニ改ム

第十七條第一項中「關員ヲ生シタルトキハ」ヲ「關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ五分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ町村長若ハ町村會ニ於テ必要ト認ムルトキハ」ニ改ム

第一百四十四條第一項中「町村長、助役、收入役又ハ副收入役」ヲ「町村長及助役又ハ收入役及副收入役共ニ」ニ改ム

少數者意見書

一北海道會法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト認ムルニ依リ少數者意見書及提出候也

昭和四年三月一日
委員少數意見者 高橋元四郎 外八名

〔別紙〕

北海道會法中改正法律案中左ノ通修正ス
第三條中「帝國臣民タル年齡二十五年以上ノ男子」ヲ「年齡二十五年以上ノ帝國臣民」ニ改ム

○清水留三郎君登壇

○清水留三郎君 昨ハ只今委員長ヨリ御報告ノアリマシタ地方制度ノ改正ニ關シマシテ少數意見ヲ陳述シ、其内容ヲ明ニ致シタク思フデアリマス、私共ハ修正ノ項目ハ三ツデアリマス、一ハ補關選舉ニ關スル規定ノ改正、一ハ職務管掌ニ關シマシテ時ノ政府ガ自治體ニ干渉スルコト能ハザラシムルヤウニ法文ヲ修正シタルデアリマス、第三ハ婦人公權ノ問題デアリマス、今回ノ地方制度ハ、府縣制、市制、町村制、北海道會法ヲ通ジマシテ、兩稅委員ニ關係セル項目ガ多イデアリマシテ、兩稅委員ニ對シマシテ私共政黨ハ反對意見ヲ持ッテ居ル者デアリマス、反對意見ヲ持ッテ居ルスカラ、之ニ關係セル箇條ヲ創設若クハ修正スルノガ、或ハ順序デアルカモ知レマセヌ、併シ兩稅委員ハ衆議院ニ於テ既ニ通過シタルデアリマス、通過シテハ院議トナシタルノデアリマス、其差ガ僅カ十五票デアリマシタ、貴族院ニ於テ今日兩稅委員ガ否決ニナルカ、審議未了ニ終ルカ、是ハ了解スルコトハ出來マセヌ、兎ニ角衆議院ニ於テハ之ガ院議トシテ確定シタルデアリマス、故ニ私共ハ院議ニ反對スルコトハ心地好クナイノデアリマス、院議尊重ノ意味ニ於テ兩稅委員關係ノ法案、兩稅委員關係ノ箇條ノ修正ハ之ヲ今回ハ見合セタルデアリマス、補關選舉ニ關シマシテ、市制第二十條、町村制第十七條ノ規定ヲ改正シタルデアリマス、現行法ニ依リマスルト、市會町村會ヲ通ジマシテ、府縣會同様、議員ノ關員一名デモアリマシタ場合ハ、三箇月以內ニ補關選舉ヲ行ハナケレバナラヌ強制ノ規定デアリマス、法理上カラ申シマス

ルナラ少シモ差支ナイノデアリマス、實際ノ運用上カラ見ルト云フト、非常ナル不便ヲ生ズルノデアリマス、故ニ全國ノ市長會、町村長會議ニ於キマシテハ、幾度カ其修正ヲ政府ニ迫ッテ居ルノデアリマス、政府ハ之ニ對シマシテ、委員會ニ於テハ敢テ之ニ反對デハナイ、併ナガラ現行法ハ第五十一議會ニ於テ此箇條ヲ修正シタルデアアル、今日之ヲ改正スルコトハ朝令暮改ニ陥ルカラ出來ヌト云フノガ政府ノ答辯デアリマシタ、假令朝令暮改ニ陥ルト申シマシテモ實際不便デアアル、之ニ依テ各市町村ガ困テ居ルノデアリマス、之ヲ修正スベキガ當然ナリト信ジマス、私共ハ修正ヲ加ヘタルデアリマス、ナゼ五分ノ四ト規定シタカ、舊法ニ依リマスルト其規定ハ三分ノ一ニナッテ居ルノデアリマス、現在市會ノ多クハ定員三十名ノ所ガ多イノデアリマス、町村會ニ於テハ定員十五名ノ所ガ多イデアリマス、是等ノ關係カラ五分ノ一ニスルコトガ最も便宜ナリト信ジテ、私共ハ五分ノ一ニ訂正シタルデアリマス、舊法ニ依リマスルト、市會ニ對シテハ知事ノ命令權、町村會ニ對シテハ郡長ノ命令權ガアリマシタガ、是ハ干渉ヲセシムルヤウナ餘地ヲ存スルノデアリマス、此規定ハ私共ハ舊法ト違ヒマシテ、唯市會、町村會若クハ市長、町村長ノ命令ニ依ラザレバ如何トモスルコトノ出來ナイヤウニシタルデアリマス、第二ニ私ハ職務管掌ニ關スル現行市制第一百四十四條、町村制第一百四十四條ノ解釋ニ付テ、現在動トモ致シマスルト、時ノ政府ハ自治體ニ干渉セシムルコトヲ得ルヤウニナッテ居ルノデアリマス、如何ナル政府デモ自治體ニ干渉セシムルコト云フコトハ明白クナイ、之ニ付キマシテ委員會ニ於テ、內務當局ハ私共同僚ノ質問ニ對シテ次ノ如ク答ヘラレテ居ルノデアリマス、秋田政務次官ノ答辯ニ依リマスルト、政府ガ職務管掌ヲ任命致スト云フヤウナコトハ、獨立ヲ主眼トスル地方ノ自治ニ對スル一種ノ干渉ニナリマスカラ、出來ルダケハ避ケタイ、隨テ極メテ制限シテ解釋スルノガ相當ダト

考ヘテ居リマス、但シ法文ノ解釋上ニ於キマシテ、其職務管掌ヲ任命致スト云フコトハ、必シモ違法ニナルトハ思フテ居リマセヌ、町村長ガ職員ニナリテモ助役アリ、或ハ町村長ガアテモ助役ニ職員ヲ生ジタト云フ場合ニ、絶對ニ職務管掌ヲ任命スルコトガ違法トハ考ヘテ居リマセヌ、ト云フノガ之ガ委員會ニ於ケル政府ノ答辯デアリマス、ナセ此問題ガ起リタカト申シマスル、熊本縣、秋田縣、其他ノ縣ニ於キマシテ、職務管掌ガ斯ウ云フ風ナ不法デナイト云フ解釋ノ下ニ於テ行ハレタノデアリマス、熊本縣ハ日本ニ於キマシテ政爭激甚ナル地方ノ一ツデアリマス、而シテ今日熊本縣ニ於キマシテ職務管掌、例ヘテ見レバ町村長ガ辭職スル、或ハ職員トナル、助役ガアルナラバ助役ガ町村長ノ職務ヲ代理スルカラ差支ナイニ拘ラズ、熊本縣ニ於テハ町村長職員ノ場合、助役ガ居リマシテモ、職務管掌ヲトシテ置イテ居ル、或ハ町村長ガ居リテ助役ノ場合ニモ矢張職務管掌、其職務管掌ナルモノハ多クハ知事腹心ノ官吏ヲ派遣致シマシテ、極端ニ自治制ニ干渉セシメテ居ル、其結果熊本縣ニ於テ幾多ノ紛糾ガ起リテ、町村ノ自治ハ破壞セラレントシテ居ルデアリマス、此關係カラ委員會ニ於キマシテ、私共ハ職務管掌ハ法文上受入レラレルカ、受入レラザルカ、法文ノ解釋ヲ追ヒタ所ガ、政府ハ法文上差支ナイト云フノデアリマス、是ハ將來ニ於キマシテ、如何ナル内閣ノ下ニ於テモ、無暗ニ自治體ニ干渉セシムルノ風ヲ造ルト云フコトハ面白クナイノデアリマスカラ、ソレヲ嚴格タラシムル意味ニ於テ、私共ハ職務管掌ノ規定ヲ設ケタノデアリマス、即チ市長助役或ハ收入役及副收入役共ニト云フ文字ヲ入レマシタ、市長助役或ハ收入役、副收入役共ニ職員ニナラザル場合ニ於テハ、絶對ニ職務管掌ヲ置クコトハ出來ナイ、所謂絶對ニ出來ナイト云フ意味ニ於テ、此法文ノ訂正ヲ爲シタモノデアリマス、第三ニ申上ダタイノハ、婦人公民法權ニ關スル問題デアリマス、婦人公民法權問題ハ政友會ニ於キマシテモ、民政

黨ニ於キマシテモ、黨議ニ於テ之ヲ拘束シテ居ルノデアリマセヌ、全クノ自由問題デアリマス、故ニ私共民政黨ノ委員ハ、委員トシテノ自由ノ立場カラ、政府案ニ修正ヲ加ヘタノデアリマス、即チ市制第九條第三項、町村制第七條第一項、北海道法第三條ヲ改正シテ、婦人ニモ男子同様ニ公民權ヲ與ヘントシタノデアリマス、或黨派ノ如キ婦人公民法權問題ニ關シマシテハ、委員會ニ於テ議員ノ行動ハ絶對ニ束縛シナイト云フコトヲ誓フテ置キナガラ、實際ニ委員ヲ變更シテ、オカシナ態度ヲ執リタ、サウ云フ風ナコトヲ私共ハシタノデアリマセヌ、民政黨ノ委員十名中ニ於キマシテ、九名ハ贊成ノ意ヲ表シ、一名ハ堂々ト反對ノ意見ヲ述ベマシタ、飽迄モ自由問題トシテノ態度ヲ、私共ハ天下ニ明ニシタノデアリマス、府縣制ニ付テ改正ヲ致シマセヌノハ、現在ノ府縣制ニ於キマシテハ、公民權ヲ有シテ居ル者ガ選舉權、被選舉權ヲ有シテ居ルノデアリマス、故ニ府縣制ハ改正セズトモ、市制、町村制ヲ改正シテ場合ニ於テ、所謂公民權ノ規定ノ内容ヲ改正シタ場合ニ於テハ、當然府縣制ニ於テモ婦人ノ選舉權、被選舉權ヲ認メル譯ニナルノデアリマスカラ、私共ハ府縣制ニハ手ヲ著ケナイノデアリマス、婦人公民法權問題ニ關スル政府ノ反對ハ、輿論ガ未ダ熱サナイ、婦人ノ能力ハ男子ニ及バナイト云フコトガ唯一ノ理由ナノデアリマス、今日輿論ト申シマスガ、一體輿論ヲ知ルト云フノハ、何ニ依テ輿論ヲ知り得ラレルノデアリマスカ、輿論ヲ知ルニハ一ハ新聞ノ論調デアアル、一ハ議會ノ空氣デアアル、大新聞ヲ婦人公民法權問題ニ反對シテ居ル新聞ガ幾ツアリマス、殆ド新聞ノ論調ト云フモノハ、婦人公民法權問題ヲ歡迎シテ居アル、議會ノ空氣ハドウカ、議會ニ於テハ、婦人公民法權ニ關スル單獨ノ法律案ガ、各派ヲ通ジテ二百八十五名ト云フ者ガ署名ヲ爲シテ提出サレテ居ルノデアリマス、本日政友會ノ諸君ハ、其單行法案ヲ撤回サレ

マシタガ、兎ニ角婦人公民法權問題ニ反對者ノ少イト云フコトダケハ明ダト私共ハ思フノデアリマス、又今日婦人ノ要望ガ男子ノヤウデナイ、普選運動當時ニ於テ、彼ノ男子ノ要望ガ白熱化シタト同様ナル行動ガナイカラ、マダ早イト云フ意見ヲ爲ス者ガアリマスガ、私共ハ婦人ガ男子ノ如ク日本婦人トシテノ性格ヲ無視シテ、粗暴ニ涉ルヤウナ行動ヲ爲シタ場合ニハ、或ハ多少考ヘナケレバナラナイカモ知レヌノデアリマス、寧ろ婦人ノ示威運動ガ猛烈ニナラザルニ先チマシテ、婦人公民法權ヲ與ヘテコソ、ソコニ初メテ日本人トシテノ特色ガ發揮セラレト思フノデアリマス、英國ノ議會ニ於キマシテ、傍聽席ニ金網ヲ張リテ居ル、而モソレガ婦人傍聽席ナルニ於テハ、如何ニ英國ノ婦人參政運動ト云フモノガ猛烈デアタカト云フコトヲ知り得ラレルノデアアル、私共ハ婦人ノ示威運動ナリ、或ハ英國ニ於テ行ハレタル婦人ノ絶食同盟ナリ、アア云云風ナ行爲ヲ、吾々ハ日本婦人ニサセタクハナイノデアアル、故ニ寧ろ婦人ノ運動ガ激烈ナラザルニ先チマシテ、婦人公民法權ヲ認メ、安シジテ婦人ノ本分ヲ盡サシムルヤウニスルコトガ必要ナリト信ズルノデアリマス、殊ニ婦人ヲシテ選舉界ニ入レシムルト、選舉界ヲ淨化セシメル一ツノ線トモナルノデアリマス、能力ガナイト申シマスガ、婦人ガ男子同様ニ能力アリトハ私共モ信ジナイ婦人ハ婦人獨特ノ能力ガアリマス、殊ニ臺所ノ問題ヨリ見マシタナラバ、市町村經濟ニ於テハ、現代ニ於テ最モ要求スル知識ナリト私共ハ信ズルノデアリマス、社會政策ヲ實施スベキコトハ、各政黨トモ主張シテ居リマス、社會政策ニ關係ヲ有スルモノハ、中ニ於キマシテ、或ハ公設質屋ノ問題トカ、公設市場ノ問題トカ、公設食堂ノ問題トカ、乃至ハ施療制度トカ、育兒制度トカ、若クハ工女ノ問題トカ、今日婦人ノ知識ヲ要求スルコトガ少クナイノデアリマス、婦人ノ能力ガ男子ニ及バナイト云フガ、現在ノ地方制度ニ於キマシテハ、府縣會、市會、町會ヲ通ジマシテ、婦人ノ能力――

男子ノ及ザル婦人ノ能力ヲ要求スル點ガ多イト私共ハ信ズルノデアリマス、婦人ニ公民權ヲ與ヘマシテモ、決シテ危險デナイトハ、既ニ實施サレテ居リマス商工會議所ノ選舉其他ノ選舉ニ依テ明デアリマス、故ニ先ゾ婦人ニ公民權ヲ與ヘ、漸次婦人ニ政治的ノ知識ヲ注入シ、進デ婦人ニ參政ノ權利ヲ與ヘルコトガ、私共ハ必要ナリト信ズルノデアリマス、委員會ニ於キマシテ、政友會ノ諸君ハ贊否ヲ保留セントシタノデアリマスガ、保留ノ場合ニハ却テ修正案ガ通過スルコトニナル、是ニ於テカ急ニ政府案ノ修正ニ反對セラレタノデアリマス、今日政府ハ星島君ノ質問ニ對シマシテ、內務大臣ハ婦人公民法權ヲ次ノ議會ニ與ヘルト云フ風ナコトヲ言ハレタコトヲ聞イテ居リマス、一體此政府ノ言明ニ何ノ效力ガアルデゴザイマセウ、モウ命旦タニ迫リテ居ル内閣デアリマセヌカ(馬鹿言ヘ)「取消セ」ト呼フ者アリ)來議會迄此内閣ガ續クト信ズル者ハ、恐ラク政友會ノ諸君デモアルマイト思フ、政友會ニ於キマシテハ、果シテ眞ニ婦人ニ公民權ヲ與ヘル考デアアルカ、或ハ單ニ婦人ノ歡心ヲ買フテ選舉ニ利用セントスル魂膽デアアルカ、殆ド了解スルニ苦シムノデアリマス、委員會ニ於テ私ノ質問ニ對シ秋田政務次官ハ、斷ジテ與黨ノ議員ヲ壓迫セズト誓ヒ、提案者ノ西岡君ハ自分ノ人格ヲ信ジテ貫ヒタイト言ハレタ、更ニ婦人公民法權附與ニ關シ、苟モ政友會ノ婦人公民法權ノ單行法ニ贊成セラレテ居ル諸君、提案者トナタ諸君ハ、マサカニ世ヲ欺キ、人ヲ欺キ、自ラヲ欺クヤウナ行動ニハ出デラレナイト私共ハ思フノデアリマス、故ニ必ズヤ私共ノ出シタ此婦人公民法權ノ修正案ニ御賛成下サルモノナリト私共ハ信ズルノデアリマス、一事不再議ノ原則ニ依リマシテ、議員提出ノ婦人公民法權ニ關スルモノハ、此議會ニハ上程スルコトハ出來ナイ、少クトモ此議會ニ於テ婦人ニ公民權ガ與ヘラレナイト云フ結論ニナルノデアリマスガ、各政黨トモ婦人公民法權ハ自由問題ニナリテ居リマス關係上、諸君ハ政黨政派ヲ超越シ

テ慮心則懷ニ初メノ意志通り、此婦人公民
權ニ御賛成アラシコトヲ私ハ願フノデアリ
マス、尙ホ婦人公民權問題ニ關シマシテハ、
高木正年君ヨリ賛成ノ演説ガアル筈デアリ
マスルカラ、私ハ是以上申上ゲマセヌ、又
政友會ノ提出致シマシテ修正案、殊ニ選舉
區分割ノ問題ニ付イテハ村松君ヨリ反對意
見ヲ述ベル筈デアリマスガ、是又私共ハ重
複ヲ省略致シマス、之ヲ要スルニ、政府ハ
地方分權ノ爲ニハ地方制度ヲ改正シタト云
ヒマスガ、地方制度ノ改正ト云フモノハ單
ニ此内閣ノノミノ專賣特許デハアリマセヌ、
原内閣當時ニ於キマシテモ、地方制度ヲ改正
シタ、殊ニ若槻内閣當時ノ五十一議會ニ於
キマシテハ、今日ノ地方制度ノ改正ヨリハ
寧ロ大規模ニ此改正ヲ行フタ、今日ノ地方制
度ノ改正ハ單ニ其當時改正ニ漏レル點
カ、或ハ其當時委員ノ要望ニ出タモノヲ爲
シタノミデゴザイマシテ、是ハ單ニ自治權
ノ一部擴張ト云フダケデアッテ、地方分權ト
云フベキモノデハナイノデアアル、現内閣ノ
地方分權ト云フモノハ、一體何ヲ指シテ言
テ居ルノデアリマスカ

〔此時發言スル者アリ〕

○副議長(清瀨一郎君) 靜肅ニ……

○清水留三郎君(續) 地方分權ハ兩稅委
ト地方制度ノ改正以外ニ何モノガアルデア
リマセウ、私ノ質問ニ對シマシテ、政府當
局ハ兩稅委讓ト地方制度ノ改正以外ハ、行
政審議會ニ諮問中ダト答ヘラレマシタ、私
共ハ將來ノ事ヲ論ズルノデアリマセヌ、
又希望ノ點ヲ聞イテ居ルノデアリマセヌ、
政友會ガ地方分權ト大言壯語シテ居リナガ
ラ何ガ行ハレテ居ルカ、行ハレテ居ルノハ
兩稅委讓ト地方制度ノ改善……

〔此時發言スル者アリ〕

○副議長(清瀨一郎君) 靜肅ニ願ヒマス
○清水留三郎君(續) 而モ其兩稅委讓ハ地
方分權トモ言ヒ、社會政策トモ言ヒ、思想ノ
善導トモ言ヒ、國民負擔ノ輕減トモ言ヒ、
一定シテ居ラス、丁度賣藥ノ廣告ガ萬病ニ
利クト同ジヤウニ廣告ダラケデアリマス、
併シ何モ利カナコトガ兩稅委讓デアリマ

ス、眞ニ地方分權ヲ行ハントスルナラバ、
市町村長ノ直接選舉或ハ知事ノ公選、是等
ノモノハ當然行ハナクレバナラス、處ガ市町
村長ノ直接選舉ハドウナツタ、知事ノ公選ハ
ドウナリマシタ、委員會ニ於テ政府ハ市町
村長ノ直接選舉ノ問題ニ關シマシテ、會
若槻内閣當時ノ委員會デ、丁度時ノ内閣ガ
反對シタト同ジヤウナ理由ヲ以テ政府當局
ハ市町村長ノ直接選舉問題ニ反對サレテ居
ルノデアリマス、第五十一議會、大正十五
年三月十六日ノ本會議ニ、政友會ノ諸君ハ
黨議ヲ以テ修正案ヲ出シテ居ル、其修正案
ノ中ニ、市長ノ選舉權ヲ有スル市公民市長
ヲ選舉シ、町村長ハ選舉權ヲ有スル町村公
民之ヲ選舉スルト云フコトデ、明ニ此修正
案ヲ出シテ居ル、而モ修正ノ意見ヲ述ベタ
植原悦二郎君ノ意見ハ次ノ如クデアアル、現
在ノ都市ニ於テ總テノ市長ハ全部間接選舉
デアリマス、言葉ヲ換ヘテ申セバ、市會議
員ノ選舉デアルガ故ニ、市長ナルモノハ多
クノ場合官吏ノ古手カ或ハ市會ニ於テ多數
ヲ制スル所ノ議員ノ情實因縁ニ依テ選舉サ
レタモノガ市長ノ椅子ヲ占ムルト云フコト
ニナツテ居ルノデアリマス、恐ラク東京市程
全體ノ市ノ總テニ於テ腐敗シテ居ルモノハ
世界稀ナルモノデアリマセウガ、其根本ヲ
質セバ何處ニアルカ、市長ノ間接選舉ニ因
由スルノデアリマス、市會議員ガ多數ヲ運
動シ、情實因縁ヲ以テ擔上ゲタモノデアリ
マスガ故ニ、如何ニシテ手放ヲ有スル者
デモ、思フ通りニ其說ヲ實行スルコトガ出
來ナイ、又市會議員ト市長トノ間ニ色々情
實因縁ガアリマシテ、總テノ都市ノ腐敗ヲ
誘致シテ居ルコトハ諸君御承知ノ通りデア
リマス、現在ノ改正ヲ試ルニ就テ政府當局
ガ之ニ一指モ染メザルト云フヤウナコトハ、
實ニ時代ヲ知ラザルモ甚シキモノト申サナ
ケレバナリマセヌ、私共ハ茲ニ市長ハ常ニ
選舉權ヲ有スル公民ノ公選タラシムルノ規
定ヲ設ケタノデアリマス、ト植原君ハ堂々
ト此席上デ演説シタ、又町村制ニ於テハ、
市制ト同一ニ私共町村制ニ對シテモ、根本的
ノ重要ナ改正ヲ試ルト、町村長ヲ選舉權ヲ

有スル所ノ公民ノ公選トスル規定ニシタノ
デアリマス、政友會ガ在野黨ノ當時唱ヘテ
居リマシタ市長町村長ノ直接選舉ノ問題ヲ
弊履ノ如ク捨テ顧ミナイ、ソレデ果シテ政
黨内閣ノ値打ガアリマスカ、政友會ノ諸君、
現内閣ハ植原君ノ所謂時代ヲ知ラザルモ甚
シイモノデハナイカ、次ニ知事ノ公選ハド
ウナリマシタ、第四十五帝國議會ノ當時デ
ゴザイマシテ、議會ニ府縣制中改正法律案
ガ出テ、其當時私ハ時ノ内務大臣ニ對シ、知
事ヲ公選ニスル考アリヤ否ヤト云フコトヲ
聞イタコトガアリマス、之ガ抑、議會ニ於テ
知事公選ノ問題ノ現レタ所以デアアル、所ガ
ソレガ偶、地方官會議、府縣會議長會議ノ問
題トナリ、其翌年ノ第四十六議會、大正十
二年ノ三月十日革新俱樂部ノ建議案トナ
テ、知事公選ガ議會ニ現レマシタ、其革新
俱樂部ノ犬養君ノ一派ガ政友會ニ合流シ、
大正十四年ニハ政友會ノ政策トナリ黨議ト
ナツタモノガ知事ノ公選デアリマス、昨年六
月首相官邸ニ於テ政友會ハ政務調査會ヲ開
キマシテ、次ノ議會ニハ必ズ知事公選ノ議
案ヲ提出スベシト決議シテ居ルノデアリマ
ス、次ノ議會トハ何時カ、此議會デハアリ
マセヌカ、一月十四日大阪中ノ島公會堂ニ
於ケル政友會ノ近畿大會ノ決議ノ中ニモ、
地方分權ノ主義ニ則リ知事公選特別市制ノ
實施ヲ期ストノ一項目ガアツタコトハ、諸君
ノ御承知ノ通りデアリマス、政友會ガ重要
政策トシテ天下ニ發表シテ居リマス、知事
ノ公選、地方分權中ノ重要ナル項目、何故
之ヲ實施シナイ、昨年ノ地方官會議ニ鈴木
內務大臣ガ地方長官ノ質問ニ對シ、知事公
選ナドガ出來ルモノデハナイト言ッテ大問
題ヲ起シ、少壯議員ノ諸君ガ押掛ケタト云
フコトヲ新聞デ見テ居ル、現在知事公選ヲ
スル考ガアルカナイカ、此間委員會ニ於テ
秋田政務次官ハ、其調査ノ内容ナルモノヲ
發表シタ、少クトモ九箇條ニ互フテノ調査ノ
内容ナルモノヲ發表シタ、其内容ノ事實ヲ
見ルト、如何ニ知事公選ノ困難デアアルカト
云フコトヲ事實ニ於テ此發表ハ示シテ居
ル、恐ラク私ハ現内閣ハ知事ノ公選ヲスル

コトガ出來ナイト思フ、サウスルト所謂現
内閣ノ地方分權ト云フモノハ何カ、何モナ
イ、兩稅委讓ガアノ通り、而モ地方制度ノ
改正ハ地方分權トモ謂フベキモノデハナイ
カ、サウスルト現内閣ハ餘リニ地方分權ト
云フコトヲ大衆ニ言ッテ居ッテ、之ヲ實行
シナイ、唯國民ヲ欺クノミデアアル、故ニ大
政黨トシテ其政策ノ實行ヲスルコトノ出來
ナイヤウナ政黨ハ、其價值ナキ所ノ政黨
ハ、能力ナキ所ノ政黨ハ、潔ク國民ニ謝罪
シテ辭職ヲスベキガ當然デアアル(拍手)之ヲ
敢テシナイ、故ニ私共ハ地方制度ノ改正ニ
關シ、茲ニ少數意見ヲ陳述シ、其内容ヲ明
ニスルト同時ニ、政友會諸君ノ反省ヲ希望
致シマシテ、私共少數意見説明ト致スノデ
アリマス(拍手)

○副議長(清瀨一郎君) 清水君ノ提出セラ
レマシタ少數意見ニハ、成規ノ賛成アリト
認メマス、仍テ各少數意見ハ何レモ修正案
トシテ成立致シマシタ、是ヨリ討論ニ入ル
ノデアリマスガ、討論ノ順序ハ便宜上修正
意見ニ對スル側ヨリ始メタイト思ヒマス、
土井權大君

〔土井權大君登壇〕

○土井權大君 今回特別委員會ニ於テ可決
サレマシタル政府提出ノ地方制度改正ニ關
スル各般ノ法律案、並ニ之ニ對スル政友會
提出ノ修正案ニ私ハ賛成ヲスル者デアリマ
ス、民政黨カラ御提出ニ相成リ、只今續々
ト御述ベニナリマシタル少數意見ニハ、遺
憾ナガラ反對ノ意思ヲ表示スルモノデアリ
マス(拍手)民政黨ノ一部ダト呼フ者アリ
民政黨ノ一部ヨリ御提出ニナリマシタル少
意見ニ反對デアアル、諸君、今回政府ヨリ提
出セラレマシタル地方制度改正ニ關スル諸
法律案ハ、御承知ノ通り其根本精神ハ地方
分權ニアルノデゴザイマス、即チ此根本精
神ヨリ致シマシテ、自治權ノ擴充ト云フコ
トニ重キヲ置カレテ居ルコトハ御承知ノ通
リデアアル、之ヲ仔細ニ點檢致シマシタナ
ラバ、敢テ私ハ完全無缺ノ修正案ナリトハ言
ハナイ、併ナガラ之ヲ總括的ニ觀察ヲ致シ
マシタナラバ、我黨ニ於テ年來主張致シマ

友會ノ修正案ノ第二ハ、市町村會議員ノ補
關選舉執行ニ關スル修正デアリマス、是亦
市町村ノ實情ニ立脚シタ適切ナル改正デア
ルト考ヘマス、即チ現行法ハ大正十五年ニ
改正セラレタモノデアリマシテ、市町村會
議員中一人デモ缺員ヲ生ジタナラバ、直ニ
補關選舉ヲ行ハナケレバナラヌ、斯ノ如キ
ハ寧ロ理論ニ偏シ實情ニ適合シナイ制度デ
アルト考ヘル、其證據ニハ各地デ開催サレ
タル所ノ市長會議、町村長會議等ニ於テ、
此規定ヲ改正シナケレバナラヌト云フ決議
ノ出テ居ルコトニ依テ明デアルト御承知ヲ
願ヒタイノデアリマス、其次ニ缺員ガ定數
ノ六分ノ一ヲ越エルニ至ラタ時、又ハ市町村
長若クハ市町村會ニ於テ必要ト認ムル場合
ニ、補關選舉ヲ行ハントスルノガ修正ノ一
ツデアリマス、何故ニ斯様ナコトニシタカ
ト申セバ、何故ニ此六分ノ一ト云フコトニ
シタカト云フナラバ、實ハ市或ハ町村デハ
六ト云フモノヲ單位ト致シテ居ル、村會
議員ナドニ於テモ所謂十二人或ハ三六・十
八人ト云フ風ニ六ニナツテ居ル、或ハ民政
黨ノ方ハ五ト云フコトヲ言ハレマシタガ、吾
吾ノ調査スル所ニ依ルト六トナツテ居ル、下
度衆議院ノ委員ガ九ト云フコトヲ單位ト致
シテ、即チ九ニ二ヲ掛ケテ二九・十八、斷
ウ云フコトニナツテ居ル、即チ吾々ガ六分ノ
一ト云フコトニ修正ヲシナケレバナラヌト
云フ根據ハ此處カラ出タノデアリマス、六
ノ理由ヲ述ベヨト言ハレ、贊成ノ理由ヲ述
ベヨト言ハレルガ爲ニ之ヲ述ベル次第デア
リマス、要スルニ議會ノ構成ニ自然ナル
缺陷ノアルノヲ補ヒ、他ノ一面ニ於テハ市
町村ノ實情ニ適合セシメントスルモノデ
アツテ、極メテ適切ナル修正デアルト考ヘ
ル故ニ、私ハ以上政友會ヨリ出シマシタル所
ノ第一、第二、第三ノ修正案ニ贊成スル所
者デアリマス、最後ニ委員會ニ於テ否決ト
ナリ、少數意見トシテ只今御述ベニナツ
即チ民政黨ノ一部ノ修正意見ニ遺憾ナガラ
私ハ反對ノ意見ヲ表布スルノデアリマス、
第一ハ婦人ニ公民權ヲ付與セントスル市町

村制ノ修正、及婦人ニ北海道會議員選舉權
及被選舉權ヲ付與セントスル北海道會令ノ
修正案デアリマス、此問題ハ時ニ重要ナル
意義ヲ持テ居ル案件デアリマス故ニ、
此機會ニ極メテ簡單ニ一言ヲ費シテ置キタ
イト考ヘマス(拍手)所謂婦人公民權ニ關ス
ル吾々ノ考ハ、ドウ云フ考デアルカト云フ
ニ、思フニ婦人公民權ヲ付與スルハ否ヤ
ト云フ問題ハ、畢竟スルニ如何ナル時機ニ
於テ之ヲ付與スルカ、如何ナル時機ニ於テ
之ヲ與ヘルカト云フ問題ニ過ギナイノデア
ル、吾々ハ決シテ婦人公民權ニ對シ、絕對ニ公
權ヲ付與スベキモノニ非ズト云フ議論ノ如
キハ持テ居ル者デアリマス(拍手)決
シテ左様ノ絕對ニ婦人公民權ヲ與フベカ
ラズト云フガ如キ議論ニ賛成スル者デア
リマセヌ、唯時機ノ問題デアル如何ナル時
機ニ婦人公民權ヲ與ヘルカ、此問題デア
リマス、即チ公民權ヲ婦人公民權ニ付
キマシテハ、其時機宜シキヲ得ルコトニ深
甚ノ考慮ヲ拂ハナケレバナラヌコトハ疑
存シナイノデアリマス、即チ諸君モ御承知
ノ通り普通選舉ト云フモノハ、選舉ノ理論
カラ致シタナラバ、當然ノ歸結デアアル、併
ナガラ之ヲ實施スルニ付テハ如何デアリマ
セウカ、其制度ノ運用ガ極メテ圓滑ニ行ハ
レ、極メテ圓滿ニ行ハレル所ノ潮時ヲ見究
メルト云フコト、所謂時ヲ巧ク運用スル
云フコトガ最も重要ナル事柄デアッタト云
フコトハ諸君御承知デアリマセウ、是ハ私
ガ申スマデモアリマセヌ、恰モソレト同ジ
ク、婦人公民權ヲ付與スルコトモ自治ノ
理想カラ致シタナラバ、當然ノ歸結ト謂ハ
ナケレバナリマセヌ、併シ其實行ニ當リマ
シテハ婦人公民權ノ知識ノ程度、婦人公
會ニ於ケル地位乃至婦人公民權ニ關スル社
會一般ノ輿論ト云フヤウナ事ヲ十分考慮ニ
加ヘナケレバナラヌト吾々ハ考ヘテ居ル
デアリマス、隨ヒマシテ吾々ハ婦人公民權
ノ附與ト云フコトハ、必ズ極メテ近キ將
來ニ於テ、解決シナケレバナラヌ問題デア
ルト信ジテ居ル、其事ハ忌憚ナク申上ダマ
ス、併シ今日直ニ婦人公民權ヲ付與スベ

ク、今回ノ地方制度改正法律案ニ對シ修正
ヲ加ヘントスルコトニハ、今日ノ情勢ニ鑑
ミテ遺憾ナガラ賛同ノ意思ヲ表示スルコト
ガ出來ナイノデアリマス(拍手)其他民政黨
ノ一部即チ少數意見トシテ御説明ニナリマ
シタ市制町村制中ノ職務管掌ニ關スル改正
規定ニ付キマシテハ、私ハ現行法ガ彈力性
ニ富ミ最モ良キ規定ナリト認メテ居ル、更
ニ修正意見ト致シマシテ市町村會議員ノ補
關選舉ニ關スル改正意見ハ、政友會ノ修正
意見ヲ以テ、ヨリ以上適當デアルト認メテ
居ル、故ニ吾々ハ職務管掌ノ點ニ付キマシ
テハ、現行法ガ良イト云フ民政黨一部ノ修
正ハ宜シクナイ、是ハドウゾ御聽違ヒノナ
イヤウニ願ヒタイノデアリマス、又補關選
舉ノ點ニ付キマシテハ前段ノ理由ニ依テ民
政黨ノ意見ニ賛成スルコトガ出來ナイ、政
友會ノ修正案ニ賛成スル理由ヲ申述べタ次
第デアリマス、此理由ニ依リマシテ遺憾ナ
ガラ民政黨一部ノ少數意見トシテ只今陳
述ニナリマシタル修正案ニハ、反對スル次
第デアリマス(拍手)大要以上ノ如クデアリ
マス、何卒政府原案及政友會提出ノ修正案
ニ對シ、滿場ノ御賛成アラント希望シ
テ此壇ヲ降りマス

(村松恒一郎君登壇)

○村松恒一郎君 我ハ委員長ノ報告中、政
友會ノ修正ニ反對シ我黨ノ少數意見ヲ支持
スル者デアリマス、同時ニ吾々ハ委員會ニ
於キマシテ政府原案ニハ賛成致シマシタル
デアリマスルガ、併ナガラ此賛成タルハ決
シテ満足ヲ以テ賛成ヲシタルデハナイノデ
アリマス、此點ハ少シク明ニシテ置カナケ
レバナラナイノデアリマス、今回政府ハ兩稅
委員案ヲ提出スルニ方リマシテモ、亦其前
ニ施政方針ヲ演說サレマシタ場合ニモ、總理大
臣、大藏大臣皆此地方分權ノ爲ニ地方ニ財
源ヲ與ヘテ、地方ノ財政ヲ鞏固ニスルノハ、地
方分權ヲ行フ爲デアルト云フコトヲ説明サ
レテ居ルノデアアル、又内務大臣ガ府縣制及市
町村制ノ改正ノ理由ヲ説明ナサタ際ニモ、
同ジ様ニ御述べニナリテ居ルノデアリマス、
尙ホ此府縣制及市町村制ハ、此地方分權ノ

爲ニ提出シタモノデアルト云フ御説明デア
リマシタ、ソコデ此地方分權トハ一體ドウ
云フモノデアアルカト云フ質問ニ對シテ、田
中總理ハ地方分權トハ行政制度ノ變革ニ依
テ漸次自治體ハ地方分權ニ還ルヤウニナル
ノデアアル云々、少シ漠然トシテ居リマスガ、
肥料ノ公平ナル分配ヨリハ少シハキリシ
テ居ル、詰リ政府ハ一面ニ於テ物質上ノ財
源ヲ與ヘテ、一面ニ於テ行政制度ヲ改革
シテ、サウシテ地方分權ノ實ヲ舉ゲヤウト
シテ居ル、其觸レ出シハ非常ニ大變革デア
ルノデアリマス、尙又秋田政務次官ガ過日
本會デ述べラレタルニハ、今回ノ如ク徹底
シタル所ノ地方分權ノ意義ニ基ク制度ノ改
正ヲ爲シタルコトハ、二十一年四月以來稀
ニ見ル現象デアアルナド、言ハレテ居ル、餘
程ノ大改正ヲヤッタ如クニ吹聴サレテ居ル
ノデアアル、故ニ若シ之ニ此儘賛成ヲシタ
云フコトニナレバ、吾々ハ非常ナル責任ヲ
負ハナケレバナラヌ、實ヲ申スト今回ノ改
正案ト云フモノハ極メテ薄弱ナモノデア
ル、既ニ清水君モ述べラレマシタ通り、今
回ノ此府縣制及市町村制ノ改正中ニ、現内
閣ノ創意ニ基クモノハ一モナイノデアアル、
過日内務大臣ハ此壇上ニ於テ、此地方制度
ノ改正ニ付テノ效能書ヲ御吹聴ニナッタノ
デアリマス、ソレハドウデアアルカ、皆是ハ
第五十一議會及第四十四議會ニ於テ各委員
等カラ希望シテ述べタノヲ、今回之ヲ取
入ラレタノデアアル、現内閣ノ創意ト云フ
モノハ一ツモナイ(ソレデ宜イデハナイカ)
ト呼フ者アリ、通常ノ場合ナラバソレデ宜
シイガ、苟モ兩稅委員案ノ如キ日本ノ歴史ア
テ以來ノ稅制ノ大改革ヲヤラウト云フノモ、
要スルニ地方分權ノ爲デアルト云フ位ナラ
バ、此地方制度ノ改正ニハ、モウ少シ有意
義ナ箇條ガナクチャナラナイノデアアル、如
何デスカ、只今土井君ハ何時政府委員ニ御
ナリニナッタカ知ラヌガ、頻ニ政府案ノ御説
明ヲナサタガ、例ヘバ市町村府縣會ノ議員
及府縣並ニ市ノ參事會ニ選舉權ヲ與ヘタト
云フ、是モ五十一議會、四十四議會ニ現レ
タル事デアアル、又條例規則ノ制定權ヲ與ヘル

ト云フコトモ同様デアアル、又臨時會招集ノ
權ヲ市町村會ニ與ヘルト云フコトモ是モ前
ニ出テ居ル原案執行權ノ範圍ヲ制限スルコ
トモ是モ前ニ現ハレテ居ル、許可權、認可
權ノ條項ヲ緩和シタルト云フコトモ、是モ前
ニ現ハレテ居ル、其他豫算削減權ヲ削除シ
タト云フコトモ、其他豫算削減權ヲ削除シ
タト云フコトモ、皆是モ前ニ出テ居ル
問題デアアル、普通ナラバソレデ宜イ、今回
ノ如キ地方分權ノ實ヲ舉ゲタルト云フノニ、斯
ンナ平凡ナ案ガ何處ニアル(拍手)ソレヨリ
モ同ジ今マデ議會ニ現レ、若クハ委員會ニ
現レタ、總テノ希望ヲ取入レルト云フナラ
バ、何故是ヨリモウ一步進ンダ案ヲ入レラ
レヌカ(委員會デアハ原案ニ賛成シタガヤナ
イカ)ト呼フ者アリ、今聽イテ居ル、分
ル例ヘバ知事公選ノ如キ、政友會ガ多年
唱ヘ來タモノデアアル、ソレヲ何故今回入
ナイカ、兩稅委員案ニ伴ウテ此地方制度ノ改
正案ヲ出スト云フ、其兩稅委員案ハ數年前カ
ラ政友會デ唱ヘテ居ル、知事公選モ數年前
カラ唱ヘテ居ル、然ラバ何故同時ニ之ヲ出
サナイノデアアルカ、又婦人公民權ノ如キデ
モ、此是非ハ既ニ論ジ盡サレテ居ルカラ言
フ必要ハナイノデアアル、是等何故今回入
レナイノデアアルカ、是モ數年前カラノ問題
デアアルノデアアル、殊ニ此婦人公民權ノ事
ニ付テハ、第五十二議會ニ政友會ノ高橋熊次
郎君外四名カラ建議案ヲ提出シテ、此衆議
院ハ滿場一致通過シテ居ルノデハナイ
カ、然ラバソレカラ以後何故之ヲ提案スル
ダケノ順序ヲ取ラナイノデアアルカ、現内閣
成立以來既ニ滿二箇年デアアル、其間ニ幾ラ
デモ此準備ハ出來ルノデアアル、五十議會以
來數年ヲ經過シテ居ルノデアアル、政友會ト
シテモ是位ノ案ハ出來テ居ル筈デアアル、唯
徒ニ時期尙早ニ名ヲ藉リテ、一時ヲ糊塗ス
ルトハ何事デアアル(拍手)只今望月内務大臣
ガ星島君ノ質問ニ對スル御答ニハ、相當ノ
時期ヲ以テ之ヲ實現スル、相當ノ時期トハ
何時ノコトカ、三年先モ相當ノ時期、五年
先モ相當ノ時期、斯ンナ事ニ満足ヲシテ、
今マデ婦人公民權ノ意見ヲ主張シテ居ル

政友會ノ諸君ガ、弊履ヲ拾ツルガ如ク之ヲ
撤回シテシマツトハ何事デアル(拍手) 若
モ此ガ黨議ヲ以テ束縛サレテノ事デアツタ
ナラバ、此婦人公民權ヲ付與スベシト云フ、
是案ガ黨議ヲ以テ縛ラレタノデアツタナラ
バ、或ハ後日ニ至テ...

〔此時發言スル者多シ〕

○副議長(清瀬一郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○村松恒一郎君(續) 其意見ヲ聽スト云フ

コトガアルカモ知レナイ、然ルニ是ハ政友
會ニ於テ自由問題トシタノデアル、之ニ提
案者トナリ賛成シタ諸君ハ、自由意思ヲ以
テ之ニ賛成ヲシ提案ヲ致シタノデアル、諸
君ノ自由意思ハ尊イモノデアル、苟モ婦人
ニ公民權ヲ付與スベシト云フ意思ヲ定メタ
以上、男子トシテ徒ニ之ヲ聽スベキモノデ
ハナイ、清水君モ言ハレタ通り、過日西岡
君ノ如キハ自己ノ人格ヲ信ジテ吳レトマデ
言フノデアル、ソレガ一朝ニシテ弊履ヲ拾
ツルガ如ク、自分達ノ主張ヲ撤回シテシマ
フトハ何事デアルカ(拍手) 政友會ノ諸君ハ
面目ト云フコトヲ御承知ニナシテ居ルノデ
アルカ、政友會ノ諸君ハ恥ヲ知ルコト云フコ
トヲ御承知ニナシテ居ルノデアルカ(拍手)
苟モ男子ガ政治上ノ意見ヲ定メテ議會ニ提
出シタモノヲ、漠然タル、——相當ノ時期
ニ實現スルナド、云フ甘イ言葉ニ瞞サレ
テ、寧ろ八百長ノナス様ナ答辯ヲ得テ、ソ
レデ甘ジテ此案ヲ撤回スルトハ何事デアル
カ(拍手) 恥ヲ知ラナイノモ甚シイト謂ハナ
レバナラヌ、ソレカラ市町村長ヲ一般公
民カラ選舉スルト云フコトモ、多年諸君ノ
唱ヘラレテ居タコトデアル、是モ今迄五十
一議會ニモ四十四議會ニモ出テ居ル、然ル
ニ是モ一切顧ミナイ、言貴ト云フコトヲ一
體諸君ハ御承知ニナシテ居ルノカ居ナイノ
カ、苟モ立憲政治ニ參與シテ、ソレ位ノ事
ハ御承知デナケレバナラヌ答デアル、斯ノ
如キ重大ナル問題ハ、一ツモ今度ノ案ニ入
レラレテナシカ、之ヲ地方分權トハ何事ダ、
又苟モ地方分權ト云フナラバ、彼ノ多年此
議會ノ問題トナシテ居ル特別市制、即チ此
大都市制度ノ如キハ、速ニ之ヲ解決シナケ

レバナラヌノデアル、此問題ハ困難ハ困難
デアルガ、困難デアルケレドモ、苟モ勇氣
ヲ以テ解決スレバ出來ナイコトハナイノデ
アル、研究サレ調査サレルコト既ニ三十年、
内務省ニモ山ノ如ク案ガ出來テ居ルノデ
アル、他ノ關係ノ市ニモ山ノ如ク案ガ出來
テ居ルノデアル、政府若シ勇氣ヲ以テ之ヲ斷
行セントスレバ直グ出來ルト思フ、ソレヲ
何時ノ場合モ調査タタ言フテ之ヲ延期シ
テ居ル、是デ地方分權トハ何ダ、地方分權
ナラ第一ニ之ヲヤラナケレバナラヌ、若シ
又此特別市制ガ困難デアルト云フナラバ、
暫ク是ハ寛恕シテモ宜シイ、然ルニ大正十
一年ニ原内閣ノ時ニ、區制案ト云フモノヲ
出シタノハ諸君御承知デアラウ、是ハ衆議
院ヲ滿場一致ヲ以テ通過シテ居ル、此區制
案ハ即チ大都市制度ノ先驅デアルノデアル、
是ハ既ニ政府案トシテ出シタノデ、而モ
政友會内閣ノ時ニ出シタノデアル、然ラバ
政府ハ今回斯様ナ地方制度ノ大改正ヲスル
場合ニハ、此區制案モ同時ニ提出スルノガ
是ガ當然ナ事柄デアル、然ルニ是亦殆ド忘
レタルガ如ク、恐ラク忘レテ居ルノデアラ
ウ、斯ノ如ク無責任ナルコトハ忘レタルノ
イ(君ハ革新俱樂部ノコトハ忘レタルノカ)
ト呼フ者アリ) 忘レテハ居ナイ、私ハ革新
俱樂部ニハ一度モ入タコトハアリマセヌ、
大正六年ニ普通選舉案ノ時、舊國民黨ト意
見ヲ異ニシテ別レタカラ、吾々革新俱樂部
ト行動ヲ共ニシタコトハナイ(拍手) ソレカ
ラ今迄地方制度改正ノ都度問題トナタ地
方公吏ノ優遇問題ハドウデアルカ、市町村
長其他地方ノ公吏ニ對シテ、モウ少シ優遇
ヲセヨト云フコトハ、是亦建議案モ通過シ
テ居レバ、屢、本會及委員會デモ述ベラレ
タコトデアル、是レ以テ今回ノ案ニハ見エ
テ居ナイデヤナイカ、市町村長ニ對シテ叙
勳ノ途ハ開カレテ居ルガ、事實ニ於テハ少
シモ是ガ實現シテハ居ナイ、斯様ナ無責任
ナコトハナイデヤナイカ、而モ大口君ハ多
年此事ヲ唱ヘラレテ居ル——苟モ斯ノ如
キ、政府ノ言フガ如キコトガ果シテ事實デ
アルナラバ、地方分權ノ爲ノ劃期的ノ大改

正デアル以上、斯様ナ事ハドウシテモ入レ
ナケレバナラヌ譯デアル(拍手) 是デ以テ是
ガ二十一年四月ノ地方制度發布以來ノ大改
革デアルナド、ハ何事デアルカ、如何ニ賣藥
ノ效能書ト雖モ餘リニ甚シイ、モウ少シ徹
底ヲシタモウ少シ意義ノアル案ヲ出スコト
ガ出來ナイノカ、唯併ナガラ現在ノ政府ノ
改正案ニ取入レテアル所ハ、其部分ハ是迄
ノ本會及委員會、即チ五十一議會及四十四
議會ニ於テ、我黨ハ人々ノ希望シタ所ノ箇
條ガ多ク取入レラレテアルカラ、ソレデ吾
吾ハ之ニ賛成スルノデアル、又兎ニモ角ニ
モ現行法ヨリハ、一分デモ二分デモ進ンデ
居ルカラ、其點ニ於テ吾々ハ滿々ナガラ賛
成ヲシテ居ル、如何ニモ地方制度ノ大改革
デアル如ク吹聴スル政府ノ案ニ賛成スルマ
デナイト云フコトダケヲ明ニシテ置キマ
ス、次ハ政友會ガ今回突如トシテ府縣會議
員ノ選舉ニ分區ヲ設ケルコトノ案ヲ提出サ
レタ、是ハ私共ガ委員會ニ臨ミマシタ際ニ
ハ、政友會ノ案トシテ聽イテ居タモノ、
中ニハ入レテ居ナイデ、突如トシテ最後ノ
日ニ提出サレタ、而モ殆ド其理由モ明ニセ
ズシテ之ヲ可決サレテシマツタノデアラウ、
既ニ是迄ノ諸君モ述ベラレタ通り、此府縣
議員ノ選舉ニ分區ヲ設ケルコトハ、大正
十一年ニ矢張政友會ノ内閣ノ時ニ出タ、大
正十一年ニ出タコト云ヘバ、大正九年ニ政友
會ハ小選舉區ヲ始メテ實施シテ、過半数ノ
頭數ヲ得タノニ味ヲ占メテ、サウシテ府縣
會議員モ同ジヤウニ基礎ヲ固メンガ爲ニ、十
一年ニ小分區ト云フモノヲ考ヘタ、然ルニ
此小分區ニ付テハ非常ニ弊害ガアル、是ハ
小選舉區ニ對スル弊害ト同ジデ、選舉干涉
モ、買収モ、之ニ依テ出來易イ、其他ニモ
色々ナ弊害ガ此小分區選舉區カラ起ルカ
ラ、十五年ニ於テ若槻内閣ノ時ニ之ヲ廢シ
タ、之ヲ廢シテマダ數年モ經タナイノニ、
復タ再ビ之ヲ元ノ小分區ニ引戻サウト云フ
コトハ、要スルニ黨勢擴張ノ外何モノモナ
イ、間クガ如シバ政友會及新黨ハ、衆議院
議員選舉法ノ別表ヲ改正シテ、小選舉區ニ
スルト云フ案ガ近日提出サレルサウデアル

ガ、要スルニ府縣會ノ小分區ハ此前驅ヲ爲
スモノデアル、兩方共同ジデ、詰リハ黨
勢擴張ノ意味デ來タノダ、アノ大正九年ノ
有様ハドウデアル、成程政友會ハ一舉ニシ
テ過半数ヲ得タ、其過半数ヲ得タノハ何デ
アル、小選舉タルコトヲ利用シテ、極度ノ
選舉干涉ヲヤツテ、漸ク頭數ヲ殖ヤシタノ
デアル(拍手) 小選舉區ニ對スル弊害ニ付
テハ、是マデ論ジ盡サレテ居リマスカラ
私ハ略シマスガ、又之ヲ實行スルコトニナ
レバ、又舊日ノ弊害ヲ繰返スコトニナル
ノデアリマス、ソレ故ニ私ハ之ニ反對ヲ
致スノデアル、ソレカラ次ニ政友會デ
ハ、補關選舉ノ際ニ六分ノ一以上缺員ノア
タ時ニ補關選舉ヲ行フコトニシテ居ル、
我黨ハ之ヲ五分ノ一ト云フコトニ致シ
タ、是ハ何處ニ違ヒガアルカト云ヘバ、
今日町村會ノ最少數ハ十二人デアル、十二
人ヲ六デ割レバ二ニナル、此二ト云フコト
カラ二人以上ニナシテ始メテ補關選舉ヲ行
フコトニナシテ居ルノデアリマスガ、二人
モ行フト云フコトニ付テハ、或ハ三輪委員
長ノ一個ノ御意見カモ知レマセヌガ、二人
デモ補關選舉ヲ行フト云フコトデハ、是デ
ハ殆ド一人ト二人ノ違ヒ、其煩雜ナルコ
トハ同ジデアル、若シ之ヲ五分ノ一トスレ
バ、十二ヲ五デ割レバ、後二ト云フ餘剩
ガ出テ分數ガ出ルノデアル、此意味カラ申
セバ、二人以上ノ時ニ始メテ補關選舉ヲ行
フ、即チ三人ノ缺員ニナシテ始メテ補關
選舉ヲ行フト云フコトガ意味ガ明ニナルカ
ラ、我黨ハ、之ヲ五分ノ一ト致シタノデア
ル、ソレカラ次ニハ職務管掌ノ事デアリマ
スガ、常識ヲ以テ考ヘタナラバ、市長ノ差
支、即チ市長ノ缺員デモアツタ場合ニハ、助
役ガ之ニ代ル、又收入役ガ差支ガアレバ副
收入役ガ代ル、其市長モ助役モ、町村長モ
助役モ無シ、或ハ收入役モ副收入役モ全部
無カタ時ニ、始メテ職務管掌ヲ置クト云
フコトハ、是ハ法律ノ明文ノ上カラ明デア
ル、然ルニ此百六十四條デアリマシタカ——
市制ノ百六十四條、町村制ノ百四十四條デ
アリマスガ、如何ニモ吾々常識ヲ以テ考ヘ

テハ、市長カ若クハ助役ノ在ル場合、町村長カ若クハ助役ノ在ル場合ニ、職務管掌ヲ置クト云フ間隙ハ無イ筈デアルト思フ、私ハ之ニ付テ過日委員會デ地方局長ニ尋ネルト、假ニ市長ノ差支ガアツテ助役ガ代々場合ニ、ソコデ職務管掌ヲ置ケバ、市長ノ差支ト云フコトガ無クナツテ來ルカラ、最早助役ガ代理ヲスル必要ガ無イ、隨テ其職務管掌ガ行ハレルノデアアル、斯様ニ解釋ヲスル、是ハ苟モ吾々常識ヲ以テ判斷スルコトハ出來ナイ、是ハ要スルニ不備ナル法文ヲ故意ニ解釋シテ、斯様ナコトニシテ、サウシテソレヲ事實ノ上ニ適用シテ、屢、アノ熊本縣ノ如キコトヲ繰返スノデアアル、是ハ明ニ地方政治ノ蹂躪デアアル、自治制ノ蹂躪デアアルノデアアル、ソレ故ニ吾々ハ之ヲ改正シテ、市長、町村長若クハ助役共ニ缺員ノアル場合デナケレバ、職務管掌ヲ置カナイト云フコトニ致シタノデアアル、是ハ極メテ大切ナル事柄デアアル、今日政友會ノ諸君ハ、政友會ガ多數デアアルカラ、自分ノ都合ノ好イヤウニ解釋ヲシテ居ラレル、若シ他ノ政黨ガアツテ、是ト同ジ事ヲヤツタ時ニハ如何デアアルカ、是ハ政黨ノ問題デハナイノデアアル、總テノ政黨ヲ通ジテ、斯ノ如キ曖昧ナル法文ハ、之ヲ明ニスル必要ガアルト思フノデアアル、ソレ故ニ私ハ政友會ノ修正ニハ反對ヲ致シ、我黨ノ少數意見ヲ支持スル次第デアリマスカラ、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス(拍手)

〔贊成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、此修正ハ選舉區區分制度ニ關スルモノデアリマス、委員長報告ノ此修正ノ部分ニ贊成ノ諸君ハ起立

〔贊成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ委員長報告ノ修正ノ部分ハ可決サレマシタ(拍手)修正ノ部分以外ノ部分ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

〔贊成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、其通り決シマシタ、次ニ他ノ四案ニ付キ採擇ヲ致スノデアリマス、此中市制中改正法律案、町村制中改正法律案、北海道會法中改正法律案ノ三案ニ對シテハ、清水君外八名提出ノ修正ト、委員長報告ノ修正トノ、二ツノ修正ガアリマス、此修正中補關選舉ニ關スル點ハ、清水君ノ修正ト、委員長報告ノ修正トハ、趣旨ニ於テハ同一デアリマスルガ、手續其地ノ點ニ於テ相違致シテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ是ハ別個ノモノトシテ取扱ヒタイト思ヒマス、ソレニ御異議アリマセヌカ

〔贊成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ左様計ラヒマス、先ヅ清水君ノ修正中、市制中改正法律案、町村制中改正法律案、北海道會法中改正法律案ノ三案ニ對シテ「女子ニ公民權ヲ與フル」ト云フ點、此點ハ三案トモ共通デアリマスカラ、一括シテ此修正ノ點ニ付キ採決致シマス、清水君ノ此三案ニ對スル修正、即チ女子ノ公民權ヲ認メルコトノ修正ノ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 少數デアリマス、仍テ三案ニ對スル清水君外八名提出ノ修正案ハ否決サレマシタ(拍手)次ニ清水君ノ修正中、市制中改正法律案、町村制中改正法律案ノ兩案ニ對シ、補關選舉ニ關スル點ト、職務管掌ニ關スル點ト修正ハ兩案トモ共通デアリマス、之ヲ一括シテ採決致シマス、此二ツノ修正ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ、次ニ北海道地方費法中改正法律案ハ、委員長報告ハ可決デアリマス、委員長報告通り御異議アリマセヌカ

〔贊成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ、次ニ北海道地方費法中改正法律案ハ、委員長報告ハ可決デアリマス、委員長報告通り御異議アリマセヌカ

〔贊成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ、次ニ北海道地方費法中改正法律案ハ、委員長報告ハ可決デアリマス、委員長報告通り御異議アリマセヌカ

〔贊成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 起立少數デアリマス、仍テ清水君外八名提出ノ修正案ハ否決出ラレマシタ(拍手)之ニテ清水君外八名提出ノ修正案ハ、全部否決サレタノデアリマス、次ニ市制中改正法律案、町村制中改正法律案ノ兩案ノ委員長報告ハ、是亦修正デアリマス、此修正ハ補關選舉ニ關シテ居リマス、先ヅ此點ニ付テ採決致シマス、此兩案ノ委員長報告ノ修正部分ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數デアリマス、仍テ兩案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ、兩案ノ修正部分以外ノ部分ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ五案トモ可決確定致シマシタ(拍手)此際報告致スコトガアリマス、明三月六日ハ水曜日デアリマスガ、議案審査上特ニ必要アリト認メ、午後一時ヨリ本會議ヲ開キマス、日程ハ公報ヲ以テ御報告致シマス

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ、次ニ北海道會法中改正法律案ノ委員長報告ニ付テ採決致シマス、此案ノ委員長報告モ亦修正デアリマシテ、選舉區々分ニ關スル點デアリマス、委員長報告ノ修正ノ部分ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ、次ニ北海道會法中改正法律案ノ委員長報告ニ付テ採決致シマス、此案ノ委員長報告モ亦修正デアリマシテ、選舉區々分ニ關スル點デアリマス、委員長報告ノ修正ノ部分ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ、次ニ北海道會法中改正法律案ノ委員長報告ニ付テ採決致シマス、此案ノ委員長報告モ亦修正デアリマシテ、選舉區々分ニ關スル點デアリマス、委員長報告ノ修正ノ部分ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ、次ニ北海道會法中改正法律案ノ委員長報告ニ付テ採決致シマス、此案ノ委員長報告モ亦修正デアリマシテ、選舉區々分ニ關スル點デアリマス、委員長報告ノ修正ノ部分ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ、次ニ北海道會法中改正法律案ノ委員長報告ニ付テ採決致シマス、此案ノ委員長報告モ亦修正デアリマシテ、選舉區々分ニ關スル點デアリマス、委員長報告ノ修正ノ部分ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ、次ニ北海道會法中改正法律案ノ委員長報告ニ付テ採決致シマス、此案ノ委員長報告モ亦修正デアリマシテ、選舉區々分ニ關スル點デアリマス、委員長報告ノ修正ノ部分ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ、次ニ北海道會法中改正法律案ノ委員長報告ニ付テ採決致シマス、此案ノ委員長報告モ亦修正デアリマシテ、選舉區々分ニ關スル點デアリマス、委員長報告ノ修正ノ部分ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ、次ニ北海道會法中改正法律案ノ委員長報告ニ付テ採決致シマス、此案ノ委員長報告モ亦修正デアリマシテ、選舉區々分ニ關スル點デアリマス、委員長報告ノ修正ノ部分ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ本案ノ委員長報告ノ修正ノ部分ハ、可決致シマシタ(拍手)修正ノ部分以外ハ、原案ノ通り御異議アリマセヌカ

衆議院議事速記第二十四號中正誤		頁		行		誤	
五〇七	二	三四	關稅定率法中改正法律	案外一件委員	辭任	勝正憲君補關澤本與	正
五二二	二	三八	不都合ハ	不都合デハ	職務ヲ失フ	職務ヲ失フ	
五二四	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五二五	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五二六	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五二七	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五二八	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五二九	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五三〇	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五三一	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五三二	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五三三	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五三四	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五三五	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五三六	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五三七	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五三八	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五三九	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	
五四〇	三	四〇	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	預金部委員會	